

# 唐越遺跡

2016 年 3 月

南陽市教育委員會

からこし  
**唐越遺跡**

南陽市埋蔵文化財調査報告書第12集

平成28年3月

南陽市教育委員会



唐越遺跡A区完掘状況（西より）



唐越遺跡A区完掘状況（南西より）



唐越遺跡B区完掘状況（西より）



E P 1018 土器出土状況（南より）

# 序

この度、「唐越遺跡発掘調査報告書」を発行する運びとなりました。

本書は、市文化会館整備事業に伴い埋蔵文化財の記録と作成のために南陽市教育委員会が実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

唐越遺跡は、市内赤湯地区の三間通及び沖郷地区の若狭郷屋に位置し、沖郷地区の郡山を中心とする置賜郡衙関連の郡山遺跡群のひとつです。調査は平成24年10月及び11月に試掘調査、平成25年4～10月及び平成26年10月に本調査、平成26年11～12月に立会調査を実施しました。これら成果から、平安時代の郡衙関連遺跡として、郡山郡衙の実態解明にむけた理解が深まるものと存じます。

本市は、北に丘陵、南に沃野と豊かな自然に恵まれ、旧石器時代から中世に至る多くの遺跡が存在します。人々が生活した住居跡・古墳・役所跡・城館等の「遺跡」と、石器や土器等の「遺物」は、大地に埋まっている貴重な文化財という意味から「埋蔵文化財」といいますが、市内の至る所に悠久の歴史を物語るこの埋蔵文化財が眠っています。

現代に生きる私たちは、埋蔵文化財を大切にし、やむを得ず破壊される場合は、記録として保存し、歴史を後世に引き継いでいく責任があります。

結びに、本調査にご指導とご協力をいただいた佐藤鎮雄先生、佐藤庄一先生をはじめとする関係各位に、厚く感謝を申し上げます。

平成28年3月

南陽市教育委員会

教育長 猪野 忠

本書は、南陽市文化会館建設に係る「唐越遺跡」の発掘調査報告書である。  
既刊の概報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。  
調査は、南陽市教育委員会が実施した。  
出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

調査要項

遺 跡 名	唐越遺跡			
遺 跡 番 号	平成 25 年度登録			
所 在 地	山形県南陽市三間通字唐越、西唐越、中唐越、若狹郷屋字の場			
調 査 主 体	南陽市教育委員会			
調査実施機関	南陽市教育委員会スポーツ文化課埋蔵文化財係			
調 査 期 間	第1次調査 平成 25 年 5 月 8 日～ 10 月 18 日 第2次調査 平成 26 年 10 月 7 日～ 12 月 6 日			
調査担当者	スポーツ文化課長	江口和浩	スポーツ文化課長補佐 (兼理蔵文化財係長)	角田朋行
報告書作成担当者	埋蔵文化財係	鈴木輝生	嘱託	吉田江美子
	社会教育課長	田中吉弘	社会教育課長補佐 (兼理蔵文化財係長)	角田朋行
	埋蔵文化財係	鈴木輝生		
	嘱託	吉田江美子	山田 楠 岩瀬順子 佐藤加奈子	
調査指導	山形県教育庁文化財・生涯学習課	佐藤鎮雄	佐藤庄一	

## 凡　　例

- 1 本書の執筆は、Ⅰ・Ⅱは角田朋行、Ⅲ・Ⅳは吉田江美子、写真撮影は山田渚が担当した。Vは三上喜孝（国立歴史民俗博物館）に依頼した。
- 2 遺構図に付す高さは海拔高で表す。方位は真北を示す。
- 3 本書で使用した遺構の分類記号は下記のとおりである。

S A ··· 柵列	S B ··· 掘立柱建物跡	S D ··· 溝跡	
S K ··· 土坑	S P ··· ピット	S T ··· 竪穴住居跡	
S X ··· 性格不明遺構			
R P ··· 登録土器	P ··· 土器	W ··· 木製品	S ··· 石
- 4 遺構実測図の縮尺は各図に示し、各々スケールを付した。遺物実測図は1/3で採録している。
- 5 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 6 墨書の「□」は、解読不明文字を示す。
- 7 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」によった。
- 8 発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。（敬称略）

佐藤鎮雄	佐藤庄一	三上喜孝	荒木志伸	阿部明彦
伊藤邦弘	高桑　登	高桑弘美		
- 9 委託業務は下記のとおりである。

遺構測量図化業務	株式会社パスコ
----------	---------

# 目 次

I 調査の経緯.....	1	I 検出遺構 .....	8
1 調査に至る経過.....	1	A区.....	8
2 調査の概要.....	1	B区.....	68
II 遺跡の立地と環境.....	3	2 出土遺物 .....	91
1 地理的環境.....	3	IVまとめ.....	121
2 歴史的環境.....	3	V 木簡积文.....	123
III 遺跡の概要.....	8		

## 図 版

第1図 唐越遺跡調査区配置略図 .....	2	第24図 S B 2掘立柱建物跡 .....	35
第2図 南陽市遺跡位置図 .....	5	第25図 S B 3掘立柱建物跡 .....	36
第3図 唐越遺跡 基本層序（A区）.....	6	第26図 S B 4掘立柱建物跡 .....	37
第4図 唐越遺跡 グリッド配置図 .....	6	第27図 S B 5掘立柱建物跡 .....	38
第5図 A区 遺構配置図（1）.....	10	第28図 S B 6掘立柱建物跡 .....	39
第6図 A区 遺構配置図（2）.....	11	第29図 S B 7掘立柱建物跡 .....	40
第7図 A区 遺構配置図（3）.....	12	第30図 S B 8掘立柱建物跡 .....	41
第8図 A区 遺構配置図（4）.....	13	第31図 S B 9掘立柱建物跡 .....	42
第9図 A区 遺構配置図（5）.....	14	第32図 S B 10掘立柱建物跡 .....	43
第10図 A区 遺構配置図（6）.....	15	第33図 S B 11掘立柱建物跡 .....	44
第11図 A区 遺構配置図（7）.....	16	第34図 S B 12掘立柱建物跡 .....	45
第12図 A区 遺構配置図（8）.....	17	第35図 S B 13掘立柱建物跡（1）.....	46
第13図 A区 遺構配置図（9）.....	18	第36図 S B 13掘立柱建物跡（2）.....	47
第14図 A区 遺構配置図（10）.....	19	第37図 S B 14掘立柱建物跡 .....	48
第15図 A区 遺構配置図（11）.....	20	第38図 S B 15・16・17掘立柱建物跡 .....	49
第16図 A区 遺構配置図（12）.....	21	第39図 S B 18掘立柱建物跡 .....	51
第17図 A区 遺構配置図（S = 1/300）.....	22～23	第40図 S B 19掘立柱建物跡 .....	52
第18図 S T 2690 穫穴住居跡（1）.....	27	第41図 S B 22掘立柱建物跡 .....	53
第19図 S T 2690 穫穴住居跡（2）.....	28	第42図 S B 20・21掘立柱建物跡（1）.....	54
第20図 S T 2691 穫穴住居跡.....	29	第43図 S B 20・21掘立柱建物跡（2）.....	
第21図 S T 2697 穫穴住居跡.....	31	A区 S K・S P・E U土器出土状況.....	55
第22図 S B 1掘立柱建物跡（1）.....	32	第44図 S B 23掘立柱建物跡 .....	56
第23図 S B 1掘立柱建物跡（2）.....	33	第45図 S B 24掘立柱建物跡 .....	58

第 46 図	S D 2658・2646 周溝（1）	59	第 70 図	S B 33 掘立柱建物跡	84
第 47 図	S D 2658・2646 周溝（2）	60	第 71 図	S D3534・3542 区画溝	85
第 48 図	R P 17 須恵器出土状況	63	第 72 図	A 区 窒穴住居跡 出土遺物	93
第 49 図	S D 2648 区画溝	62～63	第 73 図	A 区 溝跡 出土遺物（1）	94
第 50 図	S D 2677 溝 遺物出土状況	64	第 74 図	A 区 溝跡 出土遺物（2）	95
第 51 図	S D I 溝	64～65	第 75 図	A 区 溝跡・土坑 出土遺物	96
第 52 図	溝群（1）	66	第 76 図	A 区 土坑・ピット 出土遺物	97
第 53 図	溝群（2）	67	第 77 図	A 区 ピット 出土遺物	98
第 54 図	B 区 遺構配置図（1）	68	第 78 図	A 区 遺構外 出土遺物（1）	99
第 55 図	B 区 遺構配置図（2）	69	第 79 図	A 区 遺構外 出土遺物（2）	100
第 56 図	B 区 遺構配置図（3）	70	第 80 図	A 区 遺構外 出土遺物（3）	101
第 57 図	C 区・D 区 遺構配置図	71	第 81 図	A 区 遺構外 出土遺物（4）	102
第 58 図	B 区・C 区・D 区 遺構配置図	72	第 82 図	A 区 遺構外 出土遺物（5）	103
第 59 図	S E 3020 井戸跡	74	第 83 図	B 区 井戸跡 出土遺物（1）	104
第 60 図	S E 3566・3355 井戸跡	73	第 84 図	B 区 井戸跡 出土遺物（2）	105
第 61 図	S B 25 掘立柱建物跡	77	第 85 図	B 区 溝跡・土坑 出土遺物	106
第 62 図	S B 26 掘立柱建物跡	78	第 86 図	B 区 土坑 出土遺物	107
第 63 図	E P 1019 遺物出土状況	78	第 87 図	B 区 ピット・柵列 出土遺物	108
第 64 図	S B 27 掘立柱建物跡	79	第 88 図	B 区 遺構外 出土遺物	109
第 65 図	S B 28 掘立柱建物跡	80	第 89 図	B 区 遺構外 出土遺物・木製品	110
第 66 図	S B 29 掘立柱建物跡	82	第 90 図	C 区 出土遺物	111
第 67 図	S B 30 掘立柱建物跡	82	第 91 図	C 区・D 区 遺構外 出土遺物	112
第 68 図	S B 31 掘立柱建物跡	83	第 92 図	D 区 遺構外 出土遺物	113
第 69 図	S B 32 掘立柱建物跡	83			

## 表

表 1	遺跡位置図	4	表 8	遺物観察表（2）	115
表 2	遺構観察表（1）	86	表 9	遺物観察表（3）	116
表 3	遺構観察表（2）	87	表 10	遺物観察表（4）	117
表 4	遺構観察表（3）	88	表 11	遺物観察表（5）	118
表 5	遺構観察表（4）	89	表 12	遺物観察表（6）	119
表 6	遺構観察表（5）	90	表 13	遺物観察表（7）	120
表 7	遺物観察表（1）	114			

## 写 真 図 版

巻頭写真1	A区完掘状況	写真図版 23	S T 2691・S D 2677 出土遺物
巻頭写真2	B区完掘状況	写真図版 24	S D 2648 出土遺物
E P 1018	土器出土状況	写真図版 25	A区溝跡出土遺物
写真図版1	A区遺構検出状況	写真図版 26	S D 2648 出土遺物
写真図版2	A区調査区全景	写真図版 27	S D 2648・2687 出土遺物
写真図版3	A区完掘状況	写真図版 28	S K 2660 出土遺物
写真図版4	A区遺物出土状況	写真図版 29	S K 2684・E U 1216 出土遺物
写真図版5	S T 2690 調査状況	写真図版 30～31	土坑・ピット出土遺物
写真図版6	S T 2691 調査状況	写真図版 32	木製品・遺構外出土遺物
写真図版7	S T 2697 調査状況	写真図版 33～42	A区遺構外出土遺物
写真図版8	S B 1 調査状況	写真図版 43～46	B区遺井戸跡出土遺物
写真図版9～12	溝群調査状況	写真図版 47～49	B区土坑出土遺物
写真図版13	S D 2648 調査状況	写真図版 50	B区土坑・ピット出土遺物
写真図版14	A区調査状況	写真図版 51～52	B区ピット出土遺物
写真図版15	B区調査状況	写真図版 53	B区ピット・遺構外出土遺物
写真図版16	B区井戸跡調査状況	写真図版 54～55	B区遺構外出土遺物
写真図版17	B区遺物出土状況	写真図版 56	B区木製品・C区出土遺物
写真図版18～19	C区・D区調査状況	写真図版 57	C区出土遺物
写真図版20	陶硯・木簡	写真図版 58	C区遺構外出土遺物
写真図版21	A区溝跡出土遺物	写真図版 59	D区遺構外出土遺物
写真図版22	S T 2690 出土遺物	写真図版 60～61	D区遺構外出土遺物

# I 調査の経緯

## 1 調査に至る経過

唐越遺跡は三間通地区及び若狭郷屋地区に所在する。遺跡内に市文化会館の建設計画が生じたことから、埋蔵文化財保護を図るために対応を実施した。

平成 24 年度に今次調査地について協議がなされ、市教育委員会が試掘調査を実施したところ、繩文時代の遺物及び平安時代の遺物及び柱穴等の遺構が検出されたことから、平成 25 ～ 26 年度に市教育委員会が本調査及び立会調査を実施した。

## 2 調査の概要

調査は、事業地内 4,709 m<sup>2</sup>（A 区 3,000 m<sup>2</sup>、B 区 800 m<sup>2</sup>、市道部：909 m<sup>2</sup>）を対象として、A 区は平成 25 年 4 月 15 日から 9 月 13 日まで、B 区は平成 25 年 9 月 13 日から 10 月 18 日まで、市道部（C 区、D 区、E 区）は平成 26 年 10 月 7 日から 12 月 6 日まで、本調査及び立会調査を行い、のべ 59 日間実施した。

### 平成 25 年

- 4 月 15 日～21 日 重機による盛土除去開始。
- 4 月 22 日～26 日 重機による表土剥離作業
- 4 月 24 日～30 日 グリット杭設置作業
- 5 月 7 日 資材運搬、テント設営、A 3・A 4 グリットから粗掘りを開始。
- 5 月 7 日～27 日 A グリットから 1 グリット方向へ粗掘り
- 5 月 28 日～6 月 10 日 粗掘りと並行し、面整理を開始。
- 6 月 11 日～ 面整理を実施。竪穴住居、掘立柱建物、溝跡等を検出
- 6 月 21 日 A 区西北側に並列する溝跡群を検出
- 6 月 25 日～ 柱穴等精査開始
- 6 月 28 日 合口甕記録、写真撮影
- 7 月 3 日 遺構検出状況写真撮影

7 月 10 日～ 柱穴掘下げ、溝跡ベルト設定・掘下げ、記録、写真撮影開始

- 7 月 26 日～ 柱穴等完掘開始
- 8 月 23 日 B 区重機で粗堀を実施
- 8 月 29 日～ 竪穴住居掘下げ、柱穴半裁、平面図作成・写真撮影
- 9 月 6 日 竪穴住居記録、グリット杭除去を開始
- 9 月 11 日～12 日 全体清掃
- 9 月 13 日 航空測量写真撮影（A 区調査終了）、器材を B 区へ移動、B 区粗掘り開始
- 9 月 17 日～ B 区粗掘り、面整理開始
- 9 月 24 日～ 平面図作成開始
- 9 月 27 日 遺構検出状況写真撮影
- 9 月 27 日～ 柱穴半裁開始、溝跡掘下げ開始、記録・写真撮影開始
- 10 月 3 日～ 溝跡・S K ベルト記録開始、柱穴等完掘開始
- 10 月 15 日 柱穴等完掘終了、記録・写真撮影終了
- 10 月 18 日 全体清掃・完掘状況写真撮影（B 区終了）、資材撤収

### 平成 26 年

- ・立ち合い調査（G 区）
- 7 月 10 日掲台移設工事立会い
- ・本調査：市道部西半（C 区）
- 10 月 7 日 資材搬入作業、重機による盛土除去作業、試掘トレンチ 1・2 剖下げる
- 10 月 8 日～ 面整理開始、トレーニング 1・2 記録
- 10 月 10 日～ 遺構検出状況写真撮影、南壁断面図記録、柱穴半裁開始
- 10 月 14 日～ 柱穴等記録、写真撮影
- 10 月 15 日 竪穴住居掘下げ開始
- 10 月 16 日～ 平面図作成開始
- 10 月 20 日 全体清掃・完掘状況写真撮影（市道

## I 調査の経緯

部西半本調査終了)

- 立会調査：市道部東半（D区・E区）

11月17日 東端（E区）から重機による盛土除去及び既存水路撤去作業

11月18日 E区遺構・遺物なし、E区南壁断面図記録

11月19日 E区立会終了、D区既存水路除去作業

11月20日～ D区西端から重機による盛土除去開始

11月21日～ 遺構・遺物検出、平面図作成、写真撮影開始

11月25日 D区立会終了

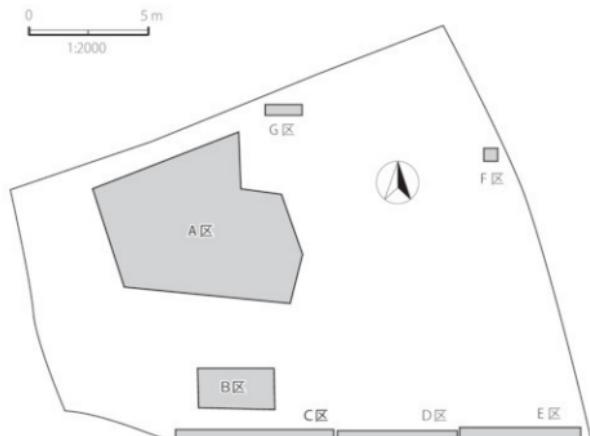
- 立会調査：市道西半部（C区）

用地関係により本調査で調査できなかった範囲について立会調査

11月28日～東端から重機による盛土除去開始

12月2日～ 遺構・遺物検出、平面図作成、写真撮影開始

12月6日 C区立会終了



第1図 唐越遺跡調査区配置略図

## II 遺跡の立地と環境

### 1 地理的環境

唐越遺跡は、山形県南陽市三間通字唐越・字中唐越・字西唐越及び若狭郷屋宇の場・字江中郷に所在する。南陽市郡山のJR奥羽本線赤湯駅から北へ約600m、国道113号線と山形鉄道フラワー長井線に挟まれ、遺跡の北半は市役所等の公共用地、南半は果樹園、水田、宅地となっている。

本遺跡が所在する南陽市は、山形県南部の置賜地方米沢盆地の北部に位置し、東西15km、南北24km、白鷹山山頂を北端とする三角形状の市域をなす。周囲は山々に囲まれ、東に奥羽山脈、南に吾妻連峰、北に白鷹丘陵、南西に飯豊連峰、北西に朝日連峰を望む。

市の面積は、約160Km<sup>2</sup>で、北部の山地が70%、南部の平地が30%である。気候は、盆地特有の内陸型気候を示し、寒暖差が大きい。積雪も比較的多く、年間降水量は1500mm前後を測る。

吉野の大庭山を源とする吉野川は、市内を北の丘陵地帯から南の平野部へと貫流している。吉野川は、かつては宮内から沖郷に向かって南流し、平野部西側の漆山を南流する織機川・上無川などと共に複合扇状地である宮内扇状地を形成し、宮崎付近で最上川に合流していた。現在は、宮内から赤湯に向かって東南方向に流れ、高畠町から西流する屋代川と合流した後に大橋付近で最上川に合流している。

市域南部を占める宮内扇状地は、吉野川、織機川、上無川などの中小河川の作用によって形成された複合扇状地である。扇状地を流れる各河川の流域には、流路沿いに自然堤防の微高地が形成されており、吉野川流域では、主に沖郷に流れる旧河道に沿って、宮内の閑口から沖郷の宮崎までその両岸に自然堤防がほぼ連続して形成されている。織機川・上無川流域では、梨郷の砂塚から沖郷の酒井まで河川の流路に沿って広範囲に自然堤防の広がりがみられる。織機川・上無川流域の自然堤防では粗砂（真砂土）の混入が多い砂質粘

土の堆積が多く見られる。

遺跡の所在地は、南流する吉野川によって形成された宮内扇状地の扇尖部から扇端にあたり、遺跡は自然堤防の微高地に立地する。吉野川は別名厨川と呼ばれ、現在は遺跡の東側約500mを南流しているが、古代における吉野川の本流は、遺跡の西側約500mを南流していたと考えられており、現在も遺跡の西側を厨川堰が通っている。遺跡は、置賜郡衙推定地区である郡山地区から北へ約1kmである。

### 2 歴史的環境

唐越遺跡の所在する南陽市では、平成27年度現在で274箇所の遺跡が確認されている。

旧石器時代の遺跡は、長岡山丘陵に立地する長岡山遺跡とその東側に位置する長岡山東遺跡が知られており、後期旧石器時代に属するとみられるナイフ形石器が見つかっている。

縄文時代の遺跡は、市内に広く分布している。縄文草創期の遺跡は、長岡山遺跡、北町遺跡、松沢遺跡が知られている。早期から中期の遺跡は数が多い。早期の遺跡では、大野平遺跡、月ノ木B遺跡、上大作遺跡が発掘調査されており、前期の遺跡では、総合公園内遺跡群（梨郷山中）、中期の遺跡では、長岡山遺跡、長岡山東遺跡、百刈田遺跡等で発掘調査が実施されている。後期・晩期の遺跡は、数が少なくなる傾向にあり、石畳遺跡、加藤屋敷遺跡等で発掘調査が実施されている。近年の分布調査で中川地区川樋盆地の岩部山周辺でも早期・前期の遺跡が確認されつつある。

弥生時代の遺跡は、宮内扇状地の扇尖部の旧吉野川沿いの自然堤防上に多く立地している。旧吉野川の上流から下流へ、沢見遺跡や中期の円田式や後期の天王山式並行の土器が出土した沢田遺跡、中期の土器と石包丁が採集された萩生田遺跡と続き、さらに1km下流の百刈田遺跡では、十数基の中期の再葬墓が確認されている。織機川沿いでは、中期の円田式の土器が採集

表1 遺跡位置図

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	唐越	集落跡	縄文・奈良～平安	58	北町	散布地	縄文
2	宮沢城	館、城館	中世	59	北前	散布地	縄文
3	宮内南館	館	中世	60	長静館	館	中世
4	慶海山館	館	中世	61	梅ノ木	散布地	奈良～平安
5	双松公園内	散布地	縄文・奈良～平安	62	井戸尻	散布地	奈良～平安
6	宮内熊野大社敷地内	散布地	縄文・平安	63	西畠	散布地	平安
7	久保	集落跡	縄文	64	馬ノ墓	散布地・古墳	古墳・奈良～平安
8	宮内小学校敷地内	集落跡	縄文	65	大塚	古墳・集落跡	古墳・古・奈～平
9	漆山館	館	中世	66	西中上	集落跡	奈良～平安
10	別所山経塚	経塚	平安（保延6年）	67	将監屋敷	散布地	奈良～平安
11	別所B	散布地	縄文	68	長割	散布地	古墳
12	別所A	散布地	平安	69	六角壇	散布地	奈良～平安
13	丸山館	館	中世	70	上河原	散布地	平安
14	東屋敷	散布地	奈良・平安	71	島貫	集落跡	奈良～平安
15	東高堰	散布地	弥生	72	沢田	集落跡	奈良～平安
16	富賀田	集落跡	縄文・奈良～平安	73	前畠	散布地	平安
17	斎藤館	館	中世	74	西原東	集落跡	奈良～平安
18	猫子前	散布地	縄文・奈良～平安	75	沢口	集落跡	奈良～平安
19	馬場	馬場	中世	76	間々ノ上	散布地	奈良
20	大清水	散布地	縄文・平安	77	調訪前	古墳・集落跡	縄文・古墳・平安
21	久根崎	集落跡	縄文	78	矢ノ目館	集落跡・館	奈良～平安・中世
22	源波平	散布地	縄文・平安	79	東六角	散布地	縄文・平安
23	源兵工山	散布地	縄文・古墳	80	早稻田	散布地	奈良
24	内原三	散布地・古墳	古墳	81	李の木	包蔵地	平安
25	蒲生田山古墳	古墳	古墳	82	桜井館	館	中世
26	山居沢山D	包蔵地	平安	83	村塙館／山	集落跡・館	縄文・中世
27	山居沢山B	古墳	古墳	84	富塚	散布地	古墳
28	山居沢山A	散布地	平安	85	沖田館	館	中世
29	清水上	墳墓・集落跡	古墳・平安	86	沖田	散布地	平安
30	蒲生田館	館跡	中世	87	前小屋	散布地	縄文
31	蒲生田館南	散布地	縄文・奈良～平安	88	百引田	集落跡・墓跡	縄・赤・古・奈～平・中・近
32	当時作	散布地	縄文・平安	89	長岡山	集落跡	石・縄・古・奈～平
33	觀音堂	散布地	縄文・平安	90	長岡館	館	中世
34	上野	集落跡	縄文・平安・中～近世	91	稻荷森古墳	散布地・古墳	旧石・縄・古・平
35	狸沢山古墳群	古墳	弥生・古墳	92	長岡西田	散布地	縄文
36	上野山古墳群	古墳	弥生・古墳	93	長岡山東	散布地	縄文・古墳・平安
37	庚塙	集落跡	縄・弥・古・奈～平	94	長岡南森	散布地	縄文・古墳・平安
38	木之実小屋	散布地	奈良～平安	95	中ノ目下	散布地	奈良～平安
39	東弁天	散布地	縄文	96	内糸館	館	中世
40	権原	散布地	平安	97	轟ノ木跡跡	集落跡・城館跡	古墳・平安・中～近世
41	中落合	古墳・集落地	古墳・奈良～平安	98	熊の前館	館	中世
42	中落合館	館	中世	99	水上	散布地	奈良・平安
43	萩生田	集落跡・散布地	弥生・奈良	100	太子堂	散布地	平安
44	若狭郷屋屋敷	館	中世	101	寺田	散布地	奈良・平安
45	中屋敷	散布地	奈良～平安	102	大野原館	館	中世
46	西田	散布地	縄文・奈良・平安	103	大屋敷	散布地	平安
47	東唐越館	館	中世	104	巖内城館	館	中世
48	横沢	散布地	縄文・奈良	105	巖内田	散布地	平安
49	二色根館	館	中世	106	久保田尻	散布地	平安
50	二色根古墳群	古墳	古墳	107	南屋敷館	館	中世
51	中野山館	館	中世	108	角屋敷	散布地	平安
52	上野山館	館	中世	109	更畠A	集落跡	奈～平・近世・近代
53	烏帽子山古墳	古墳	古墳	110	東畠B	散布地	平安
54	烏帽子山経塚	経塚	平安	111	俎御館	館	中世
55	上ノ山	散布地	縄文	112	大堀城	館	中世
56	稻荷前	散布地	縄文	113	御跡	館	中世
57	夷平	散布地	縄文・中世				



第2図 南陽市遺跡位置図  
遺跡位置図（国土地理院発行2万5千分の1地形図「赤湯」使用）

## II 遺跡の立地と環境

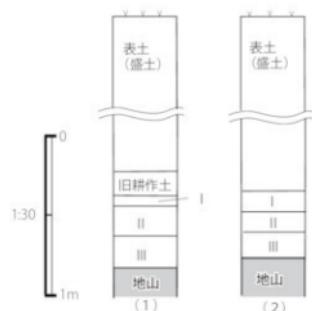
### 基本層序

基本層所（1）

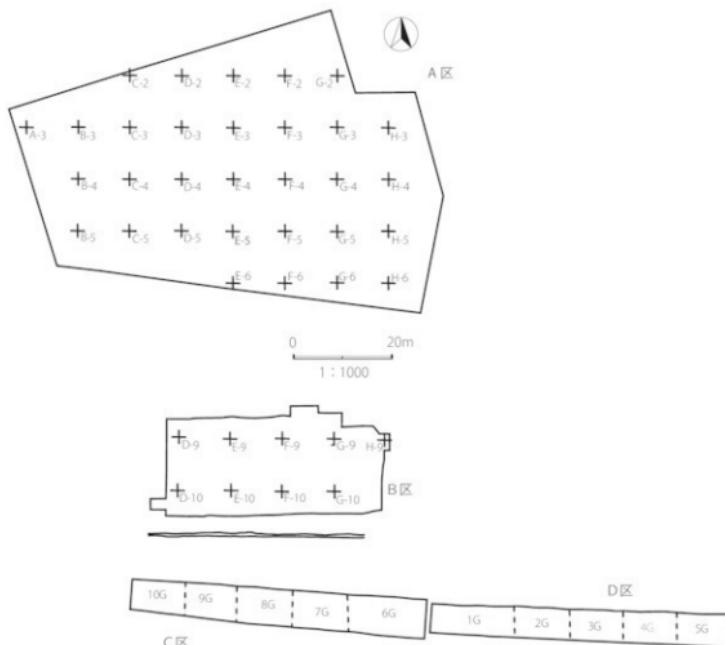
I 10YR3/2 黑褐色	粘土
II 10YR3/3 暗褐色	粘土 粘質強い 粗砂少量混入
III 10YR4/4 褐色	粘土 塵粒中量混入

基本層所（2）

I 10YR2/1 黒色	粘土
II 10YR3/2 黑褐色	粘土
III 10YR R 3/3 暗褐色	粘質シルト 炭化物・土器混入



第3図 唐越遺跡 基本層序（A区）



第4図 唐越遺跡 グリッド配置図

された東高櫃遺跡や大仏遺跡、中期の桜井式の土器が表採された掛け家遺跡、後期の竪穴住居が発見された庚墳遺跡等が知られ、扇状地中央部の自然堤防を中心に弥生時代の集落が展開していたものと思われる。

古墳時代の遺跡は、旧吉野川や櫛機川沿いの自然堤防上、長岡山丘陵などの独立丘陵上、扇状地の北東部、東部、西部の丘陵の尾根や斜面に立地し、飛鳥～奈良時代の終末期古墳も宮内扇状地北東に位置する山々の枝尾根の南斜面に分布している。

古墳は、平成27年度現在で終末期古墳を含め116基の存在が確認されており、古墳が54基、方形周溝墓24基、終末期古墳38基となっている。

前期の古墳では、前方後方墳の蒲生田山3号墳・4号墳と前方後円墳の蒲生田山2号墳、方墳及び方形周溝墓が十余基確認された大塚遺跡、円形周溝墓が3基確認された天王遺跡、4世紀後半に築かれた県内最大の前方後円墳である国指定史跡稻荷森古墳等があり、長岡山遺跡でも長岡山丘陵上に4基の方形周溝墓が確認されている。5世紀代には、経塚山古墳群、天王山古墳群、稲荷山古墳群、竜樹山古墳群が扇状地西部の山々の尾根に築かれている。大谷地東側の松沢赤石山の急斜面に立地する松沢古墳群は、5世紀末～6世紀前半の合掌型石室を持つ積石塚古墳である。集落は、旧吉野川沿いの自然堤防上に立地する沢田遺跡や百刈田遺跡等、沖郷地区を中心として広い範囲に存在したと考えられる。

奈良・平安時代の遺跡は、主に宮内扇状地の自然堤防上に立地し、唐越遺跡、清水上遺跡、中落合遺跡、沢田遺跡、庚墳遺跡、檜原遺跡、西中上遺跡、矢の目館跡、沢口遺跡、植木場一遺跡、富貴田遺跡や宮内扇状地北西部の丘陵地に立地する平野古窯などが確認されており、発掘調査が実施された遺跡も多い。本市一帯は、平安時代には赤井郷・宮城郷と呼ばれ、「郡山」という地名から沖郷地区には古代置賜郡衙があったとみられている。郡庁の所在地は未確認であるが、沢田遺跡を中心に郡山遺跡群と称される濃密な遺跡群が広がり、周辺に広く条里制が敷かれていることから、郡庁はこの周辺に存在したと考えられている。中落合遺跡の発掘調査では区画施設を有する建物群が検出され、置賜郡衙の関連施設とみられる。郡山周辺は小河

川が島足状に流れ、その間に微高地が点在する地形となっていることや広範囲に広がる遺跡の状況から郡衙機能を分散配置している可能性もある。中落合遺跡や唐越遺跡では、条里制の区画に影響された遺構配置が見られ、沢見遺跡でも条里制に関連するとみられる溝跡が確認されている。

中世の遺跡では、多くの城館址が確認されている。最上氏と伊達氏、上杉氏の領国の境にあたる吉野地区、中川地区的街道沿いに特に城館址が多い。宮内扇状地内でも自然堤防上や北部の山地との境付近に多くの城館址が立地している。旧吉野川の両岸には、蒲生田館、若狭郷屋敷、中屋敷、中落合館等が立地し、独立丘陵上には、長岡山館、柄塙館等が立地している。扇端部を流れる最上川沿いには、大橋城、畿内城、宮崎館、梨郷南館等が立地している。山沿いでは、二色根館、金山橋山館、石切山城、宮沢城、漆山館、片岸館、梨郷上館等が立地している。発掘調査が実施された遺跡としては、單郭方形館と考えられる屋敷跡を検出した鶴ノ木館跡や方形館を検出した天王遺跡等がある。

### III 遺跡の概要

#### 1 検出遺構

唐越遺跡はJR奥羽本線の赤湯駅から直線距離で北へ約800mの地点に位置する。今回の発掘調査は南陽市役所南側に隣接する約4,709m<sup>2</sup>の範囲をA区からG区の7区画に分割して調査を行った(第1図)。A区は調査直前まではグラウンド、それ以前は水田として、B区は果樹畠として、C・D・E区は市道として利用されていた。遺構確認面は圃場整備などで削平・かく乱を受けていて、特にA・D～G区は調査区内には遺構を確認できなかった部分がある。

今回の調査で、主な遺構として、数多くのピットを中心に、竪穴住居跡4棟、掘立柱建物跡34棟、区画溝2本、布堀の柵列と思われる溝群が約30本、井戸3基が確認された。

なお、遺構個別の規模・方向などの詳細は遺構観察表(表2～6)に記載し、本文中では省略する。また、グリッド番号については北を向いて南東角にあるグリッドの番号とする。

#### A区

##### 竪穴住居跡

本調査では4棟の竪穴住居跡が検出されたが、うち3棟がA区で検出された。3棟はすべてA区を南北に走る溝S D 2468より東の区画で確認された。建物軸は3棟ともほぼ真北を軸としている。なおS T 2690について今後の検討が必要と思われる。

##### S T 2690(第23図)

竪穴住居跡に分類したが、遺構の形状は東西方向に長い台形である。遺構東側が溝に接しているため、その影響で遺構の形状が変化している可能性がある。カマドは壁面ではなく、地床炉跡と思われる被熱した粘土のかたまりが住居跡のやや北寄りに確認された。遺物の出土について、9世紀初頭のものとみられるも

のが出土しているが、床面からの出土は2点のみで、覆土から出土したものと合わせても遺物の出土量は少ない。遺構からは日常生活の場というより作業場的な印象を受ける。

##### S T 2691(第25図)

正方形に近い形状で、カマドは東壁に配置されている。カマドの袖は比較的良好な状態で残存していたが、北側の一部が後世のかく乱によって壊されていた。カマドからは9世紀後半とみられる須恵器杯が1点のみ出土した。床面からの出土遺物はなく、覆土からのものを含めても図化できる遺物の出土量がわずかであり生活感は希薄である。竪穴住居跡西側端にピット2基、外側にピット5基が並んでいて、入り口及び庇の柱穴の可能性が考えられる。

##### S T 2697(第26図)

遺構の南半が調査区外、東半の削平が著しく全体の形状が不明である。カマドは北側壁面に確認できたが削平により形状が明確ではない。遺構内からはカマド周辺を中心で遺物は出土したが破片のみで時期が特定できる遺物の出土はなく、生活感は希薄である。当初は柱穴の密度の濃い竪穴住居跡として調査していたが、調査終了後にS B 5と重複している可能性があると考えた。

##### 掘立柱建物跡

今回の本報告書において掘立柱建物は35棟と報告するが、今後柱穴の組み合わせなど検討すべき点があることを前提としたい。なお個々の掘立柱建物跡について詳細な軸方向や規模・柱間などの数値については遺構観察表(表2～6)に記す。

唐越遺跡の掘立柱建物跡は方向によって分類することができる(いずれも1～2度の誤差含む)。

###### (1) 概ね真北を向くグループ

- (2) 概ねN-7°-Wを軸とするグループ
- (3) 概ねN-8°-Eを軸とするグループ
- (4) 概ねN-15°-Wを軸とするグループ
- (5) その他

またそれらにあわせて、掘立柱建物と方向軸を同じくする、一定間隔で並ぶ柱列の存在も浮上してくる。

なお、A区で確認された掘立柱建物跡は24棟としておく。

#### S B 1 (第27図)

A区の東端H-5グリッドで検出された。遺跡内では最も大きな柱穴で構成されている掘立柱建物跡と思われる。建物の軸はほぼ真北を向く。柱穴の配置が複雑であり、方向軸を同じくする建物2棟が重複している可能性もあるが、ここではこの掘立柱建物の構成をS B 1として報告する。西側の小型の柱列は建物の庇の柱と考えられる。また柱穴間には柱列上に直線に南北方向、もしくは緩いL字状の溝が走る。柱穴は南辺の数基が圓丸方形に近い形状で、その他はほぼ円形もしくは梢円形を呈している。

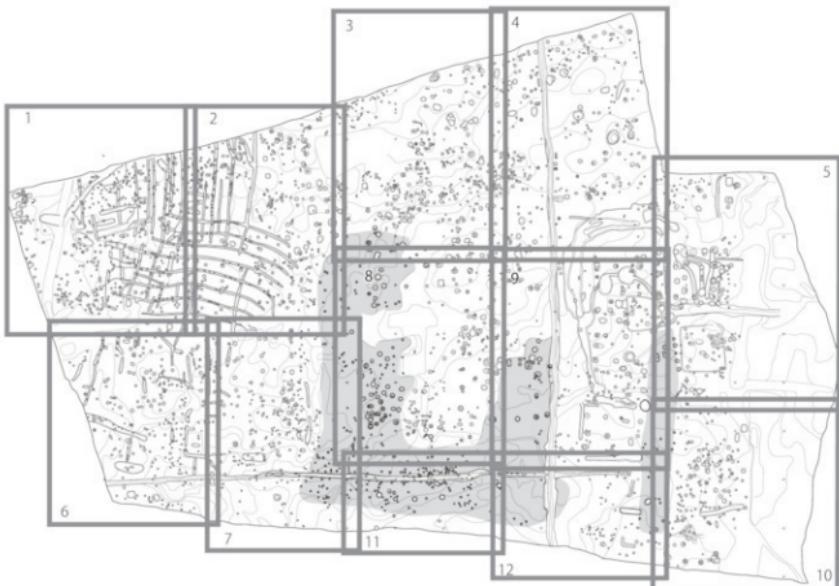
個々の柱穴の特徴について、S P 2678とS K 2685 ( $h - h'$ )の切り合をみるとS K 2685(旧)→S P 2678(新)の新旧関係が見て取れる。またS P 2343には木柱(77-1)が良好な状態で出土しているが、削材で上下ともに刃物等で切断された切り口を持つ。

溝についてであるが、東側3本(S D 2672・2673・2674)に関して、やや横長のU字型を呈し、覆土は一層ですべて同じ土質である。雨落ち溝、一部の柱列については布掘柱掘方の痕跡などとも考えられるが、性格は不明である。なお、本遺跡から直線距離にして約11kmに位置する川西町・太夫小屋1遺跡で布堀筏地業掘立柱建物跡が確認されている(高橋敏2001)。

遺物について、柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

#### S B 2 (第29図)

A区の東側G-5グリッドで検出された。建物軸はほぼ真北で、S T 2690や半円形の溝S D 2658、焼





第5図 A区 遺構配置図(1)



第6図 A区 遺構配置図(2)



第7図 A区 造構配置図 (3)



第8図 A区 遺構配置図(4)

### III 遺跡の概要

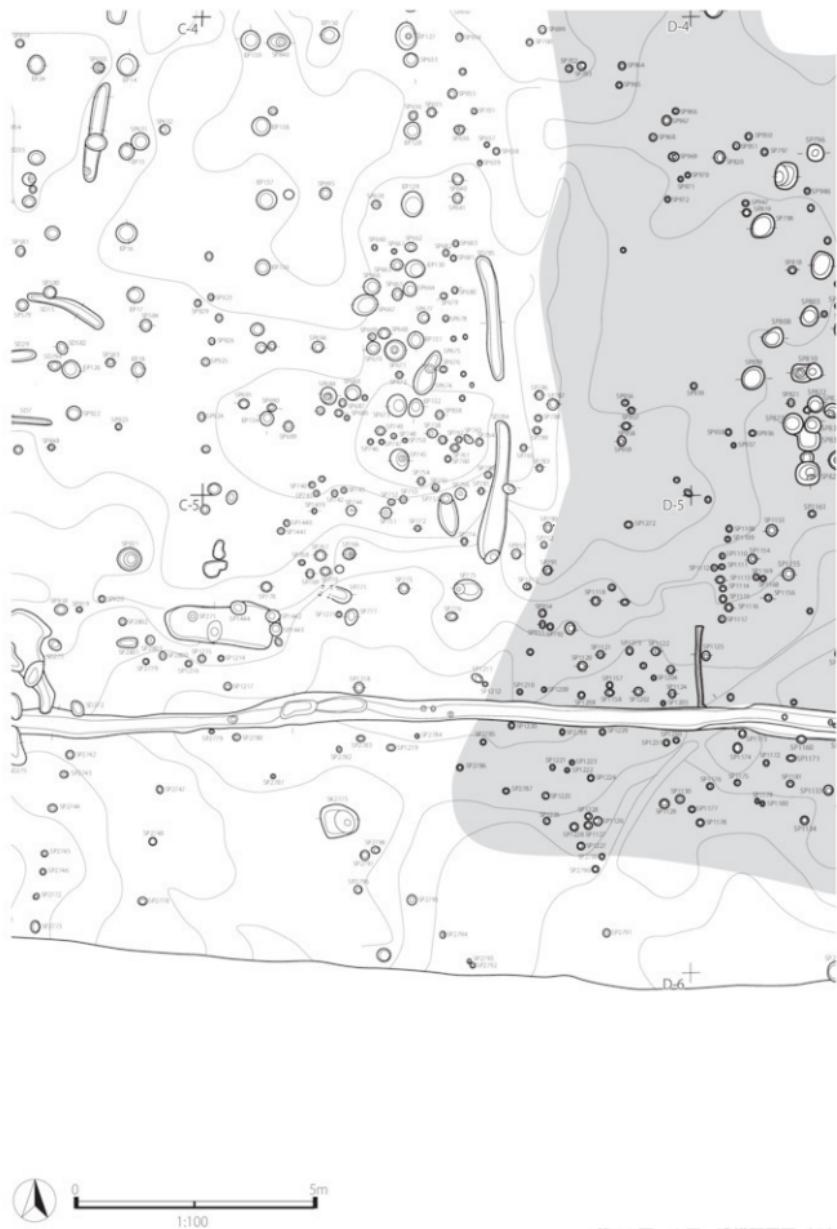


第9図 A区 遺構配置図(5)

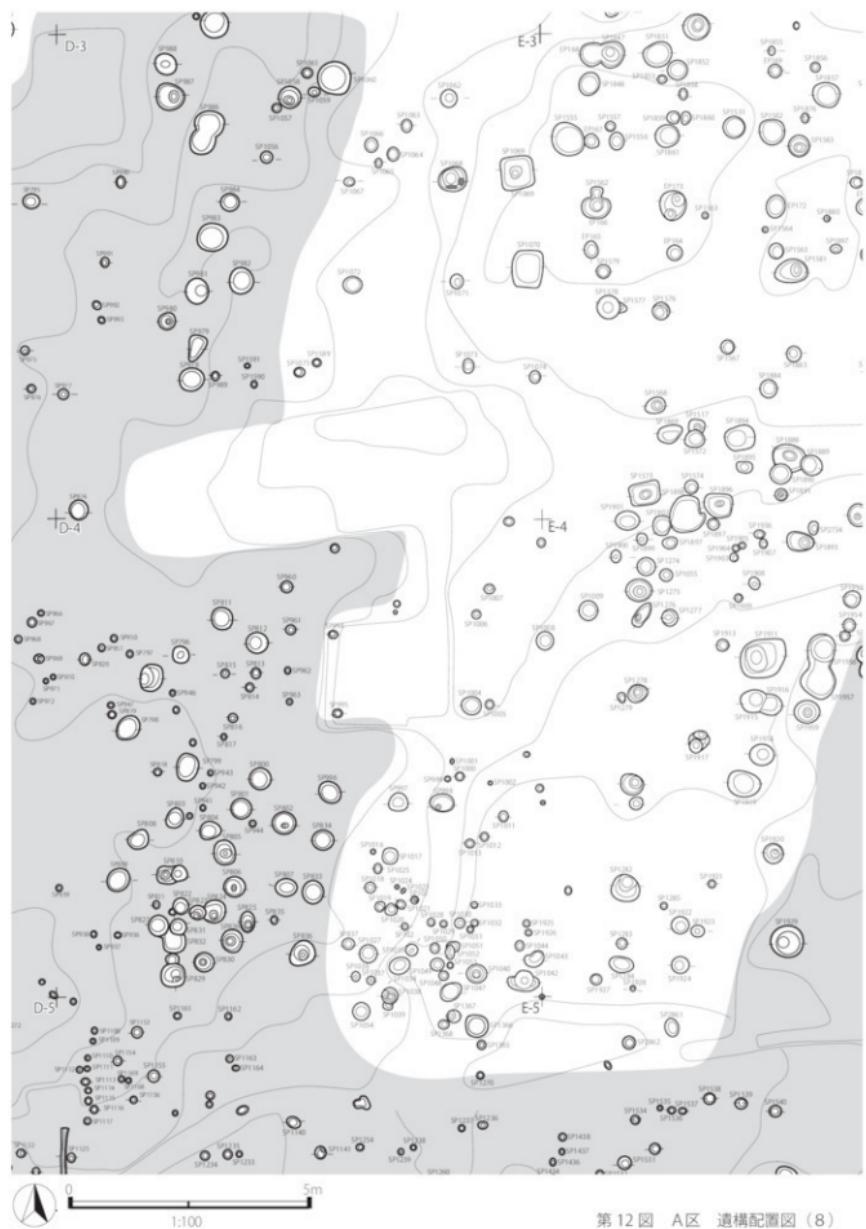


第10図 A区 遺構配図 (6)

### III 遺跡の概要

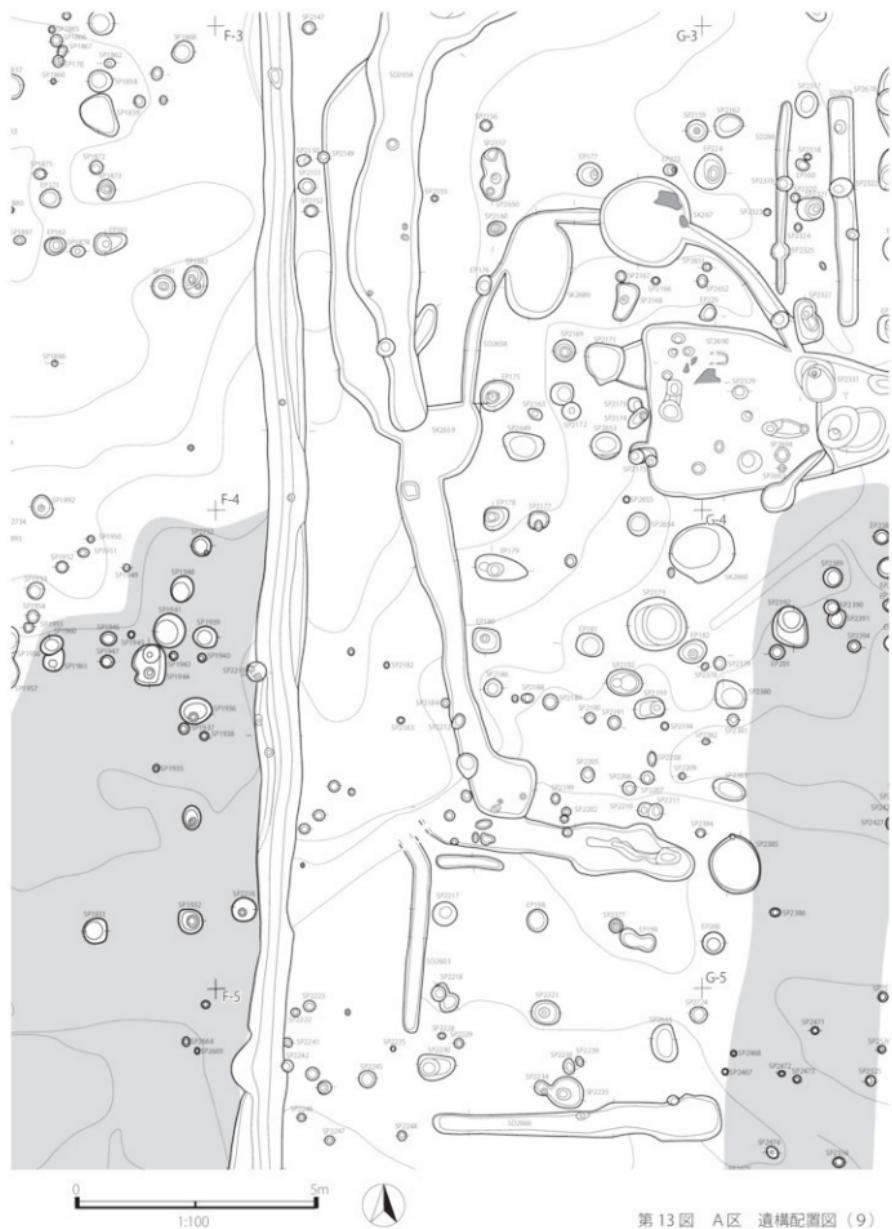


第11図 A区 遺構配置図(7)



第12図 A区 遺構配置図(8)

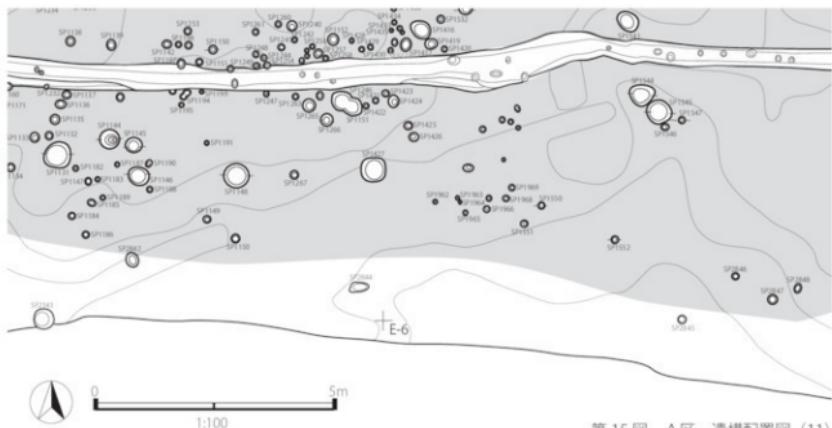
III 遺跡の概要



第13図 A区 遺構配置図 (9)



第14図 A区 遺構配置図 (10)



第15図 A区 遺構配置図 (11)

出土が確認されたSK267などいくつかの遺構と重複しているがこれらの新旧関係は不明である。柱穴のほとんどどの形状は円形もしくは梢円形である。東側の柱穴が明確でないが、正方形に近い側柱の南北棟の建物跡とみられる。時期が特定できる遺物は出土しなかった。

S B 3 (第 30 回)

A区の東側H-3 グリッドで検出された。部分的調査となったため建物の全容は不明であるが、西側に7度傾くと思われる。柱穴の東辺2個の形状は隅丸方形であるが、南辺については楕円形で柱間にばらつきがあるため、掘立柱建物としては検討が必要である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

SB4 (第31回)

A区の東側G-3グリッドで検出された。西に7度傾く側柱の東西棟とみられる。建物を構成する柱穴は円形を呈している。調査区を南北に走る大溝SD 2648と隣接する位置で確認された。この位置関係からSD 2648と同時代に利用されたとは考えにくい。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

SB 5(第32図)

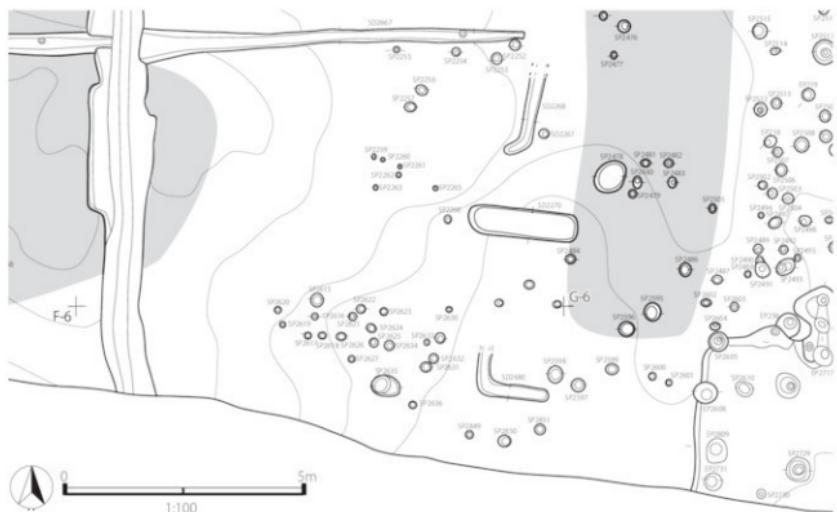
A区南東H-7グリッドで検出された。当初堅穴住居跡S T 2697の柱穴として調査したが後に掘立柱建物とした。建物の北東側柱穴はS T 2697同様削平されたとみられ、また南半は調査区外に続く可能性があり建物全体像は不明であるが、柱の配列から西に6度傾く直柱の建物と思われる。柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

SB 6(第33図)

A区東側G-4グリッド周辺で検出された。東に9度傾く側柱の東西棟とみられ、南側には庇跡とみられる建物と並行する柱列がある。柱穴の形状は南西角のものは圓丸形、そのほかについてはほぼ円形であるが、E P 179については抜取痕を残す可能性がある。E P 178からは8世紀～9世紀の黒色土器が出土している。

#### SB7(第34回)

A区東側G-4グリッド周辺で検出された。真北を軸とする側柱の東西棟とみられる。柱穴の形状はほぼ円形である。桁行の柱穴が南北で対応しない、建物の



第16図 A区 遺構配置図(12)

形が歪んでいるということから検討が必要がある。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

#### S B 8 (第35図)

A区東側G-5～G-6グリッド周辺で検出された。東に10度傾く総柱の東西棟とみられる。北側桁行が3間にに対し南側桁行が2間と柱穴が対応しているため検討が必要である。柱穴の形状は円形もしくは楕円形である。建物の西・南辺には横長のU字状の溝S D 2663・2666が廻り、雨落ち溝、もしくは排水溝と思われる。柱穴からは須恵器環などが出土しているが(76-12・13)、時期を特定できる遺物は出土しなかった。

#### S B 9 (第36図)

A区東側H-6グリッドで検出された。東に10度傾く側柱の東西棟とみられる。柱穴の形状はほぼ円形で径は小さめである。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

#### S B 10 (第37図)

A区北側中央E-2～3グリッドで検出された。西に7度傾く側柱の東西棟とみられる。建物の北半は調査区外に続く可能性があり建物全体像は不明である。柱穴の形状は隅丸方形もしくは不整形である。S P 2653から9世紀後半と思われる土師器環が出土した。

#### S B 11 (第38図)

A区中央北寄りE-3グリッドで検出された。西に8度傾く側柱の東西棟とみられる。北側の桁行が短く台形を呈するプランとなる。柱穴は円形もしくは不整形である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

#### S B 12 (第39図)

A区中央E-4グリッドで検出された。西に2度傾く側柱の東西棟とみられる。梁行西側で対応する柱穴が確認できず、桁行の柱間が不揃いであることから、検討が必要である。なおS P 1062では根固め石と思われる礫が確認された。柱穴の形状はほぼ円形であ





A scale bar representing 10 meters at a scale of 1:300.

第17図 A区 遺構配置図 ( $S = 1/300$ )

る。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 13 (第40図)

A区中央F-4グリッドで検出された。西に2度傾く総柱の東西棟とみられる。梁行3間桁行5間であるが、南面の柱穴が他と比較して径が小さく柱間が狭いため底の柱穴とみられる。柱穴は円形もしくは不整形である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 14 (第42図)

A区中央F-5グリッドで検出された。西に3度傾く側柱の南北棟とみられる。柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 15 (第43図)

A区中央F-5グリッドで検出された。方向軸を異にする建物3棟(S B 15・16・17)が重複している、そのうちの1棟である。東に8度傾く東西棟とみられ、柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴の配置が複雑で、桁行北側2列目がなく総柱とも側柱(もしくは南面庇)とも言い難い建物の構造であり、また東側の南北角にのみ柱穴があり底が存在した可能性が考えられる。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 16 (第43図)

A区中央F-5グリッドで検出された。西に10度傾く側柱、ほぼ正方形の建物とみられ、柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 17 (第43図)

A区中央F-5グリッドで検出された。東に15度傾く側柱、東西棟の建物とみられ、柱穴の形状はほぼ円形である。他の建物の柱間と比べて狭い。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 18 (第44図)

A区やや西寄りD-4グリッドで検出された。ほぼ真北を向く側柱、南北棟の細長い建物である。ただし桁行の柱穴が南北で対応しないため検討が必要である。柱穴の形状はほぼ円形で小さめである。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 19 (第45図)

A区北側中央E-6グリッドで検出された。真北を向く側柱の建物とみられる。建物の南半は調査区外に続く可能性があり建物全体像は不明である。柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 20 (第47図)

A区西側C-4グリッド、溝群(東西側)上で検出された。東に6度傾く総柱で、東西棟の建物とみられ、柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 21 (第47図)

A区西側C-4グリッド、溝群(東西側)上で検出された。真北を向く側柱、細長い南北棟の建物とみられ、柱穴の形状はほぼ円形で径は比較的小さめである。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 22 (第46図)

A区西側C-5グリッドで検出された。真北を向く総柱、細長い南北棟の建物とみられ、柱穴の形状はほぼ円形で径は比較的小さめである。柱穴からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

S B 23 (第49図)

A区西側D-5グリッドで検出された。真北を向く側柱、細長い南北棟の建物とみられ、柱穴の形状はほぼ円形で径は比較的小さめである。梁行の柱穴の数が合わないため検討が必要である。柱穴から時期を特定できる遺物は出土しなかった。

## S B 24 (第 50 図)

A 区南西側 B-5 ~ 6 グリッドで検出された。東に 17 度傾く東西棟の建物とみられ、総柱の可能性はあるものの北から 2 列目の桁行が不明である。また、建物の中央を通過するように浅い弧状の溝 (S D 2) が走っている。柱穴の形状はほぼ円形で径は比較的小さめである。柱穴と溝から時期を特定できる遺物は出土しなかった。

## 溝状遺構

唐越遺跡では 96 本の溝状遺構が確認されている。

## S D 2648 (第 52 図)

A 区東側 F-2 ~ F-6 グリッドを南北方向に直線的に走る溝である。溝は V 字型を呈していて、幅は約 1 m、深さは 50 ~ 80 cm で南側ほど深くなる傾向があり、北から南へ水が流れていたと思われる。土層断面観察すると自然堆積とみられる。B 区の S D 3534 につながる。南陽市内の遺跡における V 字型の溝の例として大塚遺跡(氏家・吉田 2007)の S D 703 がある。

出土遺物について、須恵器環をはじめ、須恵器瓶・大甕などが出土した。遺物のほとんどが覆土中からの出土で床面からの出土はない。环の形状から 9 世紀第 2 ~ 3 四半期のものと思われる。

## S D 1 (第 54 図)

A 区南側 B-6 ~ G-6 グリッドを西に 6 度程度傾く (N-6°-W) 形で東西方向に走っている。溝は V 字型もしくは U 字型を呈していて、幅は約 70 cm、深さは 20 ~ 45 cm で西側にいくほど深くなる傾向がある。土層断面観察すると自然堆積とみられる。溝からは時期を特定できる遺物は出土しなかった。

## S D 2677 (第 53 図)

A 区 G-4 ~ H-4 グリッドを東西に走る直線の溝で、S T 2690 とつながるように位置する。幅 180 cm、深さ 30 cm 程度の薄い U 字型の溝で、土層断面から自然堆積と思われる。須恵器・黒色土器の环、また墨書きのある环、甕、風字硯の一部、木簡など比較的多くの遺物が出土している(第 53 図)。床面直上出土の环(73

-1・2) から 9 世紀代半ばの遺構と思われる。

## S D 2646 (第 55 図)

A 区 G-3 ~ G-4 ~ H-3 グリッド内に確認された周溝で、4 m × 5 m の範囲で L 字型に大きくめぐる。この溝からは東側から南側に回り込むような細い溝 S D 2282、S D 2264 が続いている。また西側には S D 2646 が重複するように存在する。北辺の床面は非常に複雑になっているが、覆土は単純な自然堆積とみられる。ところで d-d' の土層断面を見ると 2 本の溝跡が重複し西側の溝が新しいことが判る。

出土遺物で図化できたのは覆土から出土した須恵器环 (75-2)、甕あるいは瓶 (75-3)、繩文土器 (75-1) で、环の形状から 9 世紀第 2 ~ 3 四半期と思われる。

## S D 2658 (第 55 図)

A 区 G-4 ~ H-4 グリッドにかけて半円形に走る溝である。溝は幅 30 ~ 40 cm、深さ 10 cm 前後と浅く、溝の途中には浅いレンズ状の土坑 S K 2689、267 が位置する。S B 2 の下を廻るような状態で確認された。S K 267 の床面からは焼土らしき赤色粘土が確認され、また 9 世紀第 1 四半期のものと思われる須恵器の环が出土している。

## 調査区北西溝群 (第 58 図)

A 区 B-3 ~ D-4 グリッドの広範囲で確認された。当初畠の畝として調査開始したものの、溝底部から連続する柱穴や細い柱根が確認されたため、布堀の柵列溝として調査した。これらの溝は以下の通り概ね 3 つに分類できる(第 21 図)。いずれも各グループ毎に約 160 ~ 180 cm 間隔で検出された。

(1) C-3 グリッド、南北方向で東に 7 度から向く (N-7°-E) 調査区外北側まで伸びる溝

(2) C-3 グリッド、南北方向で東に 7 度から向く (N-7°-E) 6 ~ 7 m 程度の長さの溝

(3) C-4 ~ D-4 グリッド、東西方向に緩い S 字曲線状に走る溝

グループ (1) と (2) の新旧関係は不明だが、グループ (3) は切合いからもっとも新しい溝群とみら

れる。断面観察すると、溝形はU字型で、覆土はほぼ1層で人為的に埋められたと思われる。またE D 32、33、35の溝の南端はS B 20、21の柱穴で止まっている。また、E D 34には抜取痕とみられるオーバーハング状態の柱穴も確認されている。

出土遺物として須恵器壺などの破片があるが時期を特定することはできない。

#### E U 1216（第48図）

A区南西側D-6グリッドで検出された、南北約140cm、東西約60cmのやや不整形の楕円形土坑である。遺構からは古代の土師器の甕2個体（76-6、76-8）が合口の状態で埋納されていたが、削平により遺構・遺物ともに深さ10cm程度残すのみであった。置賜地方において南陽市では中落合遺跡（氏家・高桑2008）では体部に穿孔のある合口甕と須恵器壺が土坑から一括で出土した例があり（E U 1）、それと類似した性格の祭祀遺構と思われる。

また、遺物の残存状態から当時の生活面は遺構確認面から少なくとも30～40cm高かったことが推測される。

#### S K 2660（第48図）

A区東側G-5グリッドで検出された。直径120cmの円形で、底部は緩いU字型を呈している。覆土の二層目を中心に土師器甕2体、黒色土器椀1体の破片が散乱した状態で出土した。遺構の性格は不明である。

#### 掘立柱列（第21図）

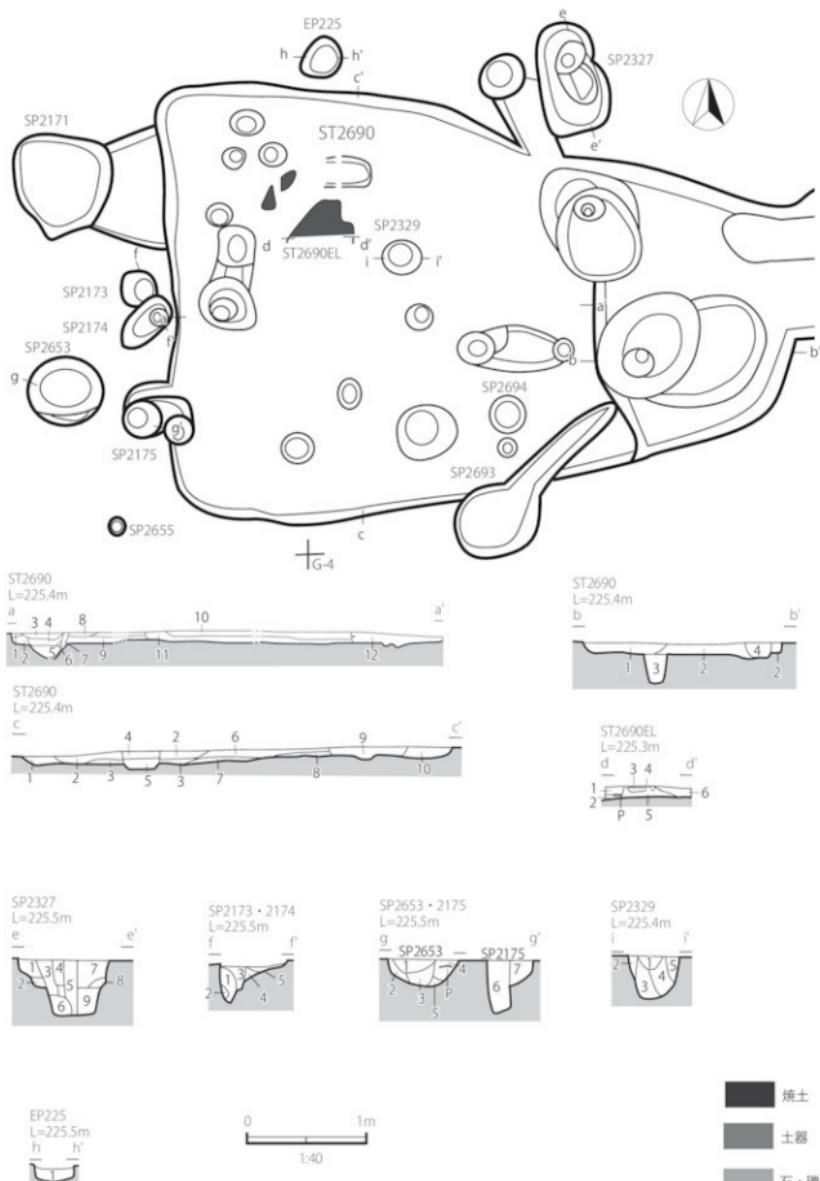
掘立柱建物跡の冒頭で述べた通り、掘立柱建物跡の柱列を検討するうえでそれに並行する長く並ぶ柱列が見えてくる。現地調査期間では見えなかつたため詳細な調査記録は残せなかつたが、S A 1～7を掘立柱列として本書で報告する。S A 1～3・6についてはS B 3～5・10・11・14と、S A 4・5はS B 8・9・15・20と方向軸を同じくする。

柱列・杭列に囲まれた区画施設が確認された遺跡は、置賜地方では南陽市中落合遺跡（氏家・高桑2008）、長井市塙ノ上遺跡（高桑・関口2005）、米沢

市大浦B遺跡（手塚・菊地1993）などの発掘例があるが、塙ノ上遺跡と大浦B遺跡は布堀の溝に柱列を立て並べたタイプの柵列である。また中落合遺跡は小柱穴が並ぶ柵列であり、唐越遺跡にみられるような掘立柱列は置賜地方ではみられない。しかし、福島県に類例を求めるに、塙川町（現喜多方市）鏡ノ町遺跡B（和田・植村2000）、玉川村江平遺跡（福島文化セ2000）で区画を目的とする柱列が確認されている。

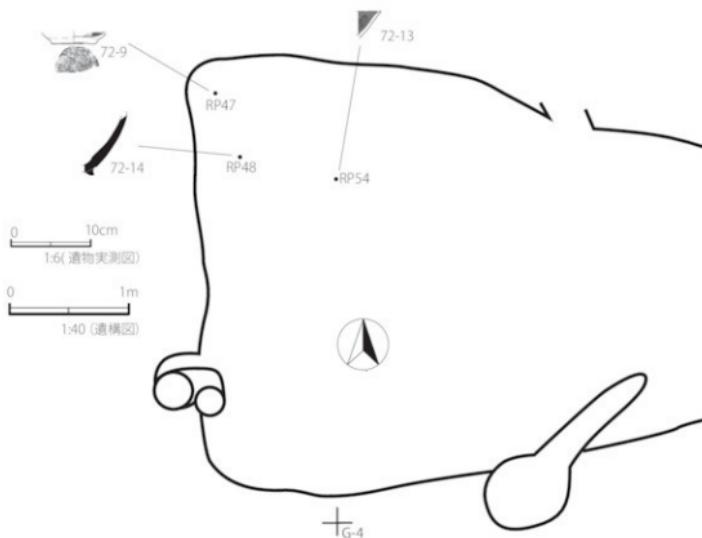
#### 整地部分（第54図）

調査区中央～東側の南部分に地面を堅く整地したと思われる範囲がある（第5～16図 アミカケ部分）。S D 1調査の際整地部分と思われる部分、D-4グリッド西側1mについて断面観察を行ったところ（第54図c-c'・f-f'）、地山に盛土をしていたと思われる10cmほどの整地層が確認された。確認されたのは比較的標高の高い部分で、低い部分に関しては後世の圃場整備や攢乱などで削平されたと思われる。なお、整地層（旧）→S D 1（新）の関係であることがわかった。またD-3～5グリッド周辺、F-4～5グリッド周辺では整地層が広がり、人々が生活する上で活動しやすいように地面の整備を行っていた、もしくは掘立柱建物跡S B 12～18に囲まれた空間があり広場として使用された可能性がある。



第18図 ST 2690 積穴住跡（1）

### III 遺跡の概要



第19図 ST 2690 穫穴住居跡 (2)

#### ST2690 a-a'

1	10YR3/1 黒褐色
2	10YR3/2 黒褐色
3	2.5Y2/1 黒色
4	2.5Y2/1 黑色
5	2.5Y3/1 黑褐色
6	2.5Y2/1 黑色
7	10YR2/2 黑褐色
8	10YR3/1 黑褐色
9	2.5Y3/1 黑褐色
10	2.5Y2/1 黑色
11	2.5Y3/1 黑褐色
12	10YR2/1 黑色

#### SP2327 e-e'

1	10YR3/2 黑褐色
2	10YR2/2 黑褐色
3	10YR2/2 黑褐色
4	10YR2/2 黑褐色
5	10YR3/1 黑褐色
6	10YR2/1 黑色
7	10YR3/2 黑褐色
8	10YR3/2 黑褐色
9	10YR2/1 黑色

#### ST2690 b-b'

1	2.5Y3/1 黑褐色
2	2.5Y4/1 黄灰色
3	2.5Y3/1 黑褐色
4	2.5Y2/1 黑色

#### SP2173・2174 f-f'

1	2.5Y4/1 黄灰色
2	2.5Y2/1 黑色
3	5Y4/1 灰色
4	2.5Y4/2 暗灰黄色
5	2.5Y5/1 黄灰色

#### ST2690 c-c'

1	10YR2/3 黑褐色
2	10YR3/1 黑褐色
3	10YR3/2 黑褐色
4	10YR3/1 黑褐色
5	10YR2/3 黑褐色
6	10YR2/2 黑褐色
7	10YR3/3 暗褐色
8	2.5Y4/2 暗灰黄色
9	10YR3/2 黑褐色
10	10YR3/3 暗褐色

#### SP2653 2175 g-g'

1	2.5Y2/1 黑色
2	10YR2/2 黑褐色
3	2.5Y3/1 黑褐色
4	10YR2/2 黑褐色
5	2.5Y3/1 黑褐色

#### SP2175 h-h'

1	2.5Y4/1 黄灰色
---	-------------

#### ST2690E d-d'

1	10YR3/2 黑褐色
2	10YR3/3 暗褐色
3	10YR3/2 黑褐色
4	10YR4/3 にぶい黄褐色
5	10YR6/4 にぶい黄橙色
6	10YR3/1 黑褐色

焼土混入

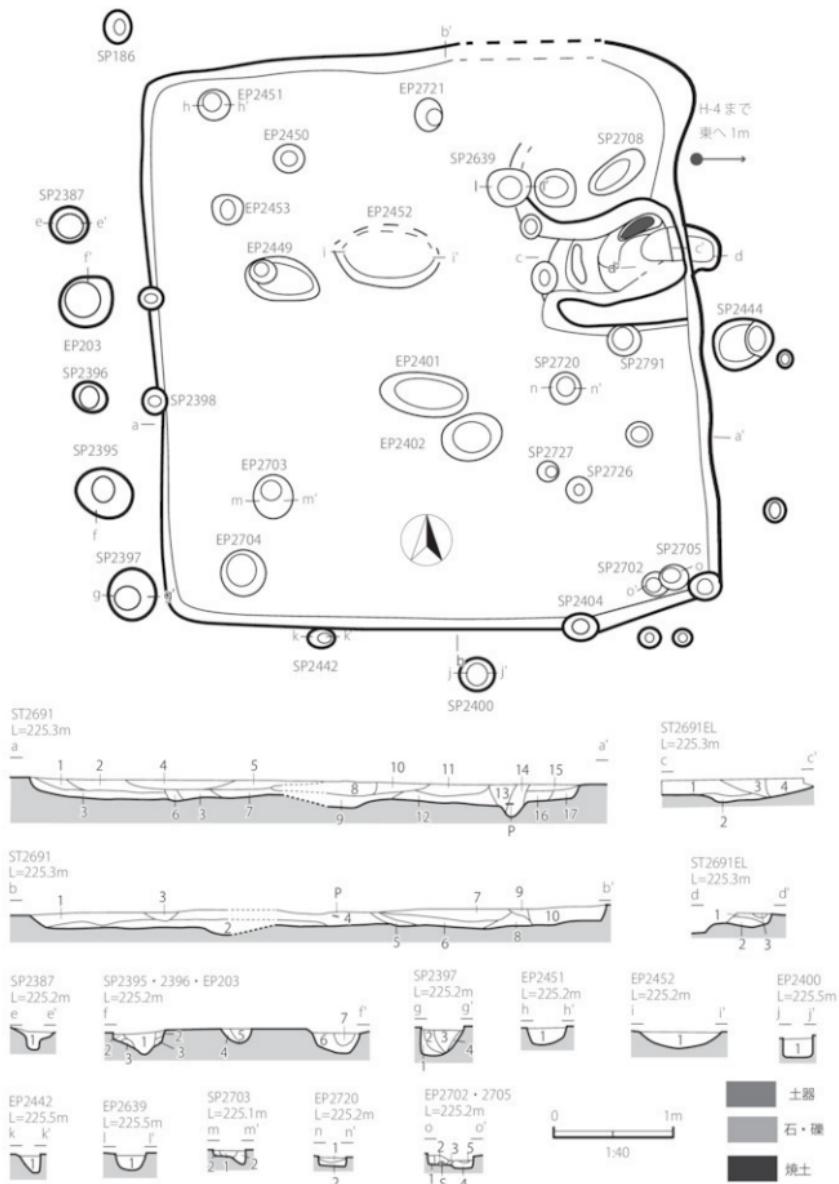
#### EP225 i-i'

1	2.5Y4/1 黄灰色
---	-------------

#### 粘質シルト

1	10YR3/1 黑褐色
2	10YR2/1 黑色
3	10YR2/1 黑色
4	10YR3/2 黑褐色
5	10YR3/2 黑褐色

10YR4/3 にぶい黄褐色粘土混入



第20図 S T 2691 竪穴住跡

### III 遺跡の概要

ST2691 a-a'

1	10YR2/1 黒色	砂質粘土	砂土多い
2	10YR2/2 黒褐色	砂質粘土	
3	10YR3/1 黒褐色	砂質粘土	
4	10YR2/1 黒色	砂質粘土	
5	10YR2/1 黒色	砂質粘土	
6	10YR2/2 黒色	砂質粘土	10YR4/3 にぶい黄褐色混入
7	10YR2/2 黒褐色	砂質粘土	
8	10YR2/1 黒色	砂質粘土	
9	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
10	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土	
11	10YR3/1 黑褐色	砂質粘土	
12	10YR2/1 黒色	砂質粘土	
13	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
14	10YR2/1 黑色	砂質粘土	
15	10YR2/1 黑色	砂質粘土	
16	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土	
17	10YR2/1 黑色	砂質粘土	

ST2691 b-b'

1	10YR2/1 黒色	砂質粘土
2	2.5Y2/1 黒色	砂質粘土
3	2.5Y2/1 黒色	砂質粘土
4	10YR2/1 黒色	砂質粘土
5	2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土
6	2.5Y2/1 黑褐色	砂質粘土
7	2.5Y2/1 黑褐色	砂質粘土
8	2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土
9	10YR2/1 黑褐色	砂質粘土
10	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土

ST2691EL c-c'

1	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土
2	2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土
3	10YR2/1 黑色	砂質粘土
4	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土

ST2691EL d-d'

1	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
2	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
3	10YR3/3 暗褐色	砂質粘土

SP2387 e-e'

1	2.5Y2/1 黑色	シルト粘土
2	2.5Y3/1 黑褐色	シルト粘土
3	10YR2/1 黑色	シルト粘土
4	2.5Y2/1 黑色	シルト粘土
5	2.5Y2/2 黑褐色	シルト粘土
6	2.5Y3/3 暗オーラープ色	シルト粘土
7	2.5Y2/1 黑色	シルト粘土

SP2397 g-g'

1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土
3	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土
4	2.5Y3/2 黑褐色	砂質粘土

EP2451 h-h'

1	2.5Y2/1 黑色	シルト粘土
2	2.5Y2/1 黑色	シルト粘土

EP2452 h-h'

1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土

EP2400 h-h'

1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土

EP2442 k-k'

1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土

EP2639 H-H'

1	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土
2	2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土

SP2703 m-m'

1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR3/1 黑褐色	粘質シルト

EP2720 n-n'

1	2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
2	2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト

EP2702 + 2705 o-o'

1	2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土
3	2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
4	2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
5	2.5Y2/1 黑色	粘質シルト

ST2697 a-a'

1	10YR2/1 黑色	粘質シルト
2	10YR2/1 黑色	粘質シルト やわらかい
3	10YR2/1 黑色	粘質シルト
4	10YR2/2 黑褐色	粘質シルト
5	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質粘土
7	10YR3/3 暗褐色	砂質粘土
8	10YR3/3 暗褐色	砂質粘土
9	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土

10YR4/3 にぶい黄褐色粘土混入

10	10YR2/3 黑褐色	砂質粘土
11	10YR3/4 黑褐色	砂質粘土
12	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
13	10YR3/3 黑褐色	砂質粘土
14	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
15	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
16	10YR2/1 黑色	砂質粘土
17	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土

ST2697 b-b'

1	10YR2/3 黑褐色	砂質粘土
2	10YR3/3 暗褐色	砂質粘土
3	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
4	10YR2/1 黑色	砂質粘土
5	10YR3/3 暗褐色	砂質粘土
6	10YR2/3 黑褐色	砂質粘土
7	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土

ST2619 d-d'

1	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土
3	10YR2/1 黑色	砂質粘土
4	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
5	10YR2/1 黑色	砂質粘土
6	10YR2/1 黑色	砂質粘土
7	10YR2/1 黑色	砂質粘土

SP2605 e-e'

1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR3/3 暗褐色	砂質粘土

SP2717 f-f'

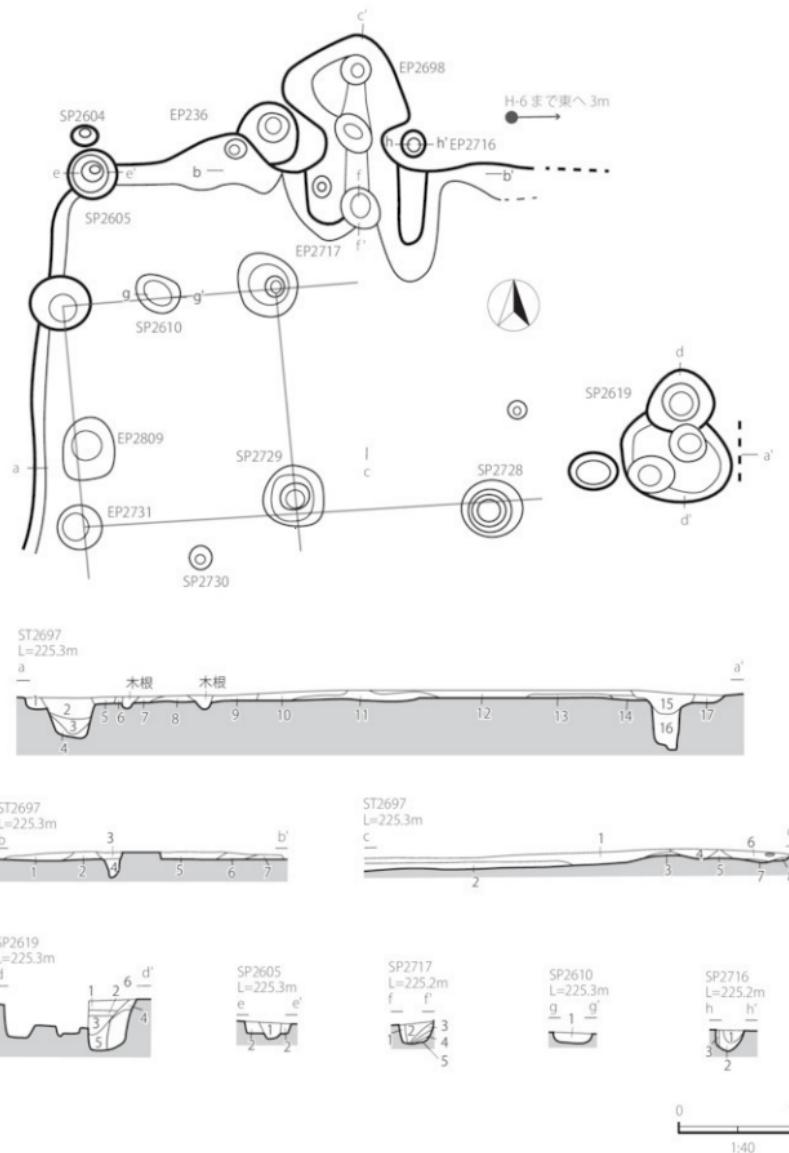
1	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土
3	10YR3/1 黑褐色	粘質シルト
4	2.5Y2/1 黑色	粘質シルト
5	2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト

SP2610 g-g'

1	10YR3/3 暗褐色	砂質粘土
2	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土

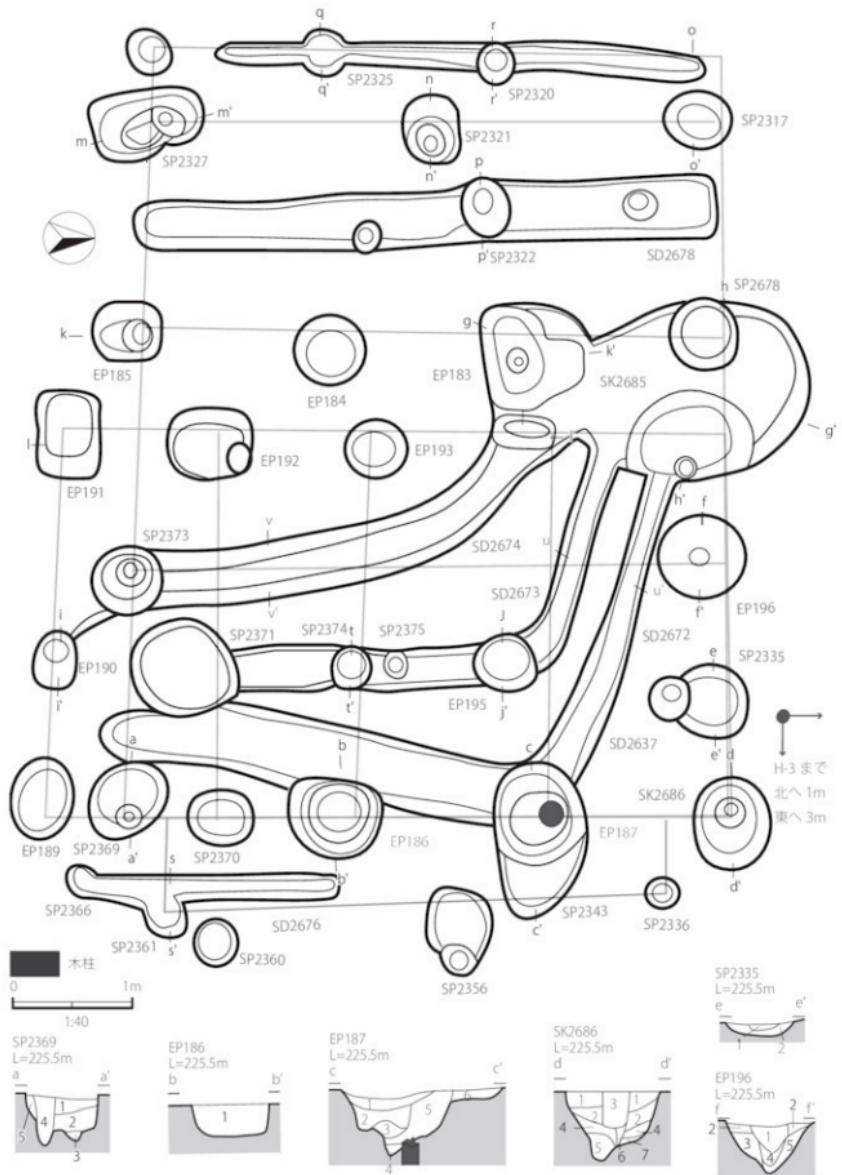
SP2716 h-h'

1	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	砂質粘土
3	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土



第21図 ST 2697 竪穴住居跡

III 遺跡の概要

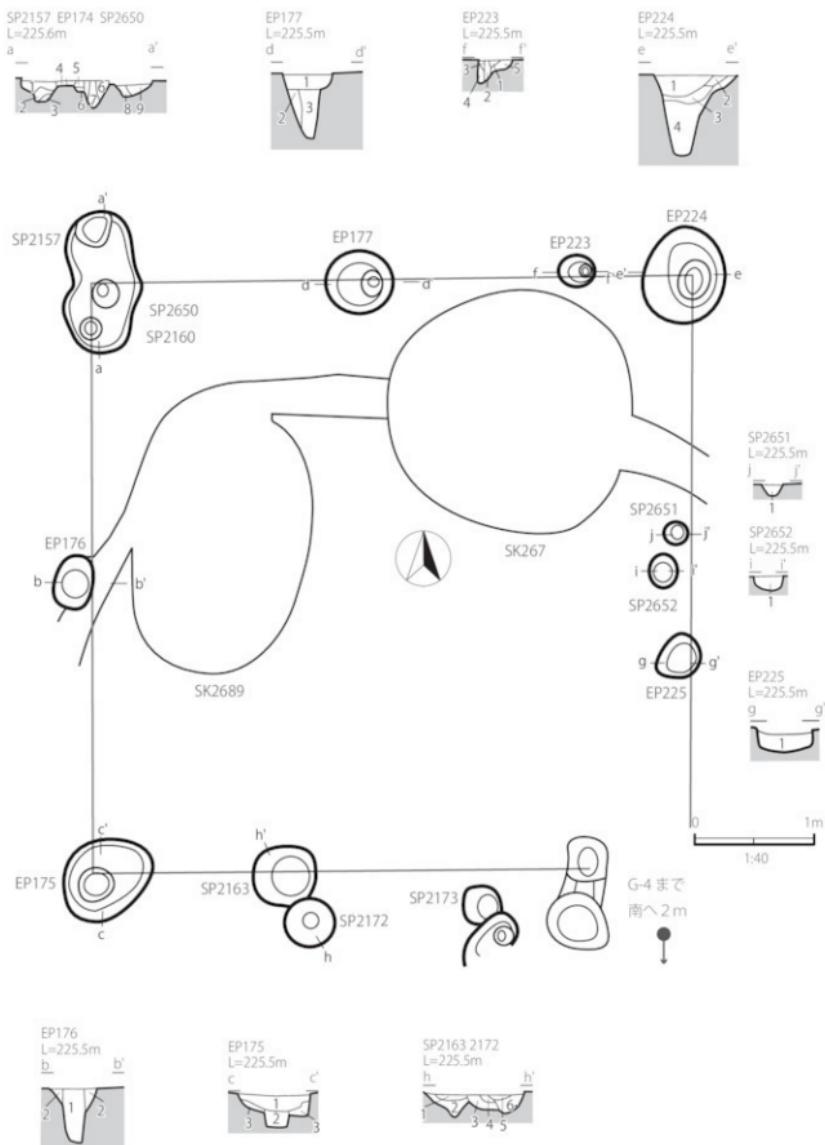


第22図 S B 1 捩立柱建物跡

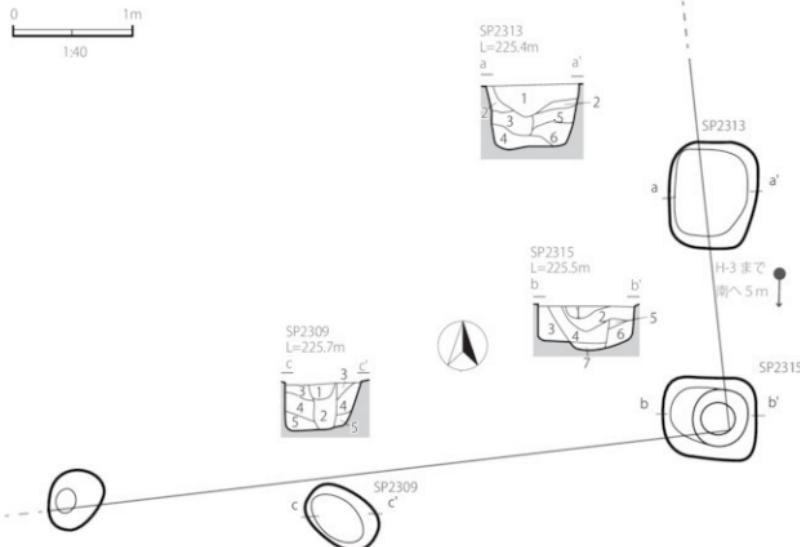


### III 遺跡の概要

EP184	1 10YR1.7/1 黒色 2 10YR2/2 黑褐色 3 10YR2/2 黑褐色 4 10YR3/1 黑褐色 5 10YR2/1 黑色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 10YR4/1 褐灰色混入 砂質粘土 10YR4/1 褐灰色混入 砂質粘土 10YR3/1 黑褐色混入	S B 2 挿立柱建物跡 EP2157・EP174・SP2650 a-a'
EP183	1 10YR2/3 喀褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR2/1 黑色 4 10YR2/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色 6 10YR4/2 灰黃褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	1 10YR2/3 黑褐色 2 7.5Y3/1 黑褐色 3 2.5Y3/1 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 2.5Y3/3 喀オリーブ色 6 10YR2/3 黑褐色 7 10YR2/1 黑色 8 10YR3/3 喀褐色 9 10YR2/3 黑褐色
SP2327 m-m'	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR2/2 黑褐色 3 10YR2/2 黑褐色 4 10YR4/2 灰黃褐色 5 10YR2/2 黑褐色 6 10YR2/1 黑色 7 10YR3/2 黑褐色 8 10YR3/2 黑褐色 9 10YR2/1 黑色 10 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質シルト	EP176 b-b' 1 10YR3/1 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色
EP191・192・193・194 h-h'	1 10YR4/4 喀褐色 2 10YR3/3 喀褐色 3 10YR3/3 喀褐色 4 10YR2/3 黑褐色 5 10YR2/1 黑色 6 10YR2/3 黑褐色 7 10YR3/3 喀褐色 8 10YR3/2 黑褐色 9 10YR2/1 黑色 10 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	EP175 c-c' 1 2.5Y3/1 黑褐色 2 2.5Y3/3 喀オリーブ色 3 2.5Y4/2 喀黃色
EP191	1 10YR4/4 喀褐色 2 10YR3/3 喀褐色 3 10YR3/3 喀褐色 4 10YR2/3 黑褐色 5 10YR2/1 黑色 6 10YR2/3 黑褐色 7 10YR3/3 喀褐色 8 10YR3/2 黑褐色 9 10YR2/1 黑色 10 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	EP177 d-d' 1 2.5Y2/1 黑色 2 2.5Y3/1 黑褐色 3 2.5Y3/1 黑褐色
EP192	1 10YR2/3 黑褐色 2 10YR2/1 黑色 3 10YR2/3 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/2 黑褐色 6 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	EP224 e-e' 1 5Y2/1 黑色 2 5Y 3/2 黑褐色 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色 4 2.5Y3/2 黑褐色
EP193	1 10YR2/3 黑褐色 2 10YR3/3 喀褐色 3 10YR3/2 黑褐色 4 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	EP223 f-f' 1 2.5Y3/1 オリーブ黑色 2 5Y2/2 オリーブ黑色 3 5Y3/2 オリーブ黑色 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色
EP194	1 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土	粘質シルト 棕色土混入
P2317 o-o'	1 2.5Y3/3 喀オリーブ色	粘質シルト 棕色土混入	EP225 g-g' 1 2.5Y4/1 黄灰色
SP2321 p-p'	1 5Y2/1 黑色 2 5Y2/2 オリーブ黑色 3 2.5Y2/1 黑色 4 5Y2/2 オリーブ黑色 5 5Y2/2 オリーブ黑色 6 2.5Y3/3 喀オリーブ色	粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入	粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入 粘質シルト 棕色土混入
SP2322 r-r'	1 2.5Y3/3 喀オリーブ黑色	粘質シルト 棕色土混入	EP2163・2172 h-h' 1 2.5Y2/1 黑色 2 10YR2/1 黑色 3 10YR2/1 黑色 4 2.5Y2/1 黑色 5 2.5Y2/1 黑色 6 2.5Y3/2 黑褐色
SP2320 t-t'	1 2.5Y3/3 喀オリーブ色	粘質シルト 棕色土混入	SP2652 i-i' 1 2.5Y3/1 黑褐色
SP2361 s-s'	1 10YR2/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 棕色土混入	SP2651 h-h' 1 2.5Y3/1 黑褐色
SP2374 t-t'	1 10YR3/4 喀褐色	砂質粘土	粘質シルト 棕色土混入
SD2672 2673 u-u'	1 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
SD2672 v-v'	1 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土	



第24図 SB2 掘立柱建物跡



第25図 SB 3 挖立柱建物跡

## SB 3 挖立柱建物跡

SP2313 a-a'	
1 2.5Y3/2 黒褐色	粘質シルト 2.5Y5/1 黄灰色混入
2 2.5Y2/1 黒色	粘質シルト 2.5Y5/1 黄灰色粒状に混入
3 5Y2/1 黒色	粘質シルト
4 2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト 棕色土混入
5 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト 2.5Y5/1 黄灰色小プロック状に混入
6 5Y3/1 オリーブ黒色	粘質シルト

## SP2315 b-b'

1 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
2 10YR2/1 黑色	粘質シルト かたくしまる
3 2.5Y2/1 黑色	粘質シルト 白色粘土混入
4 10YR2/1 黑色	粘質シルト
5 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト 白色粘土混入
6 2.5Y2/1 黑色	粘質シルト 棕色土混入
7 10YR3/1 黑褐色	粘質シルト 白色粘土混入

## SP2309 c-c'

1 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト かたくしまる
2 2.5Y2/1 黑色	粘質シルト かたくしまる
3 2.5Y2/1 黑色	粘質シルト かたくしまる
4 2.5Y2/1 黑色	粘質シルト
5 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト

## SB 4 挖立柱建物跡

SP2094 a-a'	
1 2.5Y3/2 黒褐色	砂質粘土
2 2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質粘土

## SP2092 b-b'

1 10YR4/1 暗灰黄色	粘質シルト
2 10YR2/1 黑色	粘質シルト

## SP2085・2086 c-c'

1 2.5Y1/1 黄灰色	粘質シルト 橙色土混入
2 5Y3/1 灰オリーブ色	粘質シルト 橙色土混入
3 2.5Y2/2 暗灰黄色	粘質シルト 橙色土混入
4 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト 橙色土混入
5 5Y3/1 オリーブ黑色	粘質シルト 橙色土混入

## SP2097 d-d'

1 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
2 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト

## SP2098 e-e'

1 10Y R 2/3 黑褐色	粘質シルト
2 2.5Y2/1 黑色	粘質シルト かたくしまる
3 2.5Y6/2 黄灰色	粘質シルト
4 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
5 2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト

## SP2099 f-f'

1 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
2 2.5Y 2/2 黑褐色	粘質シルト 橙色土混入

## SP2142 g-g'

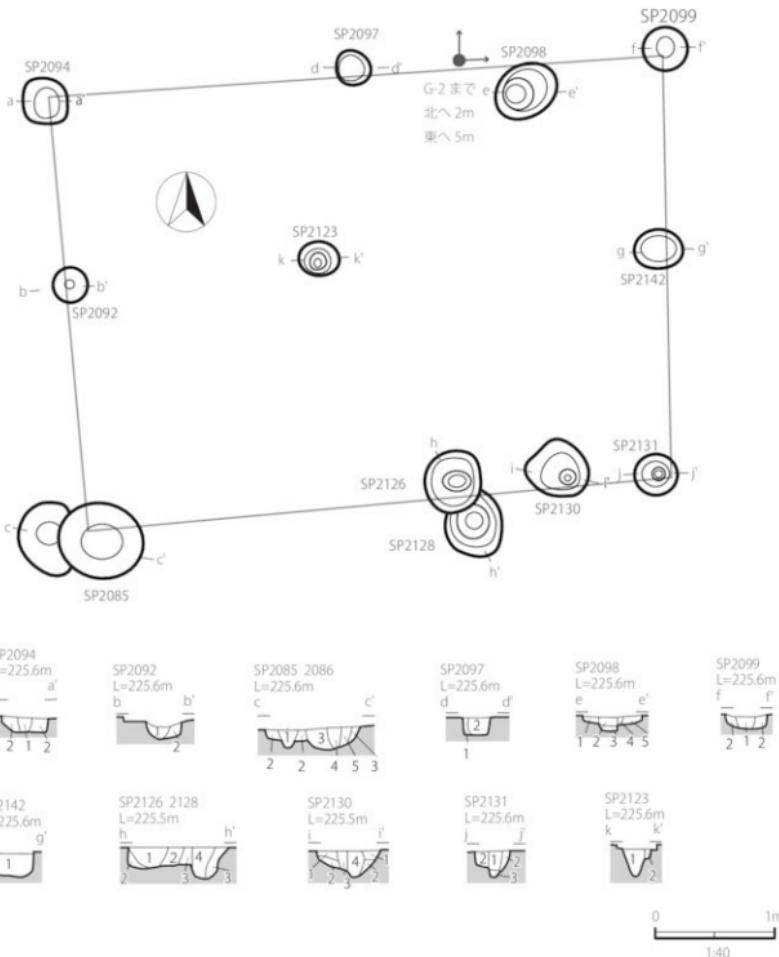
1 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト 橙色土混入
----------------	-------------

## SP2126・2128 h-h'

1 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト 橙色土混入
2 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト 橙色土混入
3 2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト 橙色土混入
4 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト 橙色土混入

## SP2130 i-i'

1 2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト 橙色土混入
---------------	-------------



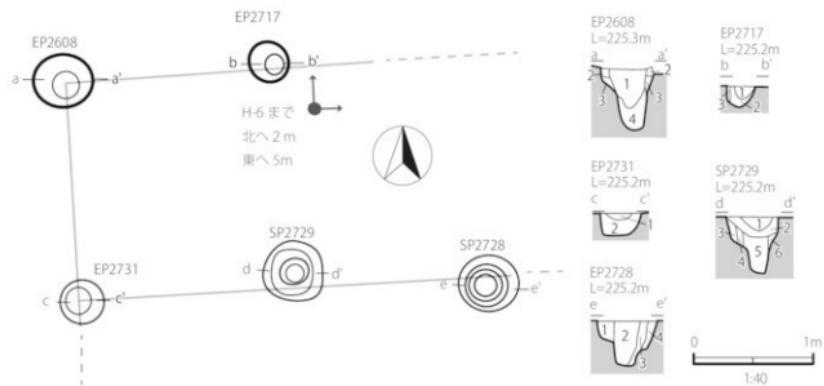
第26図 S B 4 掘立柱建跡

2 2.5Y5/2 暗灰黄色	粘質シルト	褐色土混入
3 5Y4/1 灰色	粘質シルト	褐色土混入
4 2.5Y2/1 黒色	粘質シルト	褐色土混入
5 5Y 5/1 灰オリーブ色	粘質シルト	褐色土混入

SP2131 i-i'	粘質シルト	褐色土混入
1 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト	褐色土混入
2 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト	褐色土混入
3 5Y4/1 灰色	粘質シルト	褐色土混入

SP2123 k-k'	粘質シルト	褐色土混入
1 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト	褐色土混入
2 10YR3/1 黑褐色	粘質シルト	褐色土混入

### III 遺跡の概要



第 27 図 SB5 挖立柱建物跡

#### SB5 掘立柱建物跡

EP2608-a'

1 10YR2/2 黒褐色  
2 10YR2/3 黑褐色  
3 10YR3/3 噴褐色  
4 10YR2/1 黑色

EP2717 b-b'

1 10YR2/2 黑褐色  
2 10YR2/1 黑色  
3 2.5Y2/1 黑色

EP2731 c-c'

1 10YR2/1 黑色  
2 10YR2/2 黑褐色

EP2729 d-d'

1 10YR2/2 黑褐色  
2 10YR3/2 黑褐色  
3 10YR2/2 黑褐色  
4 10YR3/1 黑褐色  
5 10YR2/1 黑色  
6 10YR3/2 黑褐色

EP2728 e-e'

1 10YR2/2 黑褐色  
2 10YR2/1 黑色  
3 10YR2/1 黑色  
4 10YR3/1 黑褐色

#### SB6 掘立柱建物跡

SP2649 a-a'

1 10YR2/1 黑色  
2 10YR2/2 黑褐色  
3 2.5Y3/1 黑褐色  
4 10YR2/1 黑色  
5 10YR2/1 黑色  
6 2.5Y2/1 黑色  
7 10YR3/2 黑褐色  
8 2.5Y4/3 オリーブ褐色

EP179 EP180 b-b'

1 10YR2/1 黑色  
2 10YR3/1 黑褐色  
3 10YR4/2 黄褐色

4 10YR2/1 黑色  
5 2.5Y2/1 黑色  
6 2.5Y3/1 黑褐色  
7 10YR2/2 黑褐色

SP2192 c-c'  
1 2.5Y2/1 黑色  
2 5Y3/1 オリーブ黑色  
3 2.5Y3/3 暗オリーブ色

SP2380 d-d'  
1 10YR2/1 黑色  
2 10YR2/2 黑褐色  
3 10YR2/2 黑褐色  
4 10YR2/1 黑色

SP2186 e-e'  
1 5Y2/1 黑色  
2 5Y2/1 黑色  
3 5Y2/1 黑色  
4 2.5Y2/1 黑色  
5 5Y2/2 オリーブ黑色

SP2188 SP2189 f-f'  
SP2188 1 2.5Y2/1 黑色  
SP2189 2 2.5Y3/2 黑褐色  
3 2.5Y3/1 黑褐色

SP2190 SP2191 g-g'  
SP2190 1 2.5Y2/1 黑色  
2 2.5Y2/1 黑色  
3 2.5Y3/1 黑褐色  
SP2191 4 5Y3/1 オリーブ黑色  
5 2.5Y3/1 黑褐色

SP3295 h-h'  
1 10YR2/2 黑褐色  
2 10YR3/1 黑褐色  
3 2.5Y2/1 黑色  
4 10YR2/1 黑色  
5 10YR2/1 黑色

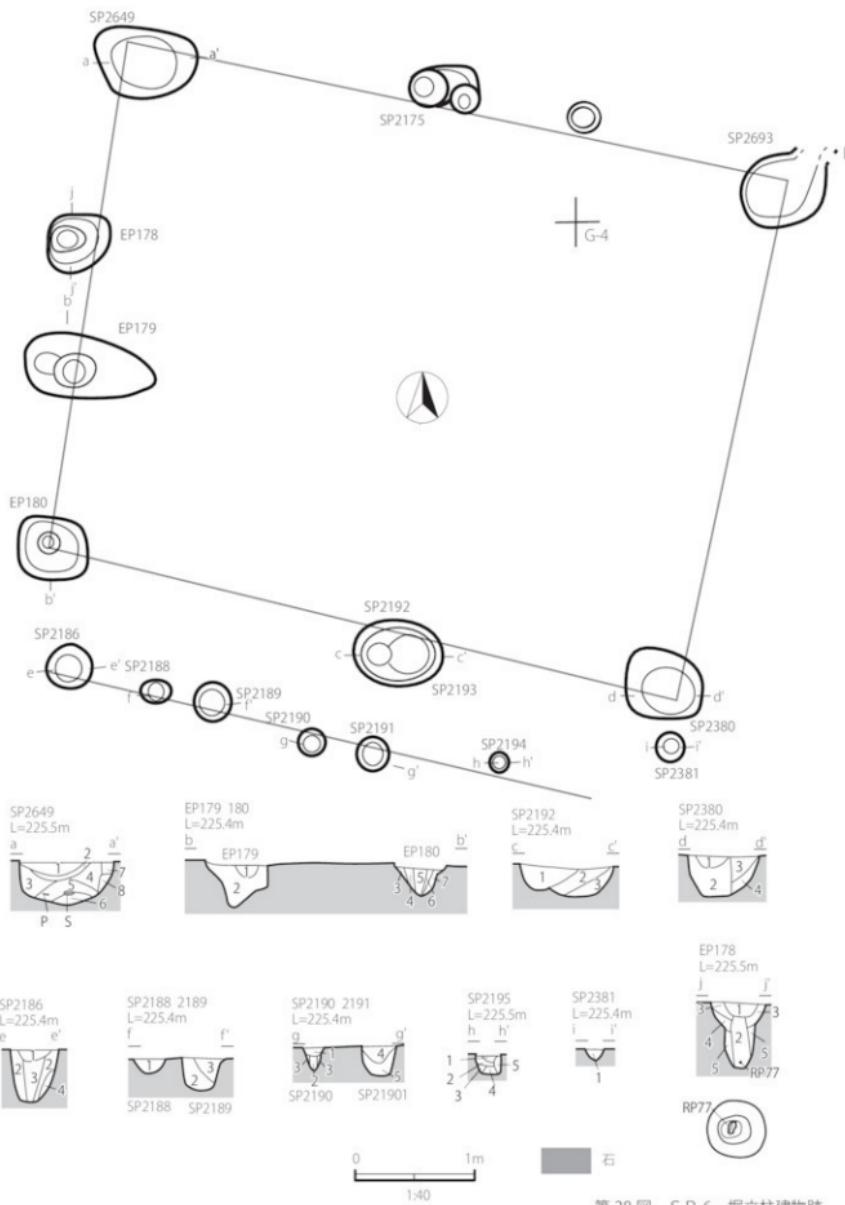
SP2381 i-i'  
1 10YR2/1 黑色

EP178 j-j'  
1 10YR1.7/1 黑色  
2 10YR2/1 黑色  
3 10YR3/3 噴褐色  
4 10YR4/2 黄褐色  
5 10YR2/1 黑色

砂質粘土 かたくしまる  
砂質粘土 かたくしまる

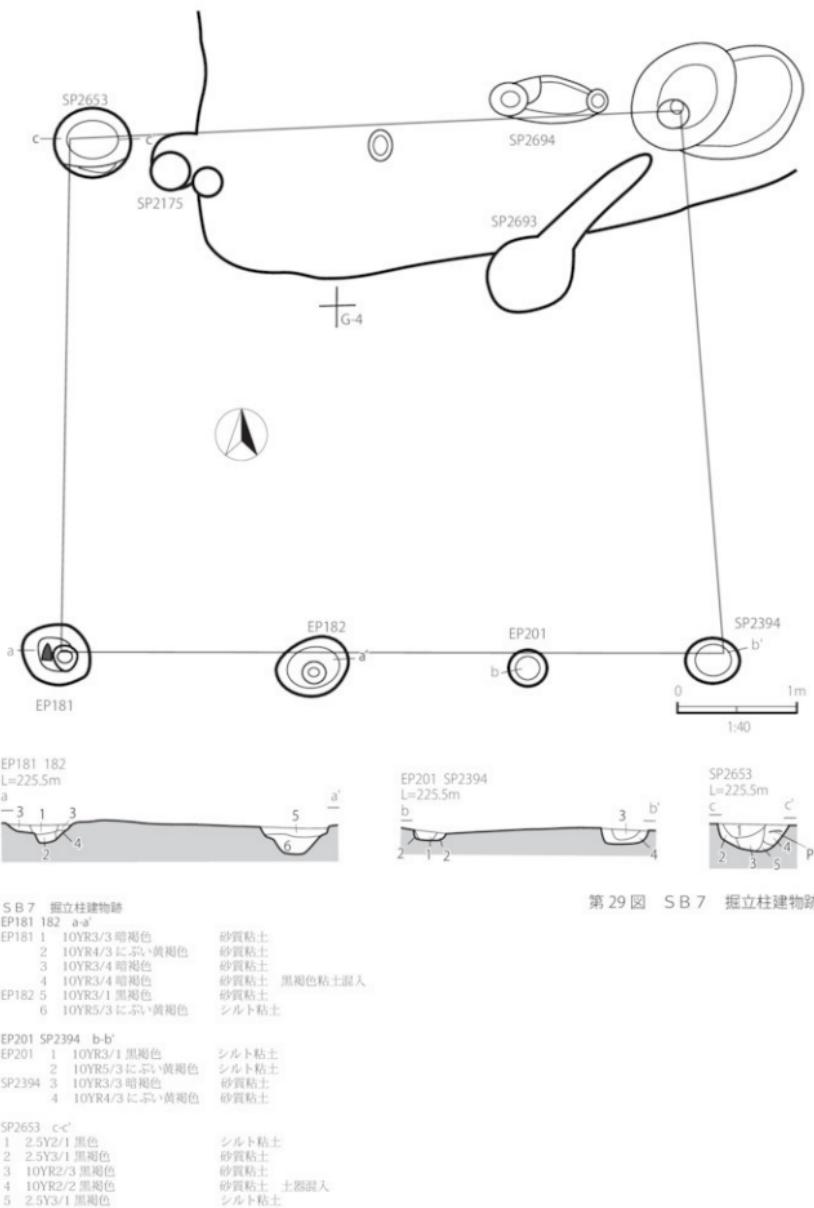
砂質粘土

シルト粘土  
シルト粘土  
砂質粘土  
シルト粘土  
シルト粘土

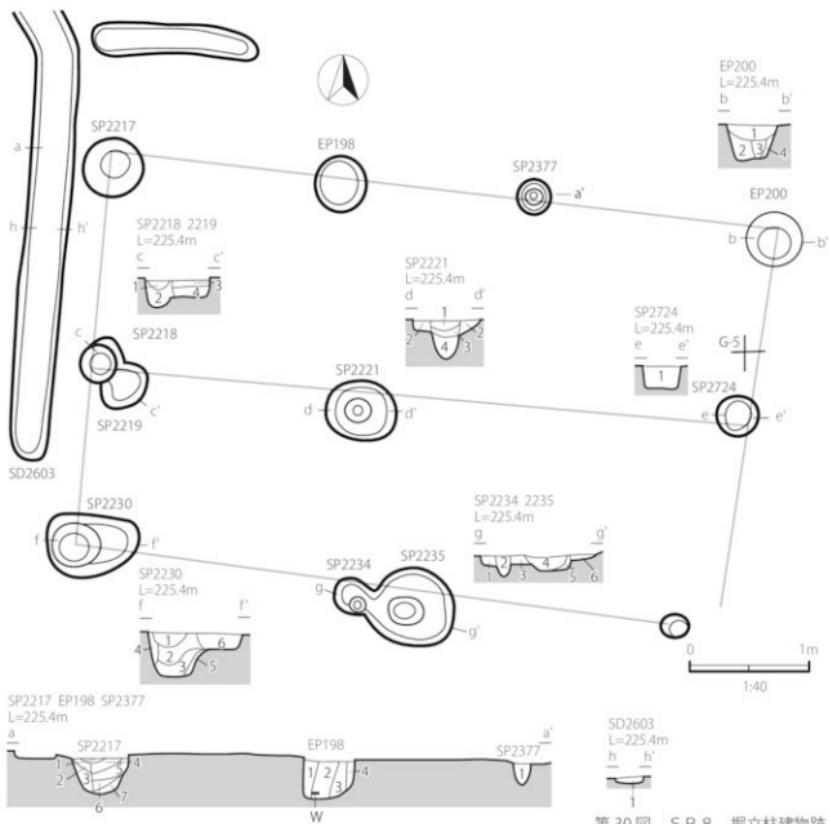


第28図 SB 6 掘立柱建物跡

### III 遺跡の概要



第29図 SB 7 挖立柱建物跡



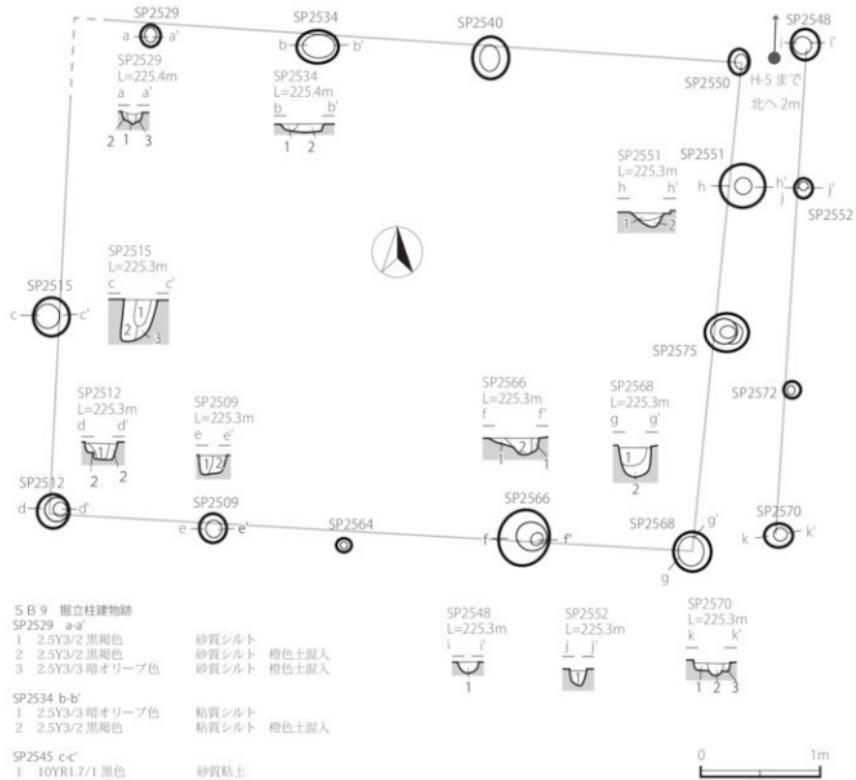
### 第30図 SB8 据立柱建物跡

S B 8	堀川柱建物跡	
SP2117	1 10YR2/2 黒褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 2.5Y1/1 黑色 4 10YR3/2 黑褐色 5 10YR3/1 黑褐色 6 10YR2/1 黑色 7 2.5Y1/1 黑色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土
EP198	1 10YR3/1 黑褐色 2 2.5Y1/1 黑色 3 10YR2/2 黑褐色 4 10YR4/2 黄灰褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土
SP377	1 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
<b>EP200 b-b'</b>		
1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR2/1 黑色	粘質シルト
3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト
4	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR2/1 黑色粘土混入 砂質シルト

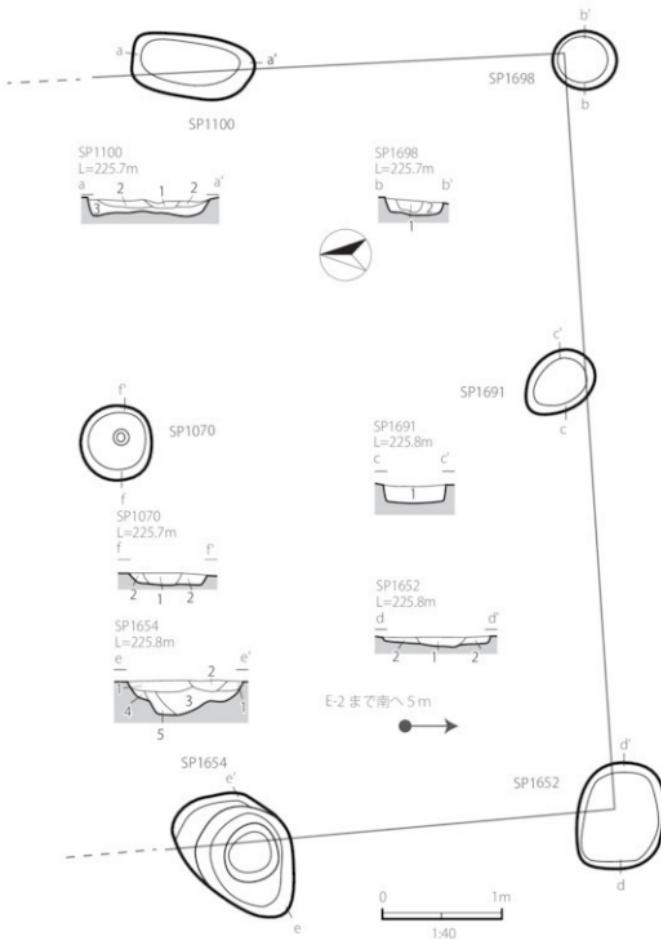
SP2221	d-d'
1	10YR3/1 黑褐色
2	2.5Y4/2 咨灰黃色
3	10YR2/1 黑色
4	2.5Y3/2 黑褐色
SP2724	e-e'
1	10YR2/2 黑褐色
SP2230	f-f'
1	10YR1.7/1 黑色
2	10YR2/2 黑褐色
3	10YR2/1 黑色
4	10YR2/2 黑褐色

砂質粘土 かたくしまる  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土 やわらかい  
  
砂質粘土  
7.5YR5/6 明褐色粘土混入  
  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土  
  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質粘土  
砂質シルト  
砂質粘土

### III 遺跡の概要



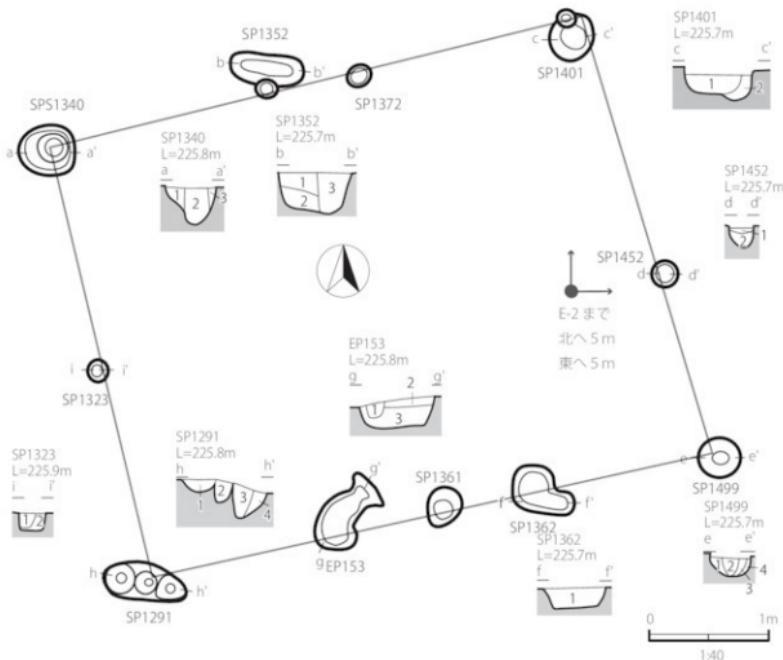
第31図 SB 9 捜立柱建物跡



第32図 SB 10 据立柱建物跡

SP1100 a-a'	粘土 土嚢物混入	SP1698 b-b'	粘質シルト
1 TOYR1.7/1 黒色	粘質シルト	1 2.5Y3/2 黒褐色	粘土 かたくしまる
2 TOYR1.7/1 黒色	粘質シルト	2 TOYR2/1 黒色	粘質シルト かたくしまる
3 TOYR3/1 黒褐色		3 2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト かたくしまる
SP1070 c-c'		4 TOYR4/1 褐灰色	
1 2.5Y3/3 噴オリーブ色		5 TOYR3/1 黒褐色	
SP1691 c-c'			
1 2.5Y3/3 噴オリーブ色	粘質シルト		
SP1654 d-d'			
1 2.5Y3/3 噴オリーブ色			
2 2.5Y3/3 噴オリーブ色			
SP1652 e-e'			
1 2.5Y3/3 噴オリーブ色			
2 2.5Y3/3 噴オリーブ色			
SP1652 f-f'			
1 2.5Y3/3 噴オリーブ色	粘質シルト 2.5Y3/1 黒褐色混入	2 2.5Y3/3 噴オリーブ色	粘質シルト
2 2.5Y3/3 噴オリーブ色			

### III 遺跡の概要



第33図 S B 11 振立柱建物跡

#### S B 11 振立柱建物跡

SP1340 a-a'  
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色  
2 2.5Y2/1 黒色  
3 2.5Y4/2 暗灰黄色

SP1352 b-b'  
1 2.5Y3/1 黑褐色  
2 2.5Y5/2 暗灰黄色  
3 2.5Y3/1 黑褐色

SP1401 c-c'  
1 2.5Y3/1 黑褐色  
2 2.5Y3/1 黑褐色

SP1452 d-d'  
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色  
2 2.5Y4/2 暗灰黄色

SP1499 e-e'

1 2.5Y4/1 黄灰色  
2 2.5Y4/2 暗灰黄色  
3 2.5Y4/1 黄灰色  
4 2.5Y3/1 黑褐色

SP1362 f-f'

1 2.5Y4/3 オリーブ褐色

EP153 g-g'

1 2.5Y3/2 黑褐色  
2 2.5Y3/3 暗オリーブ色  
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色

粘質シルト  
粘質シルト  
粘質シルト

粘質シルト  
粘質シルト  
粘質シルト

砂質粘土  
粘質シルト

粘質シルト  
粘質シルト

粘質シルト

粘質シルト

粘質シルト  
粘質シルト  
粘質シルト

#### SP1291 h-h'

1 10YR3/1 黑褐色  
2 2.5Y4/2 暗灰黄色  
3 2.5Y4/2 暗灰黄色  
4 2.5Y5/3 黄褐色

粘質シルト  
粘質シルト  
粘質シルト  
粘質シルト

#### SP1323 i-i'

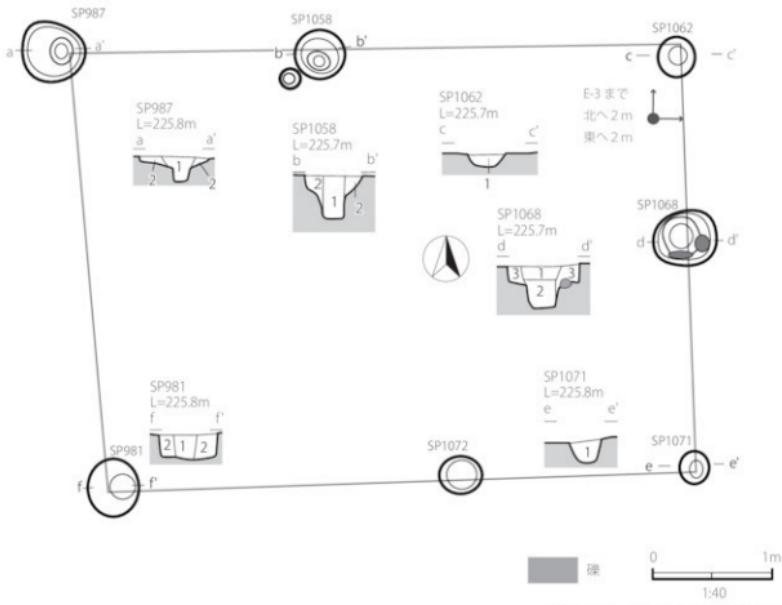
1 2.5Y3/2 黑褐色  
2 2.5Y3/3 暗オリーブ色

粘質シルト  
粘質シルト

#### SP1362 f-f'

1 2.5Y3/2 黑褐色  
2 2.5Y3/3 暗オリーブ色

粘質シルト



第34図 SB 12 掘立柱建物跡

## SB 12 掘立柱建物跡

SP987 a-a'

- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ色
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色

SP1058 b-b'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ色

SP1062 c-c'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色

SP1068 d-d'

- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ色
- 2 2.5Y3/2 黒褐色
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色

SP1071 e-e'

- 1 2.5Y3/2 黑褐色

SP981 f-f'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色
- 2 10YR5/2 灰黄褐色

粘質シルト

## SB 13 掘立柱建物跡

SP1863 a-a'

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色
- 2 2.5Y3/2 黑褐色

SP1859 b-b'

- 1 2.5Y2/1 黒色
- 2 2.5Y4/1 黄灰色
- 3 2.5Y4/1 黄灰色
- 4 2.5Y4/1 黑色
- 5 2.5Y3/2 黑褐色

SP1873 c-c'

- 1 2.5Y2/1 黒色
- 2 2.5Y4/1 黄灰色
- 3 5Y4/1 黄色

SP 1731 I 2.5Y4/2 暗灰黄色

- 2 2.5Y2/1 黑色
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ色
- SP1732 I 2.5Y3/1 黑褐色
- 2 2.5Y3/2 黑褐色
- SP1731 I 2.5Y2/1 黑色
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ色

EP168・SP1847 e-e'

- 1 10YR4/1 黄褐色
- 2 10YR1/1 黑色
- 3 10YR3/1 黑褐色
- 4 10YR4/2 底黄褐色
- 5 10YR3/1 黑褐色
- 6 10YR4/1 黄色

EP167・SP1562・1579 f-f'

- 1 10YR5/4 に赤い黄褐色
- 2 2.5Y3/1 黑褐色
- 3 2.5Y3/2 黑褐色
- 4 2.5Y3/3 暗オリーブ色

粘質シルト

粘質シルト

- 粘質シルト 棕色土混入
- 粘質シルト 棕色土混入
- 粘質シルト 棕色土混入
- 粘質シルト かたくしまる

- 粘質シルト 棕色土混入
- 粘質シルト 棕色土混入
- 粘質シルト 棕色土混入

粘質シルト

粘質シルト

粘質シルト

粘質シルト

粘質シルト

粘質シルト

粘土 かたくしまる

粘土 10YR4/4 褐色混入

粘質シルト かたくしまる

粘質シルト

粘質シルト

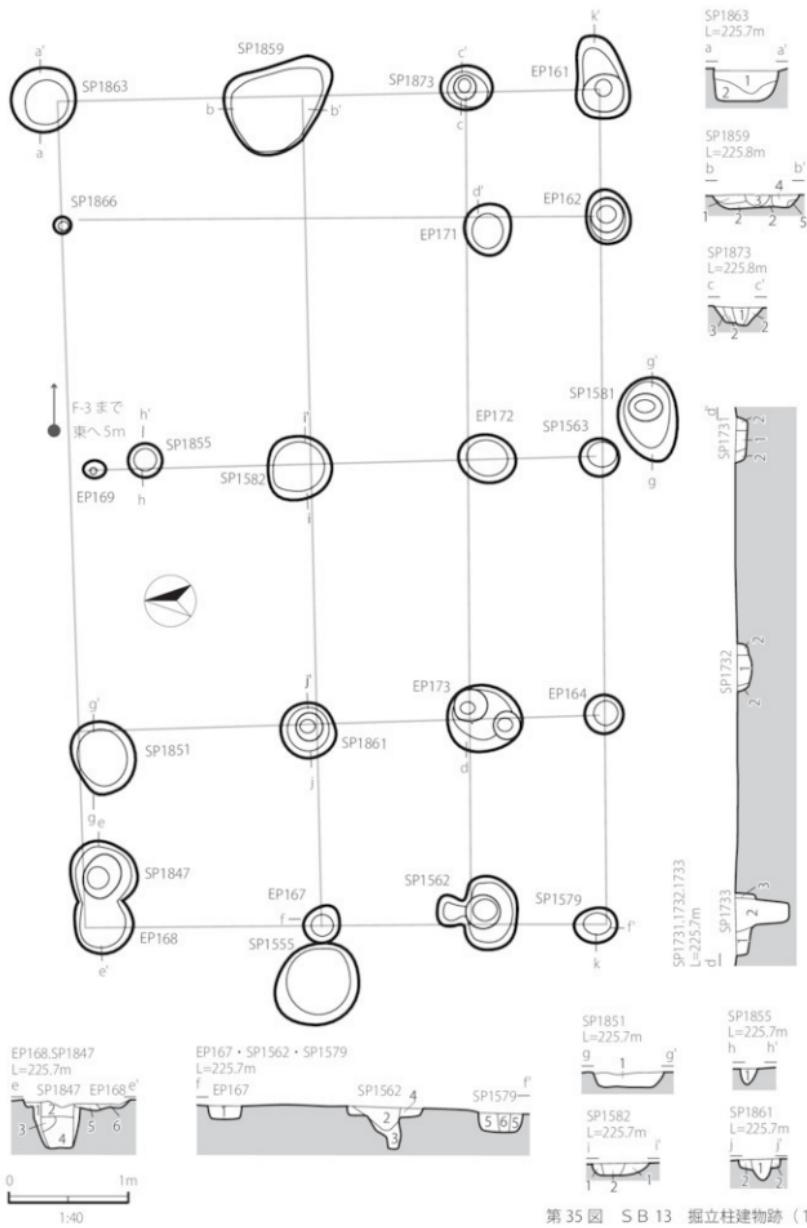
粘質シルト

粘質シルト

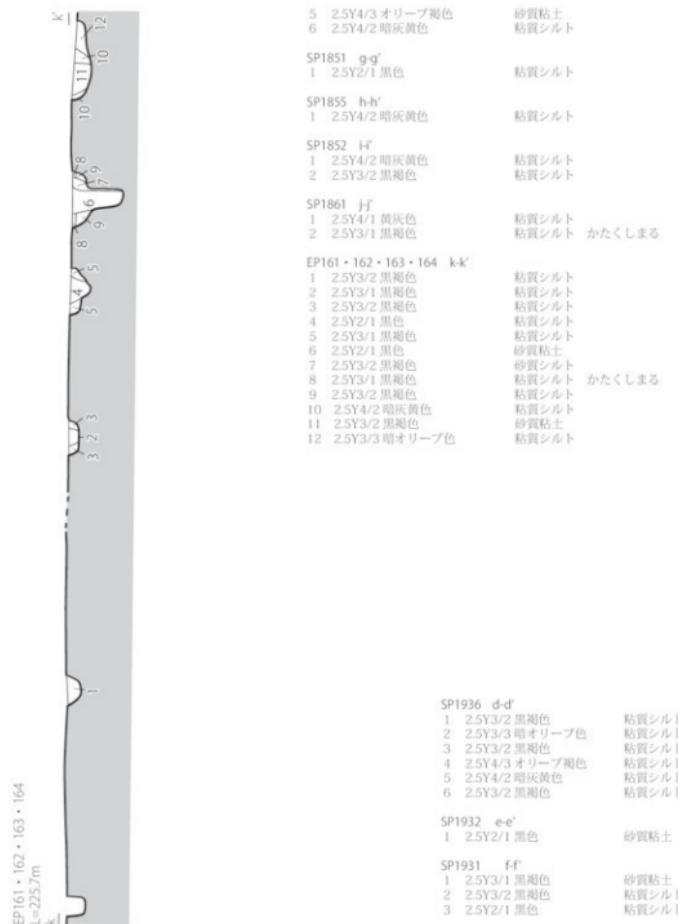
粘質シルト

粘質シルト

III 遺跡の概要



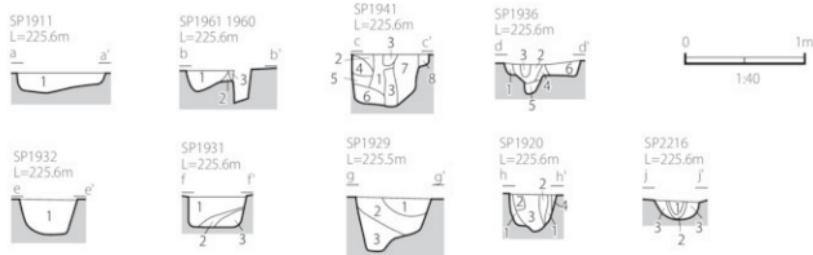
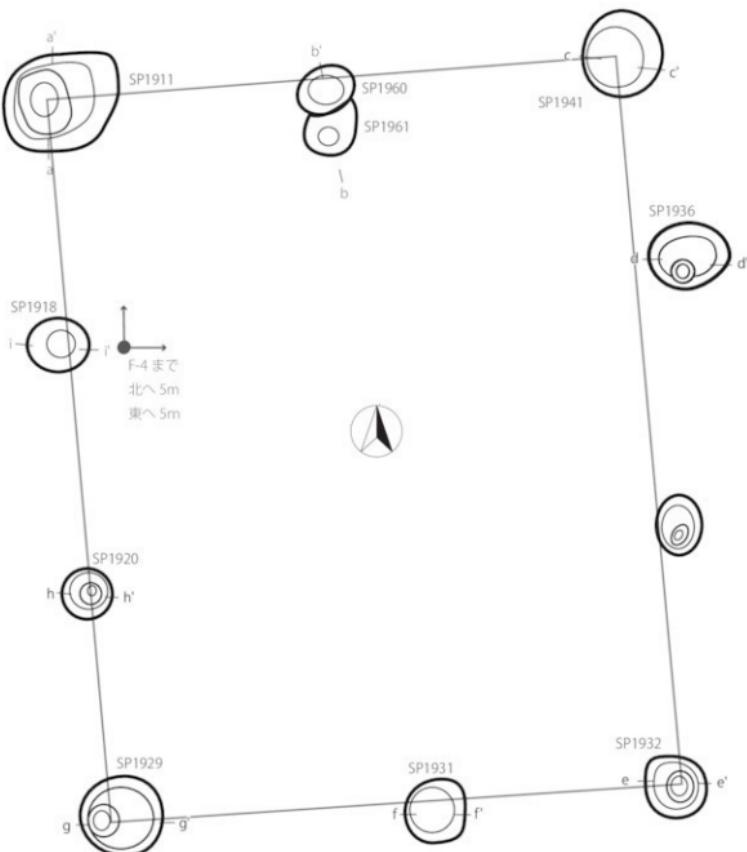
第35図 S B 13 挖立柱建物跡（1）



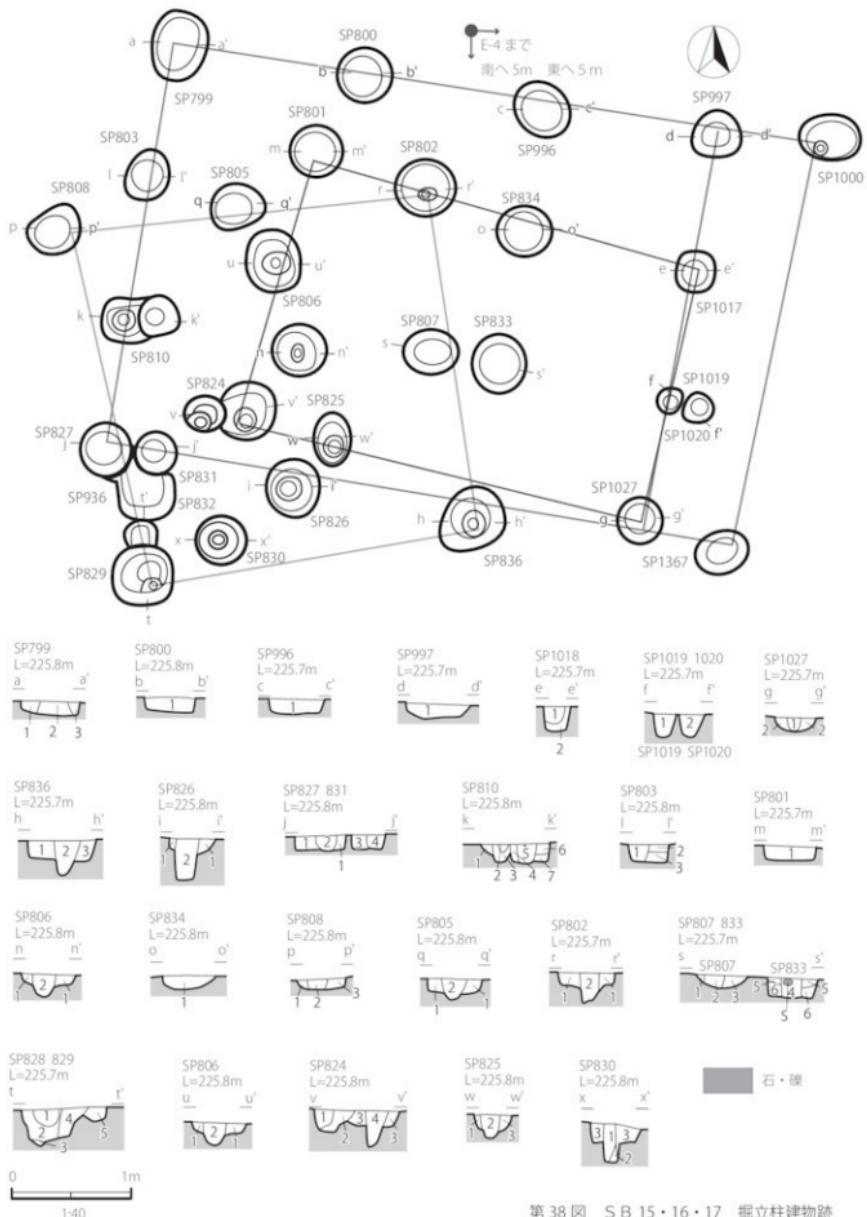
第36図 SB 13 捩立柱建物跡（2）

S 14	据立柱建物跡	
SP1911	a-a'	
1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
S 1960・1961	b-b'	
1	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土
2	2.5Y3/2 黑褐色	砂質粘土
3	2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土
SP1941	c-c'	
1	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土
2	2.5Y2/1 黑色	粘質シルト
3	2.5Y4/1 黄灰色	粘土
4	2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土 2.5Y4/1 黄灰色混入
5	2.5Y2/1 黑色	砂質粘土 2.5Y4/1 黄灰色混入
6	2.5Y4/1 黄灰色	砂質粘土
7	2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
8	2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト

### III 遺跡の概要

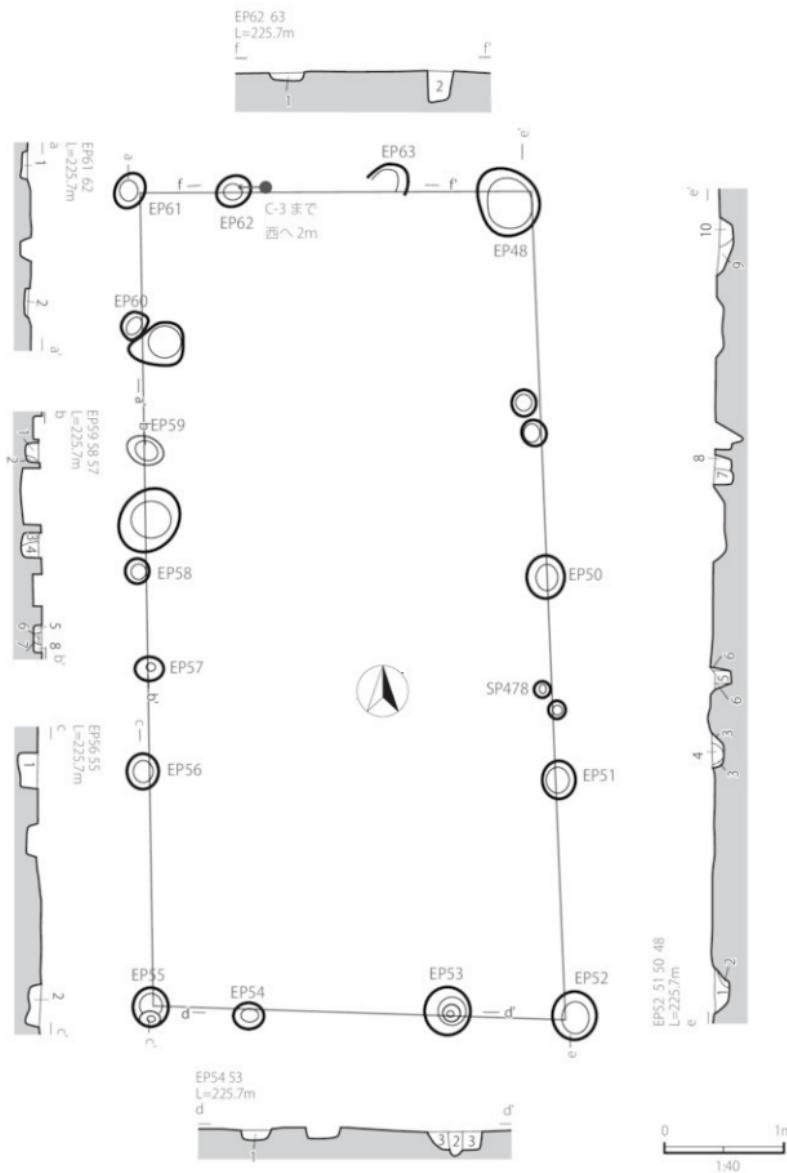


第37図 SB 14 据立柱建物跡



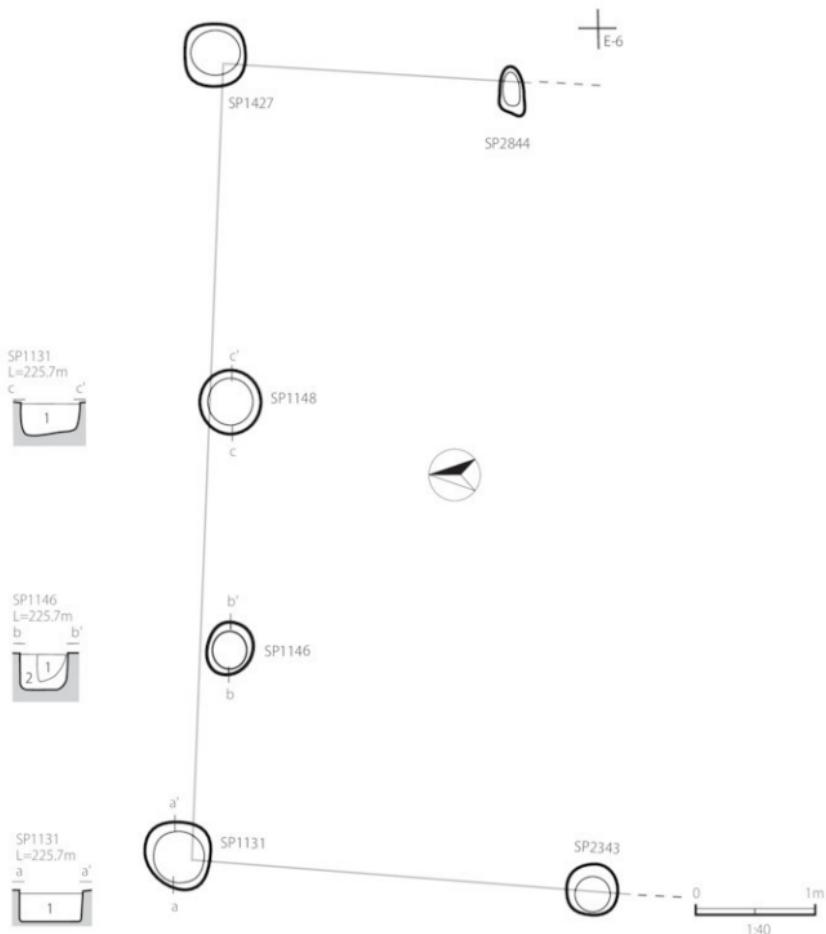
### 第38図 SB 15・16・17 掘立柱建物跡





第39図 SB 18 捩立柱建物跡

### III 遺跡の概要



第 40 図 S B 19 掘立柱建物跡

#### S B 19 掘立柱建物跡

SP1131 a-a'  
1 2.5Y4/2 暗灰黄色

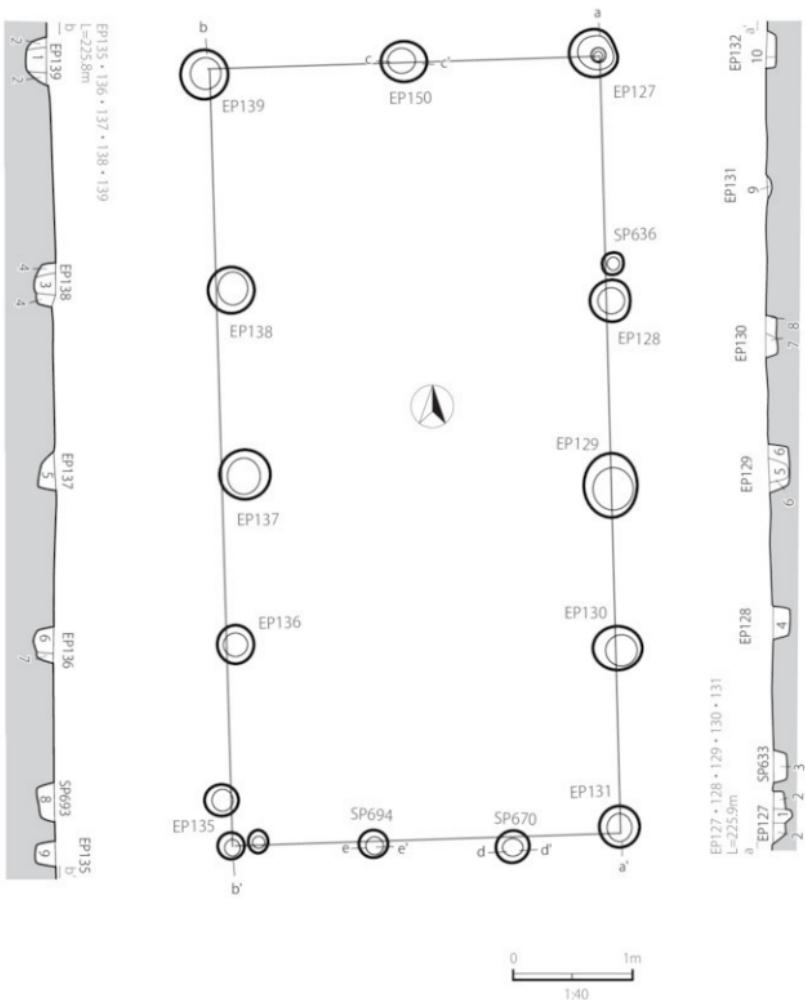
粘質シルト

SP1146 b-b'  
1 2.5Y4/2 暗灰黄色  
2 2.5Y3/2 黒褐色

粘質シルト  
粘質シルト

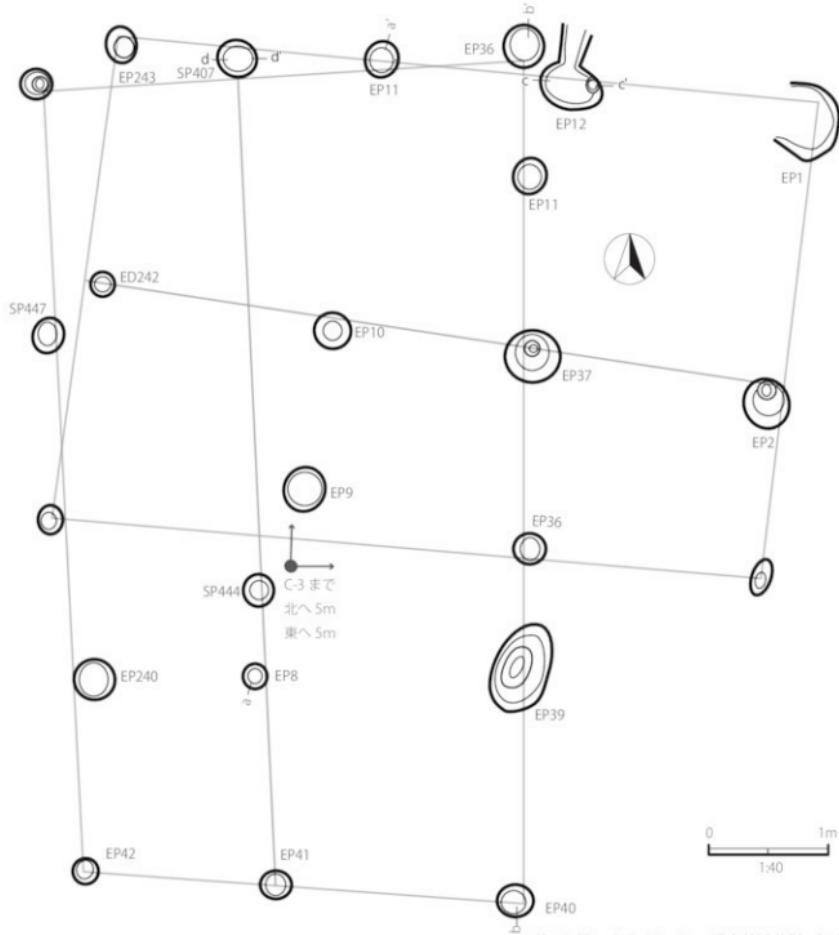
SP1148 c-c'  
1 2.5Y4/2 暗灰黄色

粘質シルト



第41図 SB22 挖立柱建物跡

### III 遺跡の概要



第42図 S B 20・21 掘立柱建物跡 (1)

S B 20・21 掘立柱建物跡  
EP8・EP9・EP10・EP11 a-a'

- |      |                |
|------|----------------|
| EP6  | 1 IOYR4/4 棕褐色  |
| 2    | IOYR3/3 塗褐色    |
| EP9  | 3 IOYR2/2 黑褐色  |
| 4    | IOYR2/1 黑色     |
| EP10 | 5 IOYR5/2 斑黄褐色 |
| 6    | IOYR2/2 黑褐色    |
| EP11 | 7 IOYR4/2 斑黄褐色 |
| 8    | IOYR2/2 黑褐色    |

EP36・37・38・39・40 b-b'

- |      |                |
|------|----------------|
| EP40 | 1 IOYR4/2 斑黄褐色 |
| 2    | IOYR4/6 褐色     |
| EP39 | 3 IOYR3/2 黑褐色  |
| 4    | IOYR2/2 黑褐色    |
| EP38 | 5 IOYR2/1 黑色   |

EP37 6 IOYR2/1 黑色  
7 IOYR4/4 棕褐色  
8 IOYR2/1 黑褐色  
9 IOYR4/2 斑黄褐色

- |      |              |
|------|--------------|
| EP36 | 6 IOYR2/1 黑色 |
| 7    | IOYR4/4 棕褐色  |
| 8    | IOYR2/1 黑褐色  |
| 9    | IOYR4/2 斑黄褐色 |

EP12 c-c'  
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色  
2 5Y3/1 オリーブ黑色

- |       |                |
|-------|----------------|
| SP407 | d-d'           |
| 1     | 2.5Y4/4 オリーブ褐色 |

粘質シルト

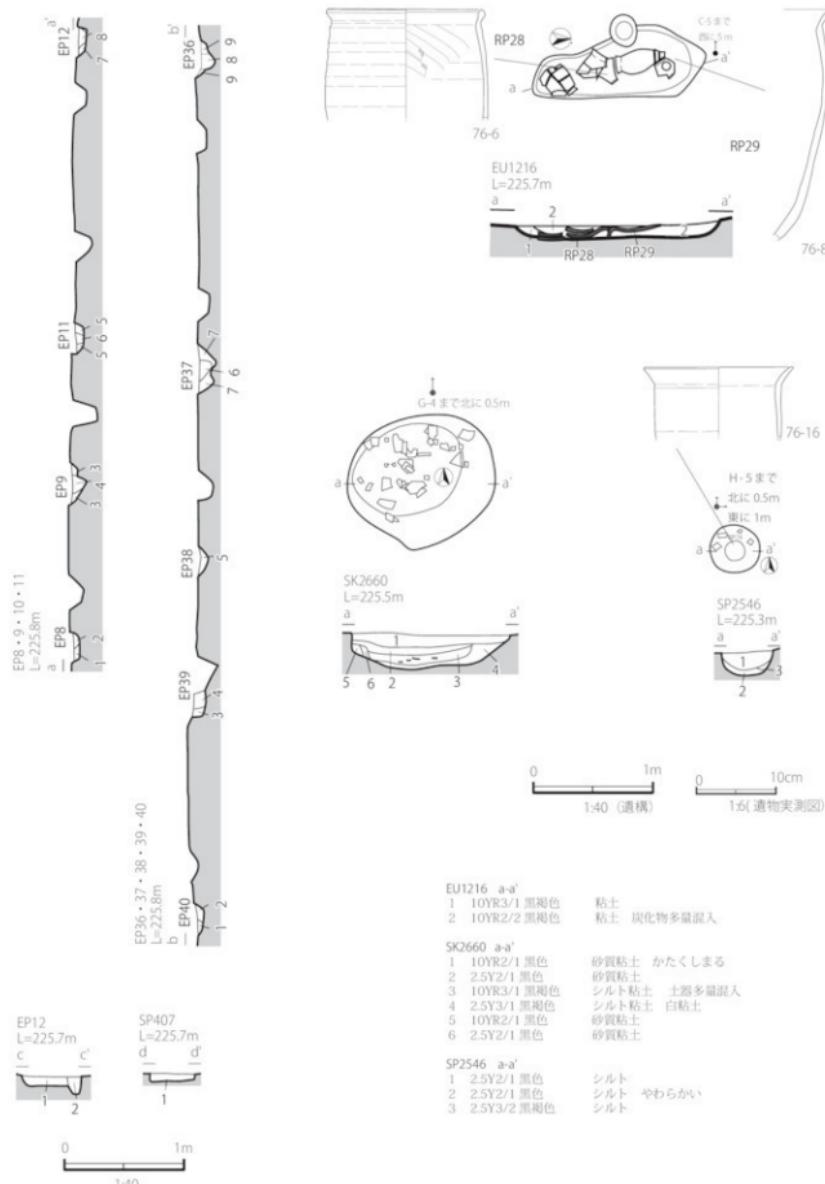
粘質シルト

粘質シルト

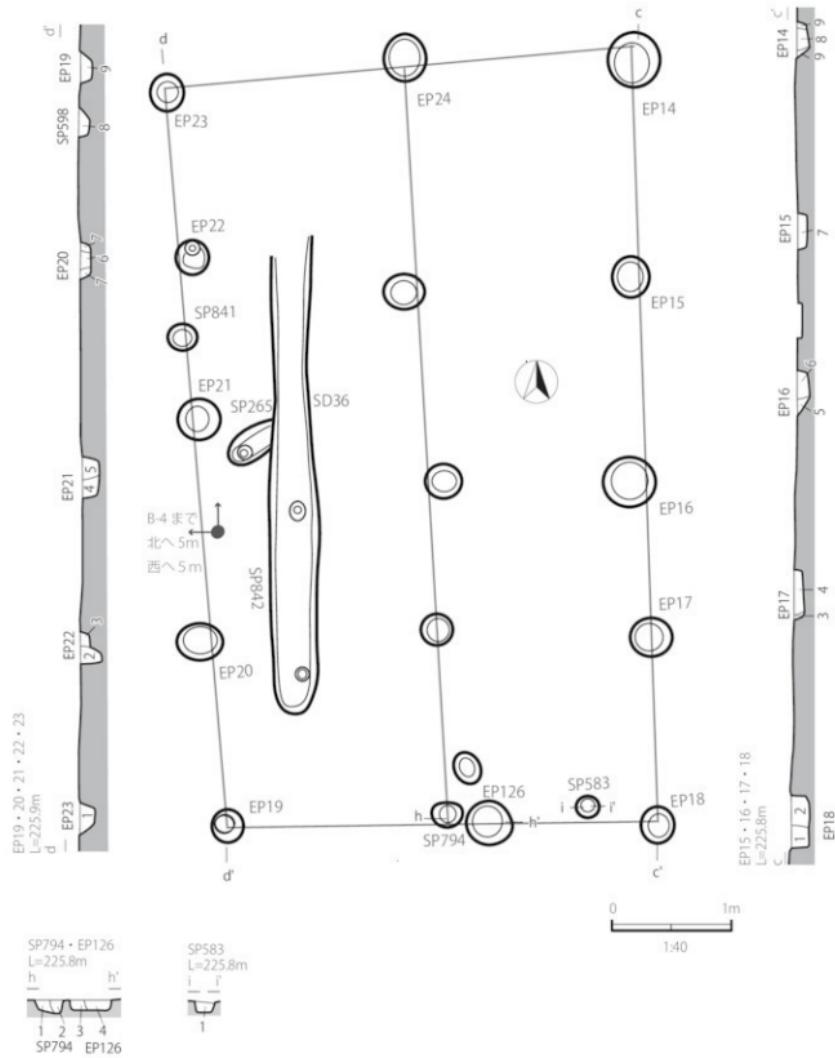
粘質シルト

粘質シルト

粘質シルト



第43図 SB 20・21 掘立柱建物跡（2）A区 SK・SP・EU 土器出土状況



第44図 SB 23 据立柱建物跡

## S B 22 捩立柱建物跡

EP127	1 - 128 - 129 - 130 - 131 - SP633 - 634 - 662	a-a'
EP127	1 2.5Y3/2 黒褐色	粘質シルト
	2 2.5Y3/5 明オリーブ褐色	粘質シルト
SP633	3 2.5Y3/1 黒褐色	粘質シルト
EP128	4 2.5Y3/2 黒褐色	粘質シルト
EP129	5 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
	6 2.5Y3/2 黒褐色	粘質シルト
EP130	7 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
	8 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
	9 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
EP132	10 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト

## EP135 - 136 - 137 - 138 - 139 b-b'

EP139	1 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
	2 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
EP138	3 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
	4 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
EP137	5 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
EP136	6 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
	7 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
SP693	8 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
EP135	9 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト

## EP150 c-c'

1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
2	2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
3	2.5Y3/3 暗オリーブ色	粘質シルト

## SP694 d-d'

1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
---	--------------	-------

## SP670 e-e'

1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
---	--------------	-------

## S B 24 捩立柱建物跡

EP104	1 112 - 111 - 110 - 109	a-a'
EP109	1 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
	2 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
EP110	3 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
	4 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
EP111	5 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
EP112	6 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
EP104	7 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト やわらかい
	8 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
	9 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト

## EP105 b-b'

1	2.5 Y 3/1 黑褐色	粘質シルト
---	---------------	-------

## EP106 - SP586 - EP107 - 108 c-c'

EP108	1 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
	2 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
EP107	3 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
	4 2.5Y4/3 明オリーブ褐色	粘質シルト
	5 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
	6 2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘質シルト

## SP588 d-d'

1	10YR3/1 黑褐色	粘質シルト
2	2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト

## SP592 e-e'

1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
---	--------------	-------

## SD2 f-f'

1	10YR2/3 黑褐色	砂質シルト
---	-------------	-------

## S B 23 捩立柱建物跡

## EP115 - 116 - 117 - 118 a-a"

EP18	1 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
	2 2.5Y4/2 明灰黄色	粘質シルト
EP17	3 10Y R 3/3 暗褐色	粘質シルト
	4 2.5Y4/2 明灰黄色	粘質シルト
EP16	5 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト
	6 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
EP17	7 2.5Y4/2 明灰黄色	粘質シルト
EP18	8 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
	9 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト

## EP19 - 20 - 21 - 22 - 23 b-b'

EP23	1 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
EP22	2 10YR3/2 黑褐色	粘質シルト
	3 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
EP21	4 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
	5 2.5Y4/2 明灰黄色	粘質シルト
EP20	6 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
	7 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト
SP598	8 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
EP19	9 2.5Y3/3 明オリーブ色	粘質シルト

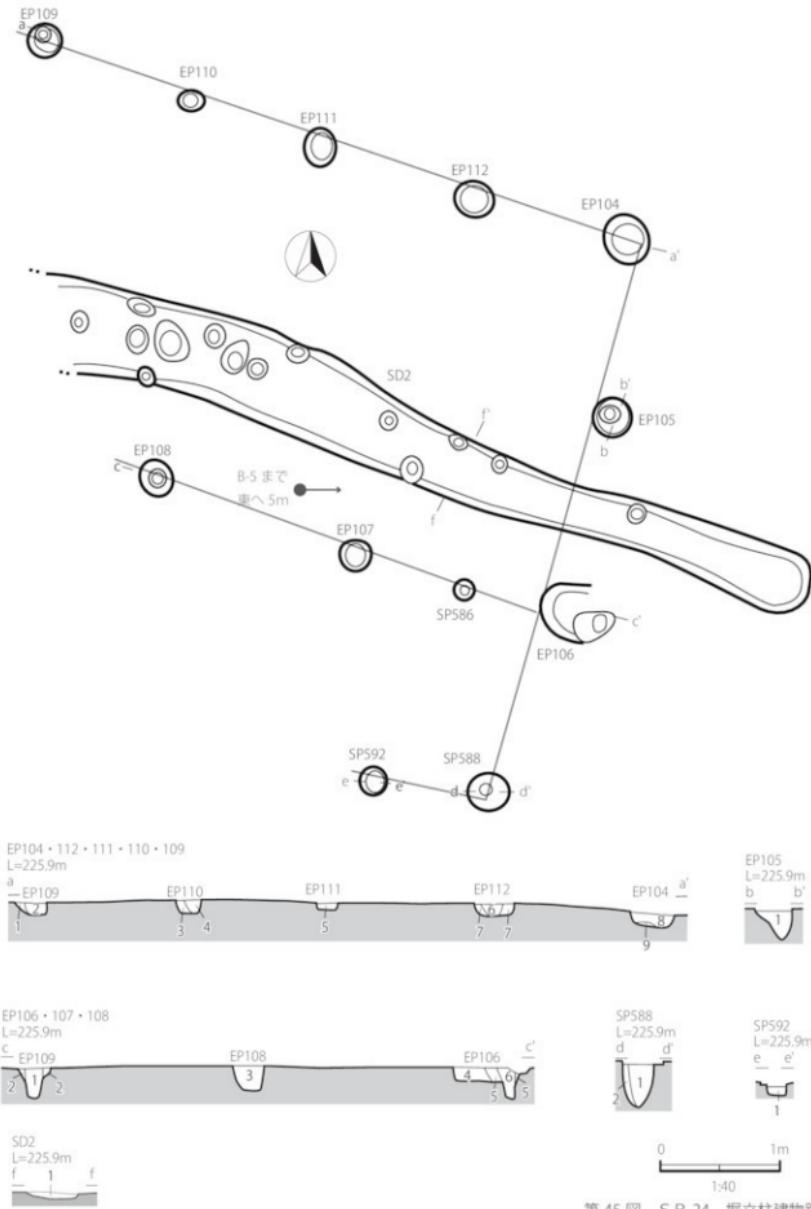
## SP794 - EP126 c-c'

SP794	1 2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘質シルト
	2 2.5Y3/1 黑褐色	粘質シルト
EP126	3 10YR4/2 黄褐色	粘質シルト

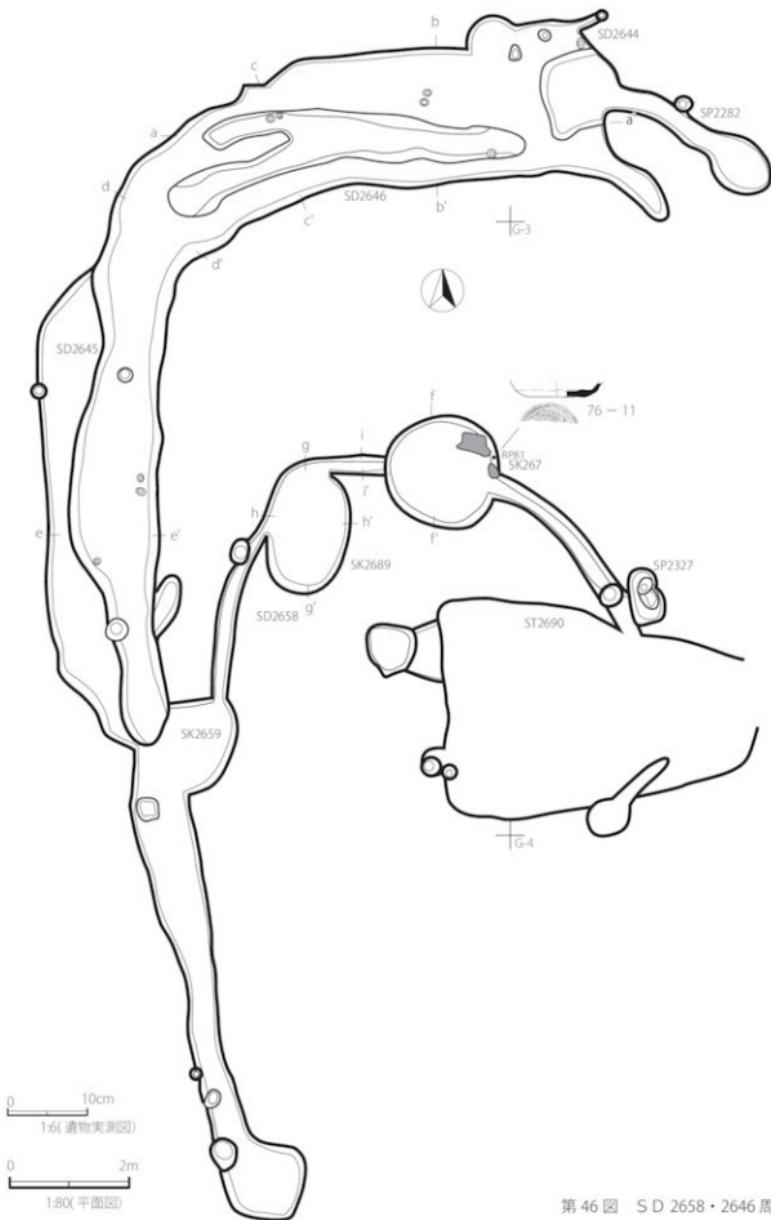
## SP583 d-d'

1	2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト
---	-------------	-------

### III 遺跡の概要

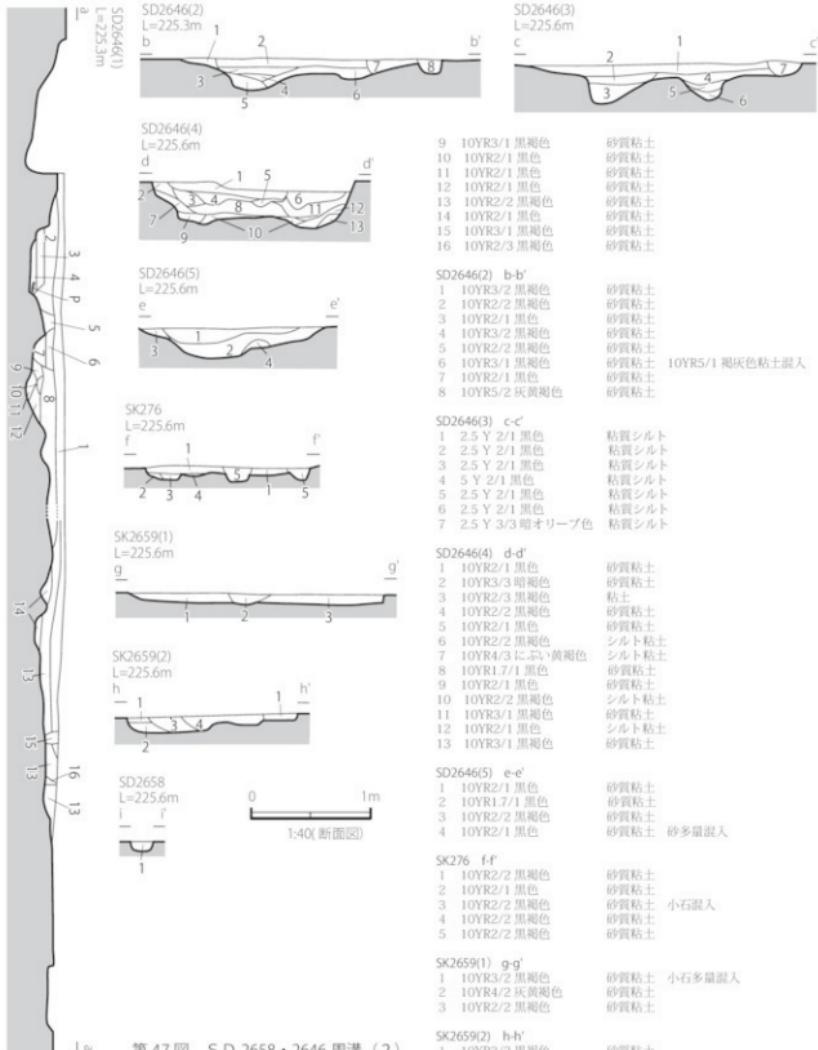


第 45 図 SB 24 掘立柱建物跡



第46図 SD 2658・2646周溝 (1)

### III 遺跡の概要



第47図 SD 2658・2646周溝(2)

SD2646(1) - a'-a	
1	10YR3/1 黑褐色
2	10YR3/1 黑褐色
3	10YR2/2 黑褐色
4	10YR3/2 黑褐色
5	10YR1/1 黑色
6	10YR3/2 黑褐色
7	10YR3/1 黑褐色
8	10YR3/2 黑褐色

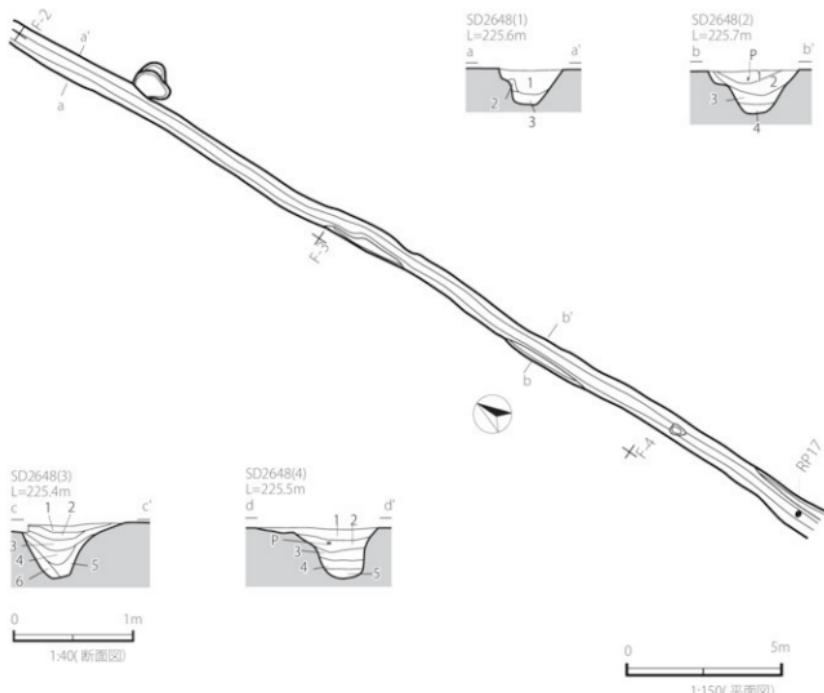
9	10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
10	10YR2/1 黑色	砂質粘土
11	10YR2/1 黑色	砂質粘土
12	10YR2/1 黑色	砂質粘土
13	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
14	10YR2/1 黑色	砂質粘土
15	10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
16	10YR2/3 黑褐色	砂質粘土
<b>SD2646(2) b'-b'</b>		
1	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
2	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
3	10YR2/1 黑色	砂質粘土
4	10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
5	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
6	10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
7	10YR2/1 黑色	砂質粘土
8	10YR5/2 灰黃褐色	砂質粘土
<b>SD2646(3) c-c'</b>		
1	2.5 Y 2/1 黑色	粘質シルト
2	2.5 Y 2/1 黑色	粘質シルト
3	2.5 Y 2/1 黑色	粘質シルト
4	5 Y 2/1 黑色	粘質シルト
5	2.5 Y 2/1 黑色	粘質シルト
6	2.5 Y 2/1 黑色	粘質シルト
7	2.5 Y 3/3 暗オーリーブ色	粘質シルト
<b>SD2646(4) d-d'</b>		
1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR3/3 明褐色	砂質粘土
3	10YR2/3 黑褐色	粘土
4	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
5	10YR2/1 黑色	砂質粘土
6	10YR2/2 黑褐色	シルト粘土
7	10YR4/3 に、暗 黃褐色	シルト粘土
8	10YR1.7/1 黑色	砂質粘土
9	10YR2/1 黑色	砂質粘土
10	10YR2/2 黑褐色	シルト粘土
11	10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
12	10YR2/1 黑色	シルト粘土
13	10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
<b>SD2646(5) e-e'</b>		
1	10YR2/1 黑色	砂質粘土
2	10YR1.7/1 黑色	砂質粘土
3	10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
4	10YR2/1 黑色	砂質粘土
		砂多量混入
		<b>10YR5/1 暗灰色粘土混入</b>

SK2659(f-f')	1 10YR2/2 黑褐色 2 10YR2/1 黑色 3 10YR2/2 黑褐色 4 10YR2/2 黑褐色 5 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	小石混入
SK2659(1) g-g'	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR4/2 灰黄褐色 3 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	小石多量混入
SK2659(2) h-h'	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR2/1 黑色 3 10YR2/1 黑色 4 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土 砂質粘土	10YR3/3 喷白色混入 小石少量混入

SD2658 i-i'  
1 10YR3/2 黑褐色 砂質粘土

ED1 a-a'				
1 2.5Y3/2 黒褐色	粘質シルト	2 10YR3/4 暗褐色	シルト粘土	シルト粘土
ED1-4 b-b'				
1 2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質粘土	3 7.5Y3/1 黒褐色	シルト粘土	シルト粘土
ED2 c-c'				
1 2.5Y2/1 黒色	シルト粘土	D34-38 A-A'		
ED2 d-d'				
1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト粘土	1 10YR R 3/2 黒褐色	シルト粘土	シルト粘土
ED2-4 e-e'				
1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト粘土	ED35-38 B-B'		
ED2-4 f-f'				
1 2.5Y3/1 黒褐色	シルト粘土	1 10YR2/2 黒褐色	粘土	粘土
ED3-42 g-g'				
1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト粘土	ED36 D-D'		
ED3 h-h'				
1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト粘土	1 10YR2/1 黑色	シルト粘土	シルト粘土
ED3-44 I-I'				
1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト粘土	ED36-39 E-E'		
2 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	1 2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト粘土	シルト粘土
ED3-4 J-J'				
1 5Y3/1 オリーブ黒色	シルト粘土	ED37 F-F'		
2 2.5Y3/2 黒褐色	シルト粘土	1 10YR2/1 黑色	シルト粘土	シルト粘土
3 5Y4/3 暗オリーブ色	シルト粘土	ED39 G-G'		
ED24-25 K-K'				
1 10YR3/3 暗褐色	シルト粘土	1 2.5Y3/2 黒褐色	シルト粘土	シルト粘土
2 10YR2/2 黑褐色	シルト粘土	ED48 H-H'		
ED26-38 m-m'				
1 10YR2/3 黑褐色	シルト粘土	1 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	シルト粘土
ED27-37 n-n'				
1 10YR2/1 黑色	シルト粘土	2 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	シルト粘土
ED27-38 o-o'				
1 10YR2/2 黑褐色	シルト粘土	3 2.5Y3/2 黑褐色	シルト粘土	シルト粘土
ED28 p-p'				
1 10YR2/2 黑褐色	シルト粘土	ED40 (1) K-K'		
2 10YR3/2 黑褐色	シルト粘土	1 10YR2/1 黑色	シルト粘土	シルト粘土
ED28-29 r-r'				
1 10YR2/2 黑褐色	シルト粘土	ED40 (2) L-L'		
2 10YR3/2 黑褐色	シルト粘土	1 2.5Y3/2 黑褐色	シルト粘土	シルト粘土
ED28-39 s-s'				
1 10YR2/1 黑色	粘土	ED41 M-M'		
2 10YR3/2 黑褐色	シルト粘土	1 5Y4/2 黑褐色	シルト粘土	シルト粘土
ED29-38 t-t'				
1 10YR2/1 黑色	シルト粘土	EA2710 2711 2712 2713 2714 O-O'		
ED30-38 u-u'				
1 10YR2/1 黑色	シルト粘土	1 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト	粘質シルト
2 10YR3/3 暗褐色	シルト粘土	2 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト	粘質シルト
ED32-38 w-w'				
1 10YR2/1 黑色	シルト粘土	3 2.5Y3/2 黑褐色	粘質シルト	粘質シルト
ED32-57 x-x'				
1 10YR2/1 黑色	粘土			
ED33 y-y'				
1 10YR2/1 黑色	シルト粘土			
ED33-38 z-z'				
1 10YR3/1 黑褐色	シルト粘土			

### III 遺跡の概要



SD2648(1) a-a'

1	2.5Y2/1	黒色 Black	砂質粘土 Sand-clay
2	2.5Y3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay
3	2.5Y3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay
4	2.5Y4/2	墓灰黄色 Ashy yellow	砂質シルト Sand-silt

SD2648(2) b-b'

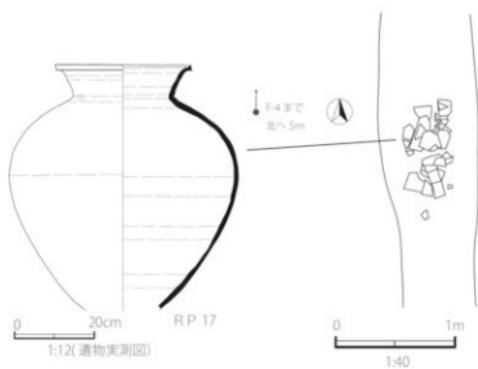
1	10YR2/1	黒色 Black	砂質粘土 Sand-clay
2	10YR2/1	黒色 Black	砂質粘土 Sand-clay
3	10YR2/1	黒色 Black	砂質粘土 Sand-clay
4	2.5Y2/1	黒色 Black	砂質粘土 Sand-clay

SD2648(3) c-c'

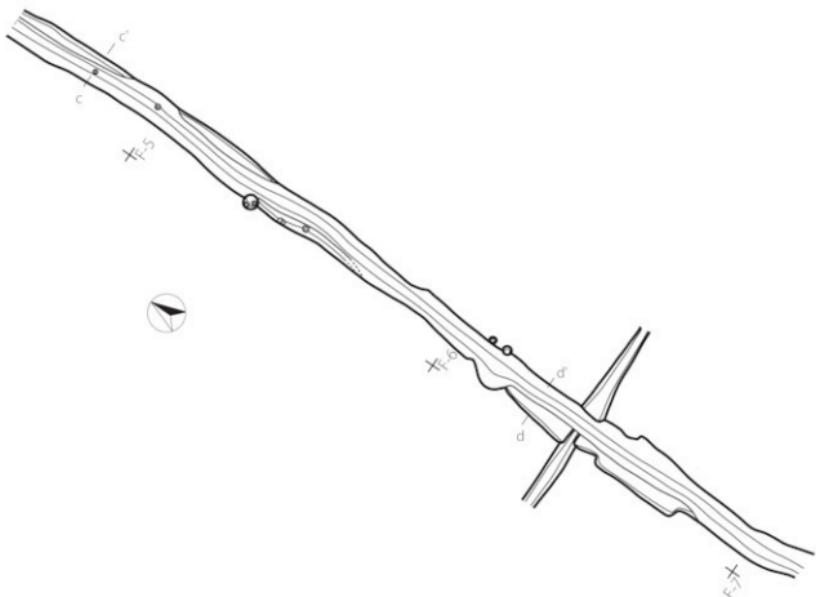
1	2.5Y3/1	黑褐色 Brownish black	粘質シルト Clay-silt
2	2.5Y2/1	黑色 Black	粘質シルト Clay-silt
3	2.5Y3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay
4	10YR3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay
5	10YR3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay
6	10YR3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay

SD2648(4) d-d'

1	2.5Y3/1	黑褐色 Brownish black	粘質シルト Clay-silt
2	2.5Y2/1	黑色 Black	粘質シルト Clay-silt
3	2.5Y3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay
4	10YR3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay
5	10YR3/1	黑褐色 Brownish black	砂質粘土 Sand-clay

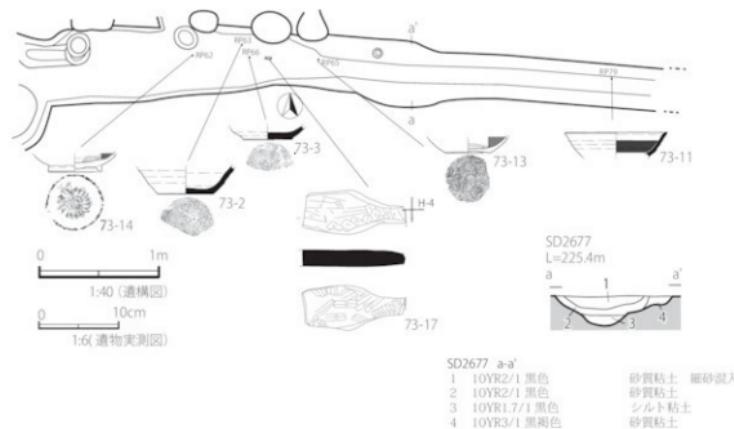


第48図 RP 17須恵器出土状況

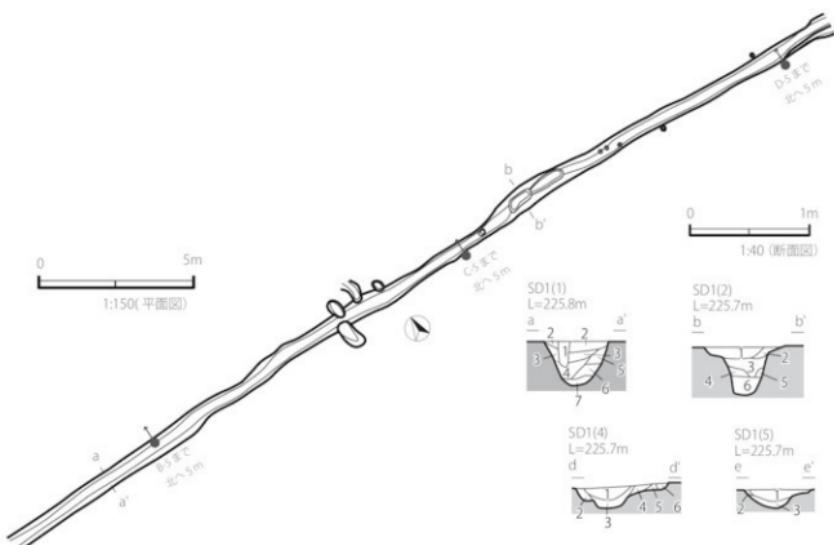


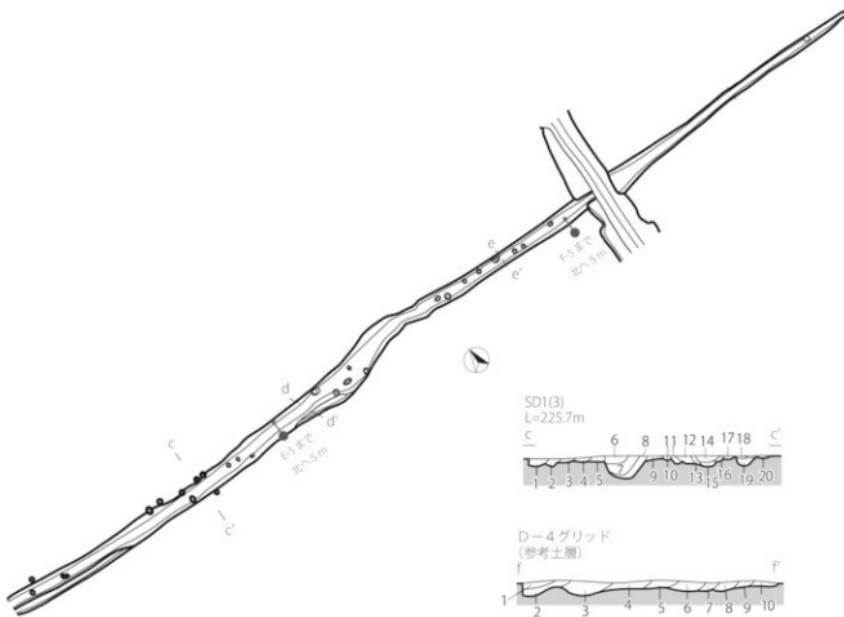
第49図 SD 2648 区画溝

III 遺跡の概要



第50図 SD 2677 溝 遺物出土状況





第51図 SD1 区画溝

## SD1(1) a-a'

- 1 7.5YR3/1 黒褐色
- 2 10YR2/2 黒褐色
- 3 10YR2/2 黒褐色
- 4 10YR3/1 黒褐色
- 5 10YR2/2 黒褐色
- 6 10YR2/1 黒色
- 7 10YR2/1 黒色
- 8 10YR2/3 黒褐色

粘土 柱状か?  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土

- 15 5Y4/2 灰オーブ色
- 16 2.5Y4/3 オーブ褐色
- 17 2.5Y4/3 オーブ褐色
- 18 5Y4/2 灰オーブ色
- 19 2.5Y4/2 灰灰黄色
- 20 2.5Y3/2 黑褐色

粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土

## SD1(2) b-b'

- 1 2.5Y3/1 黑褐色
- 2 2.5Y3/2 黑褐色
- 3 2.5Y3/1 黑褐色
- 4 2.5Y3/1 黑褐色
- 5 2.5Y3/2 黑褐色
- 6 2.5Y3/1 黑褐色

シルト粘土  
シルト粘土  
シルト粘土  
シルト粘土  
シルト粘土  
シルト粘土

- 1 10YR4/2 灰黄褐色
- 2 5Y4/1 灰色
- 3 10YR4/2 灰黄褐色
- 4 10YR3/2 黑褐色
- 5 2.5Y3/3 灰オーブ色
- 6 2.5Y3/1 黑褐色

砂質粘土  
シルト粘土  
砂質粘土  
粘土  
シルト粘土  
シルト粘土

## SD1(3) c-c'

- 1 5Y4/1 灰色
- 2 5Y5/2 灰オーブ色
- 3 5Y3/1 オーブ黒色
- 4 2.5Y4/2 灰灰黄色
- 5 2.5Y4/2 灰灰黄色
- 6 10YR3/1 黑褐色
- 7 10YR2/2 黑褐色
- 8 10YR3/1 黑褐色
- 9 2.5Y4/2 灰灰黄色
- 10 5Y4/1 灰色
- 11 2.5Y4/2 灰灰黄色
- 12 5Y4/1 灰色
- 13 2.5Y4/3 オーブ褐色
- 14 2.5Y4/2 灰灰黄色

粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
シルト粘土  
シルト粘土  
シルト粘土  
シルト粘土  
粘土  
粘土  
粘土  
粘土

- 1 2.5Y3/2 黑褐色
- 2 2.5Y3/3 灰オーブ色
- 3 2.5Y3/1 黑褐色

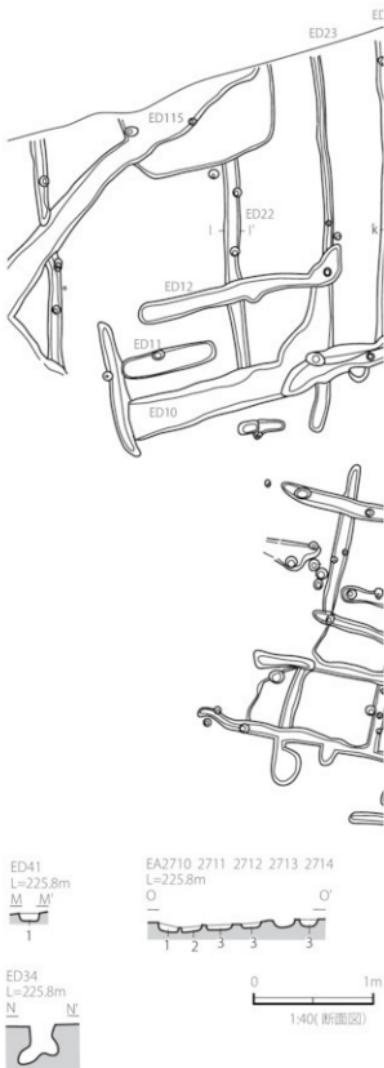
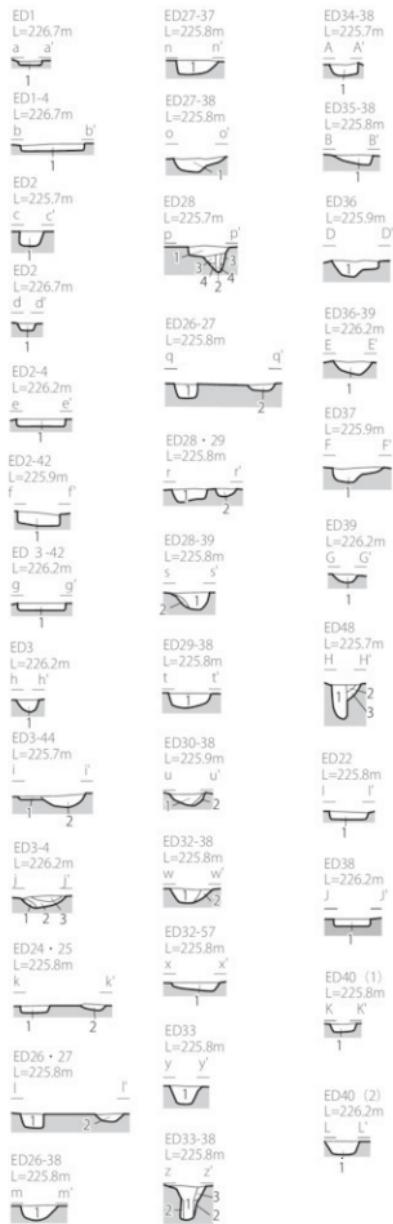
シルト粘土  
シルト粘土  
シルト粘土

## D-4 グリッド f-f'

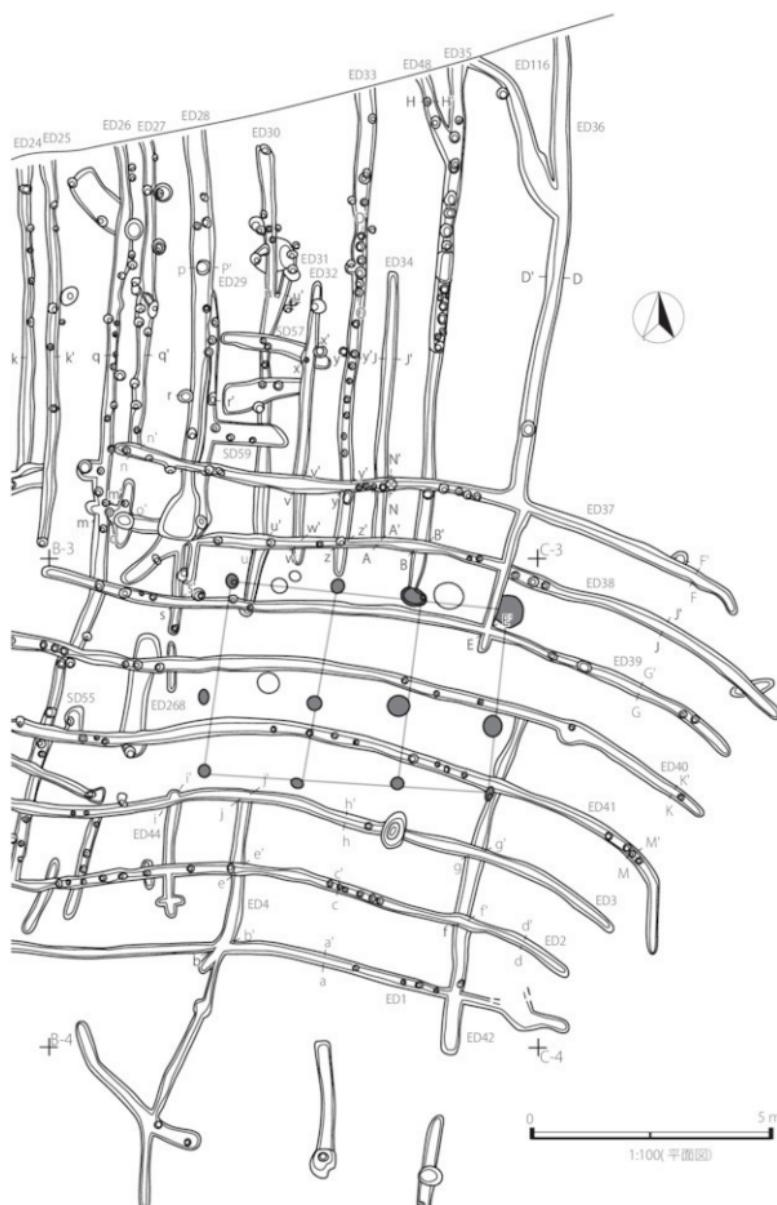
- 1 10YR3/1 黑褐色
- 2 10YR3/2 黑褐色
- 3 10YR3/1 黑褐色
- 4 10YR3/2 黑褐色
- 5 10YR3/1 黑褐色
- 6 10YR4/1 灰灰色
- 7 10YR4/2 灰黄褐色
- 8 10YR2/1 黑色
- 9 10YR2/1 黑色
- 10 10YR3/3 灰褐色

粘土 かたくしまる  
粘土 かたくしまる  
粘土 かたくしまる  
粘土 かたくしまる  
粘土 かたくしまる  
粘質シルト  
粘質シルト  
粘土 かたくしまる  
粘質シルト かたくしまる

III 遺跡の概要



第 52 図 溝群 (1)



第53図 溝群(2)

B

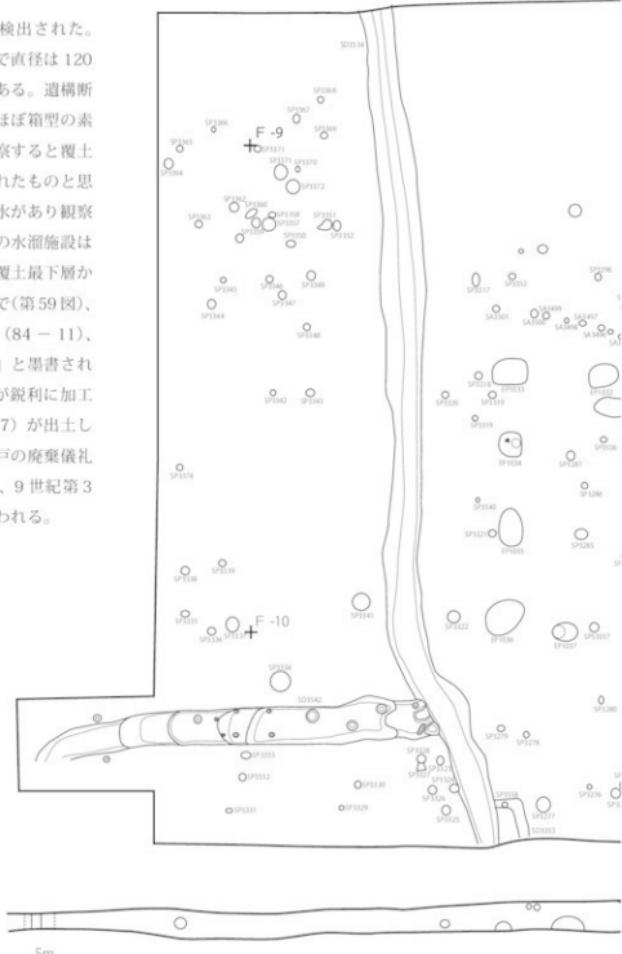
井戸跡

B区では素掘りの井戸が3基確認された。なお、井戸跡が確認されたのはB区だけである。

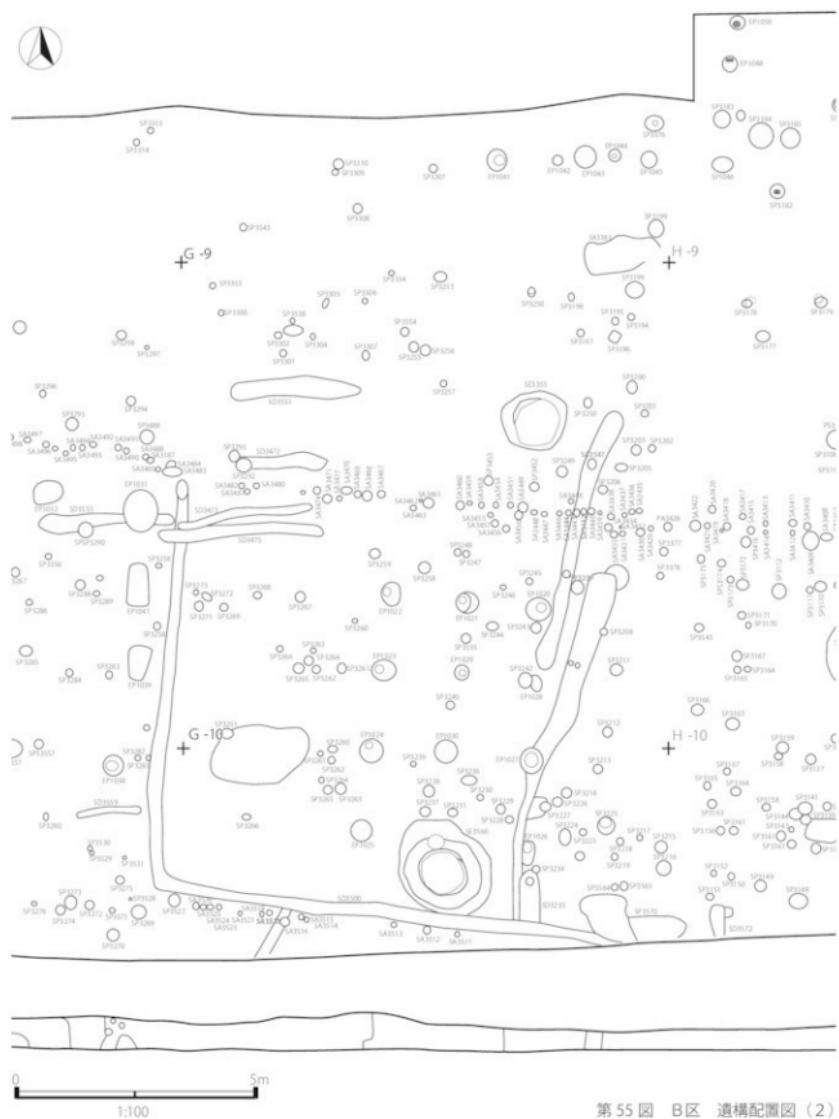


SE 3566 (第 59 図)

B区H-11グリッドで検出された。遺構はやや不整形な楕円形で直径は120cm×160cm、深さ120cmである。遺構断面は上部は漏斗状、下部はほぼ箱型の素掘りの井戸である。断面観察すると覆土の様子から人為的に埋められたものと思われる。遺構底部からは湧水があり観察が難しかったが、曲物などの水溜施設は確認できなかった。遺物は覆土最下層からの須恵器环の出土が顕著で(第59図)、床面直上からは須恵器环(84-11)、やや上部からは底部に「常」と墨書きされた环(84-12)や、先端が銳利に加工された串状木製品(84-17)が出土している。これらの遺物は井戸の廐棄儀礼に使用された可能性があり、9世紀第3～4四半期頃に属すると思われる。

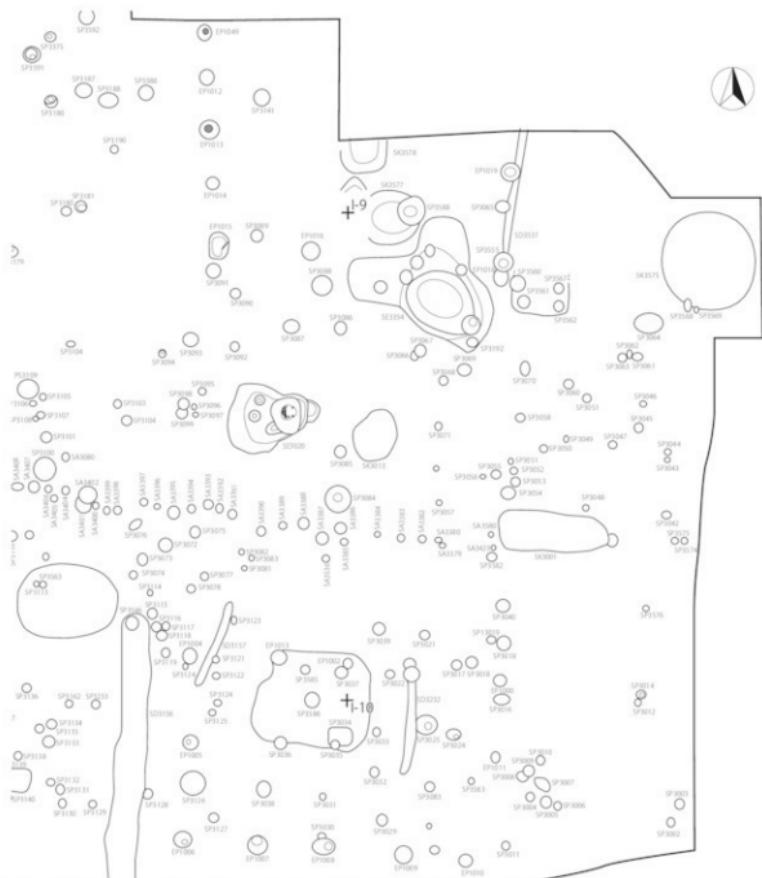


### 第54図 B区 遺構配置図(1)

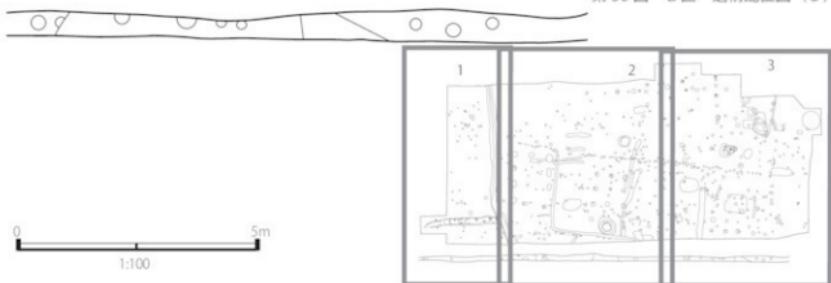


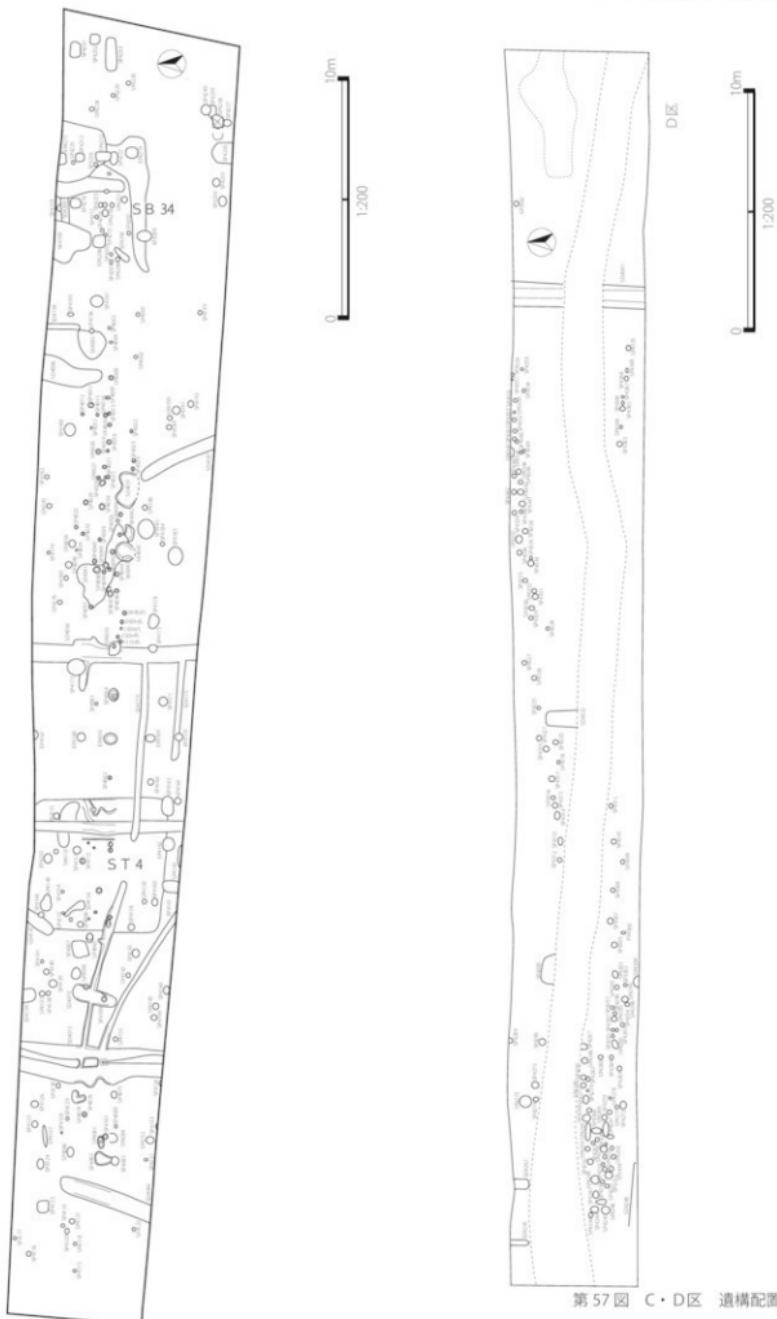
第55図 B区 遺構配置図(2)

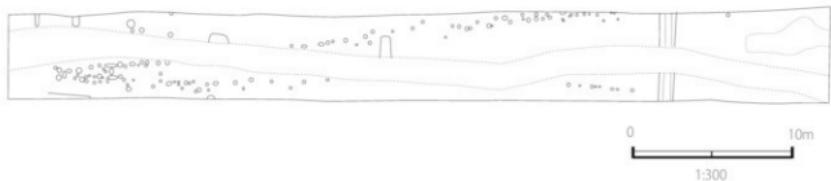
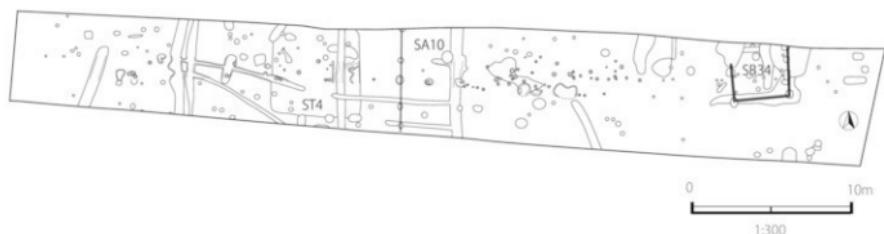
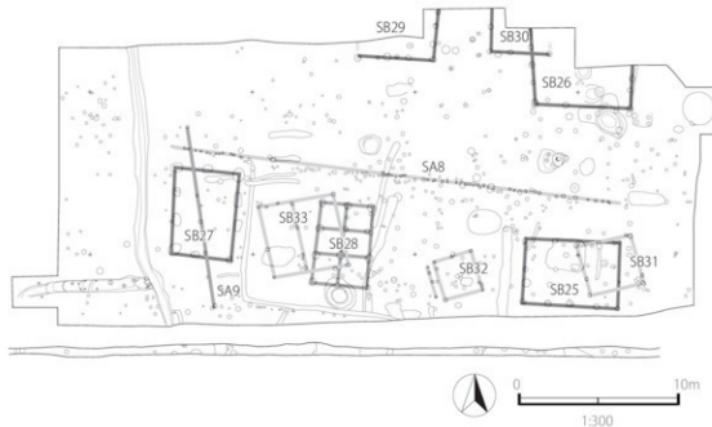
### III 遺跡の概要



第56図 B区 滲構配置図(3)







第58図 B区・C区・D区 遺構配置図

## S E 3355(第59図)

B区H-11グリッドで検出された。遺構はほぼ円形で直径は110cm×110cm、深さは110cmである。遺構断面はやや上部の広い箱型の素掘り井戸で、覆土は人為的に埋められたものとみられる。底部からは湧水があるものの水溜などの施設は確認できなかった。底部から須恵器の环(83-16・17)が出土した。环の形状から8世紀第3～4四半期と思われる。

## S E 3020(第60図)

B区I-10グリッドで検出された。浅い不整形の土坑の中に素掘りの井戸を掘り込んだものとみられ、この二つの遺構には時期差があると考えられる。井戸本体はやや隅丸方形に近い梢円形で125cm×125cm、深さは80cm、断面観察をするとコップ型で、覆土は

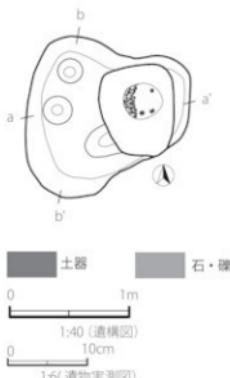
人為的なものと思われる。底部に環を敷きつめていることを確認した。この環は井戸の浄水機能を果たしたものではないかと推測される。井戸底に近い位置から須恵器环2点が出土しているが、形状から9世紀第3～4四半期に属するものと思われる。また土錐とみられる中空の土製品も出土した。

## 掘立柱建物跡

B区についてもA区同様掘立柱建物跡は方向によつて分類することができる(いずれも1～2度の誤差を含む)。

## S B 25(第61図)

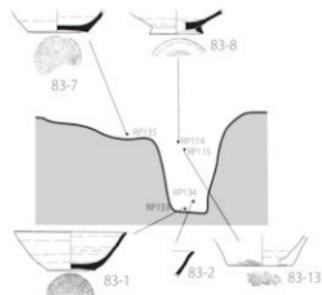
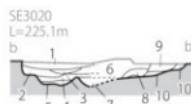
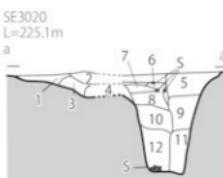
B区東側I-10～J-11グリッド周辺で検出さ



SE3355 b-b'	1 10YR2/1 黒色	砂質粘土
2 10YR1.7/1 黒色	砂質粘土	
3 10YR2/1 黒色	砂質粘土	
4 2.5Y 2/1 黑色	シルト粘土	
5 2.5Y 2/1 黑色	シルト粘土	
6 10YR2/2 黒褐色	砂質粘土	
7 10YR2/2 黒褐色	砂質粘土	
8 10YR2/1 黒色	砂質粘土	
9 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
10 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土	

SE3355 - b-b'	1 10YR2/1 黑色	砂質粘土
2 10YR1.7/1 黑色	砂質粘土	
3 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
4 2.5Y 2/1 黑色	シルト粘土	
5 2.5Y 2/1 黑色	シルト粘土	
6 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
7 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
8 10YR2/1 黑色	砂質粘土	

SE3020 - a-a'	1 2.5Y 2/1 黑色	砂質粘土
2 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
3 2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土	

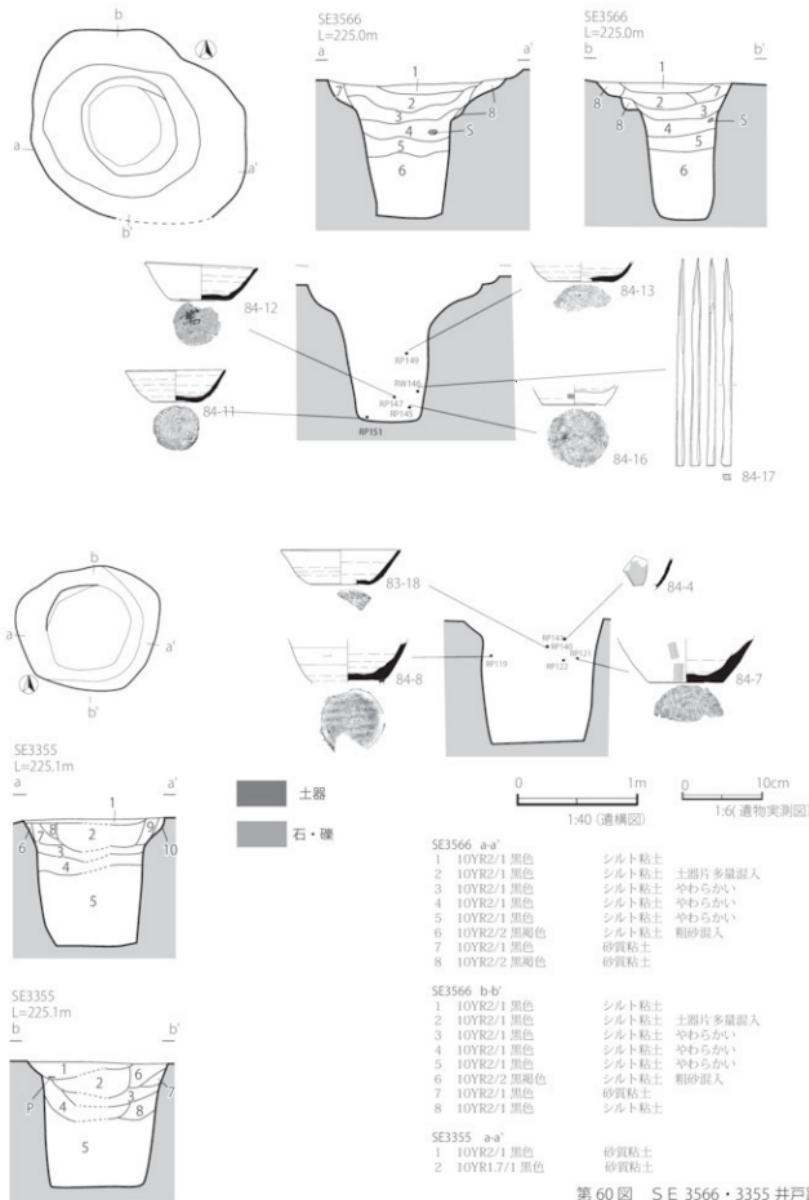


第59図 S E 3020 井戸跡

SE3355 - b-b'	4 2.5Y3/1 黑褐色	シルト粘土
5 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
6 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
7 10YR3/1 黑褐色	シルト粘土	
8 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
9 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	
10 5Y2/1 黑色	シルト粘土	
11 2.5Y3/1 黑褐色	シルト粘土	
12 5Y2/1 黑色	シルト粘土	底面に環敷き詰め

SE3020 - a-a'	1 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
2 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
3 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土	炭化物・燒土含む
4 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
5 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
6 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
7 10YR2/1 黑色	シルト粘土	
8 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
9 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
10 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土	

### III 遺跡の概要



第 60 図 S E 3566・3355 井戸跡

れた。東に2度傾く東西棟とみられ、側柱に間仕切柱のあるものなのか、西半が総柱の建物であるのかは不明である。柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴からは時期特定できる遺物は出土しなかった。

#### S B 26(第62図)

B区東側I-9～J-10グリッド周辺で検出された。ほぼ真北を向く建物だが北半が調査区外にあるため全体像は不明であるが側柱の建物だと思われる。木柱が2基の柱穴で出土した。なお、時期が明確になる遺物の出土はなかった。

#### S B 27(第64図)

B区西側G-10グリッドで検出された。東に8度傾く南北棟の側柱の建物とみられる。柱穴は梢円形や隅丸方形を呈している。なお、時期が明確になる遺物の出土はなかった。

#### S B 28(第65図)

B区中央H-10～11グリッドで検出された。東に8度傾く南北棟の総柱の建物とみられる。南側の梁行の中央の柱穴1基が井戸S E 3566と重複している。柱穴は円形を呈している。なお、時期が明確になる遺物の出土はなかった。

#### S B 29(第66図)

B区中央H-9～H-10グリッドで検出された。東に8度傾く建物とみられるが、北半が調査区外にあるため棟の方向と柱の配置などは不明である。柱穴の形状はほぼ円形である。E P 1050のは木柱が、E P 1041には須恵器環2点(87-9・10)が出土している。87-9は床面から出土した9世紀第1～2四半期頃のもので、87-10は覆土からの出土したもので、内面に漆が多量に付着し、底部には「三」の墨書がある。形状から8世紀第4四半期頃のものと思われる。

#### S B 30(第67図)

B区東側I-9グリッド周辺で検出された。東に8度傾く建物とみられるが、北半が調査区外にあるため棟の方向と柱の配置などは不明である。柱穴の形状

はほぼ円形である。遺構から時期がわかる遺物は出土していない。

#### S B 31(第68図)

B区東側J-10～11グリッド周辺で検出された。西に15度傾く南北棟の側柱建物とみられ、S B 25と重複する状態で確認された。柱穴の形状はほぼ円形である。柱穴S P 3024から須恵器環が出土しており概ね9世紀後半以降のものと思われる。

#### S B 32(第69図)

B区東側I-10～11グリッド周辺で検出された。西に15度傾く南北棟の側柱建物とみられ、西面に庇の柱と思われる柱が並ぶ。柱穴の形状はほぼ円形である。遺構から時期がわかる遺物は出土していない。

#### S B 33(第70図)

B区東側H-10～11グリッド周辺で検出された。西に15度傾く南北棟の側柱建物とみられる。柱穴の形状はほぼ円形である。遺構から時期がわかる遺物は出土していない。

#### 溝状遺構

B区には溝が3本あり、S D 3534はA区S D 2648から続く溝と思われる。

#### S D 3534(第71図)

B区G-9～11グリッドを南北に走る溝である。前述とおりS D 2648から続く溝と思われ、溝床面はやや歪んだV字型を呈し、覆土は自然堆積とみられる。G-10グリッドと交差する地点で東寄りに緩やかに曲り間もなくS D 3542と接する。遺構から時期がわかる遺物は出土していない。

#### S D 3542(第71図)

B区F～G-11グリッドを東西に走り、西側で南北方向に折れる溝である。底面は箱型もしくはU字型を呈し、底面には数基のビットが確認された。覆土は自然堆積とみられる。隣接するS D 3534と比較す

### III 遺跡の概要

ると S D 3542 の床面の標高が高く S D 3534 に水が流れ込んでいたと推定できる。また S D 3542 と S D 3534 の接点は流水が二股に分かれるような堰の構造になっていると思われる。遺構から時期がわかる遺物は出土していない。

### E 区・F 区・G 区

明確な遺構は確認できなかった。

### 柵列（第 22 図）

S A 8 は B 区中央を東西に東に 8 度傾く形で横切る柵列が確認された。S B 27・S B 28・S B 29・S B 30 と方向軸を同じくする。直径の小さい柱穴が不規則ではあるが高い密度で並んでおり、A 区の柱列の項で述べた中落合遺跡の柵列に類例が求められると思われる。S A 9 は A 区の柱列同様一定間隔で柱穴が掘り込まれたタイプと思われる。S B 31・S B 32・S B 33 と方向を同じくする。

### C 区

#### 竪穴住居跡

#### S T 4（第 20 図）

C 区中央 8 グリッドで確認された。かく乱や削平を受けていたため残存状態は良くはなかった。また時期を特定できる遺物の出土は確認できなかった。

#### 掘立柱建物跡

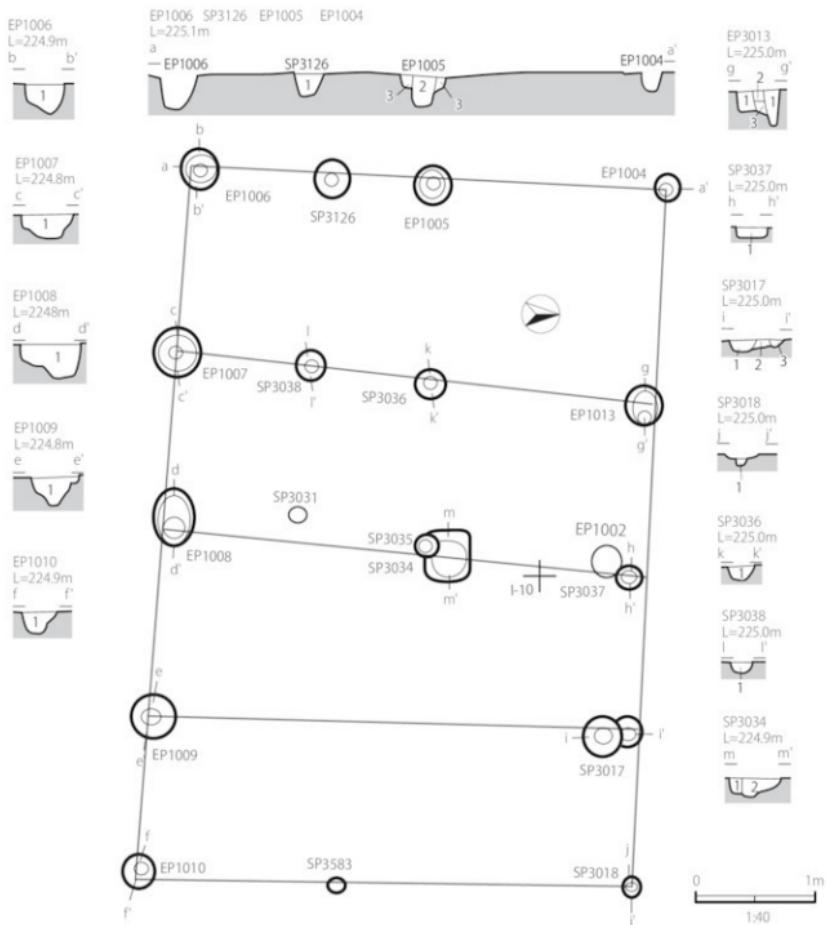
#### S B 34（第 20 図）

C 区東端 6 グリッドで確認された。西に 8 度傾く南北棟の側柱建物とみられるが北半が調査区外となるため断言はできない。

### D 区

明確な遺構は確認できなかったが、ピット群について柵列の可能性が考えられる。

### B 区 完掘状況



第61図 S.B.25 掘立柱建物跡

S.B.25 掘立柱建物跡  
 EP1006 SP3126 EP1005 EP1004 a-a'  
 SP3126 1 10YR2/2 黒褐色 砂質粘土  
 EP1005 2 10YR3/2 黑褐色 粘土  
 3 10YR3/1 黑色 粘土

EP1006 b-b'  
 1 10YR2/1 黑色 砂質粘土

EP1007 c-c'  
 1 10YR2/1 黑色 砂質粘土

EP1008 d-d'  
 1 10YR2/1 黑色 砂質粘土

EP1009 e-e'  
 1 10YR2/1 黑色 砂質粘土

EP1010 f-f'  
 1 10YR2/1 黑色 砂質粘土

EP3013 g-g'  
 1 2.5Y2/1 黑色 砂質粘土  
 2 2.5Y3/1 黑褐色 砂質粘土  
 3 2.5Y2/1 黑色 砂質粘土

SP3037 h-h'  
 1 2.5Y4/2 暗灰黃色 砂質粘土

SP3017 i-i'  
 1 2.5Y3/2 黑褐色 砂質粘土  
 2 2.5Y3/2 黑褐色 砂質粘土  
 3 2.5Y2/1 黑色 砂質粘土

SP3018 j-j'  
 1 2.5Y3/2 黑褐色 砂質粘土

砂質粘土

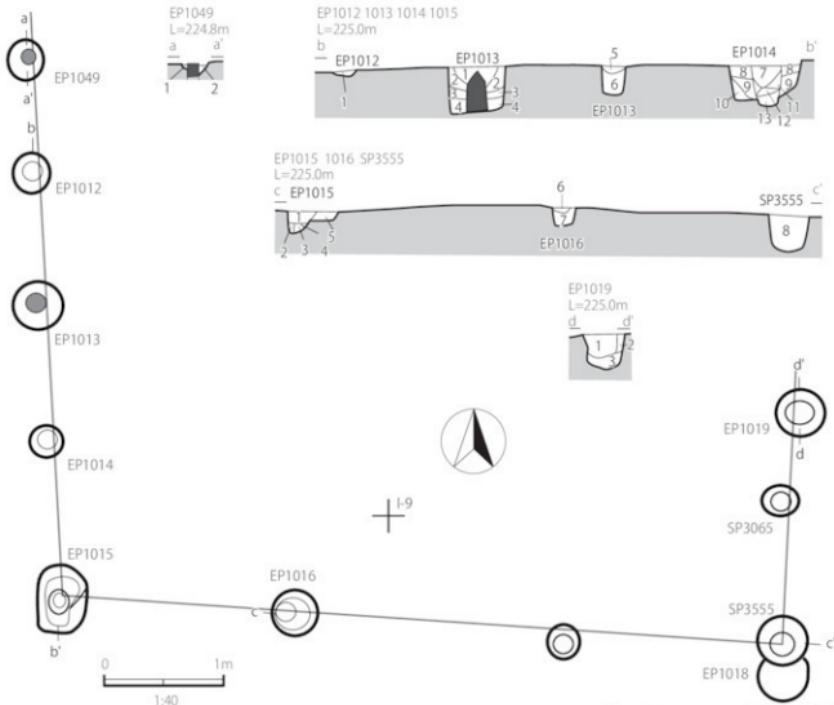
砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土 かたくしまる  
 砂質粘土 やわらかい

砂質粘土

砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土

砂質粘土

### III 遺跡の概要



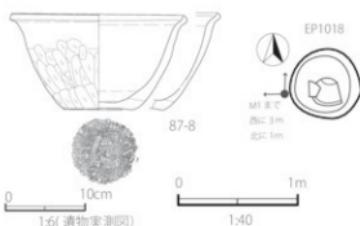
第62図 SB 26 捜査柱建物跡

SP3036 k-k'	
1 10YR2/3 黒褐色	砂質粘土
SP3038 I-I'	
1 10YR2/3 黒褐色	砂質粘土
SP3034 m-m'	
1 10YR2/3 黒褐色	砂質粘土
2 10YR2/3 黒褐色	砂質粘土

S B 26 捜査柱建物跡	
EP1049 a-a'	
1 2.5Y3/1 黒褐色	シルト粘土
2 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土

EP1012 1013 1014 1015 b-b'	
EP1012 1 10YR2/1 黑色	粘土
2 10YR2/1 黑色	砂質粘土
3 10YR3/1 黑褐色	シルト粘土
4 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土 粗砂混入
EP1013 5 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
6 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
EP1014 7 10YR2/3 黑褐色	砂質粘土
8 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
9 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
10 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
11 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
12 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
13 10YR3/1 黑褐色	粘土

EP1015 1016 SP3555 c-c'	
EP1017 1 10YR2/1 黑色	砂質粘土

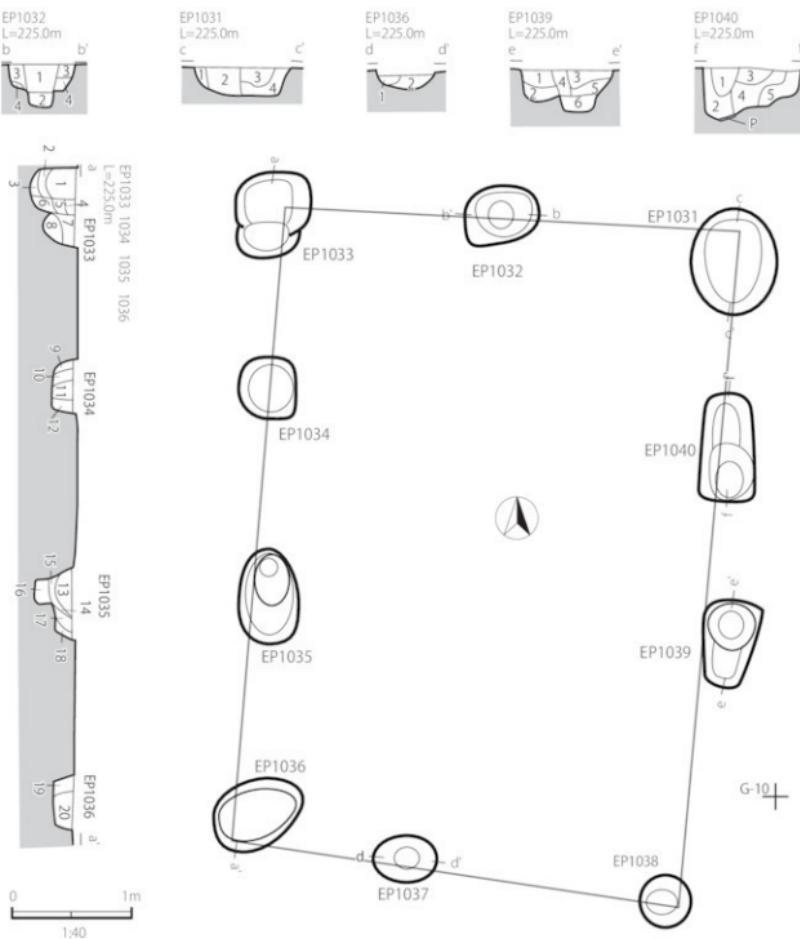


第63図 EP 1018 遺物出土状況

2 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
3 10YR2/1 黑色	粘土
4 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土 やわらかい
5 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土
EP1016 6 10YR3/3 黑褐色	砂質粘土
7 10YR2/3 黑褐色	砂質粘土

EP1018 d-d'

1 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土
2 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土
3 10YR2/1 黑色	粘土

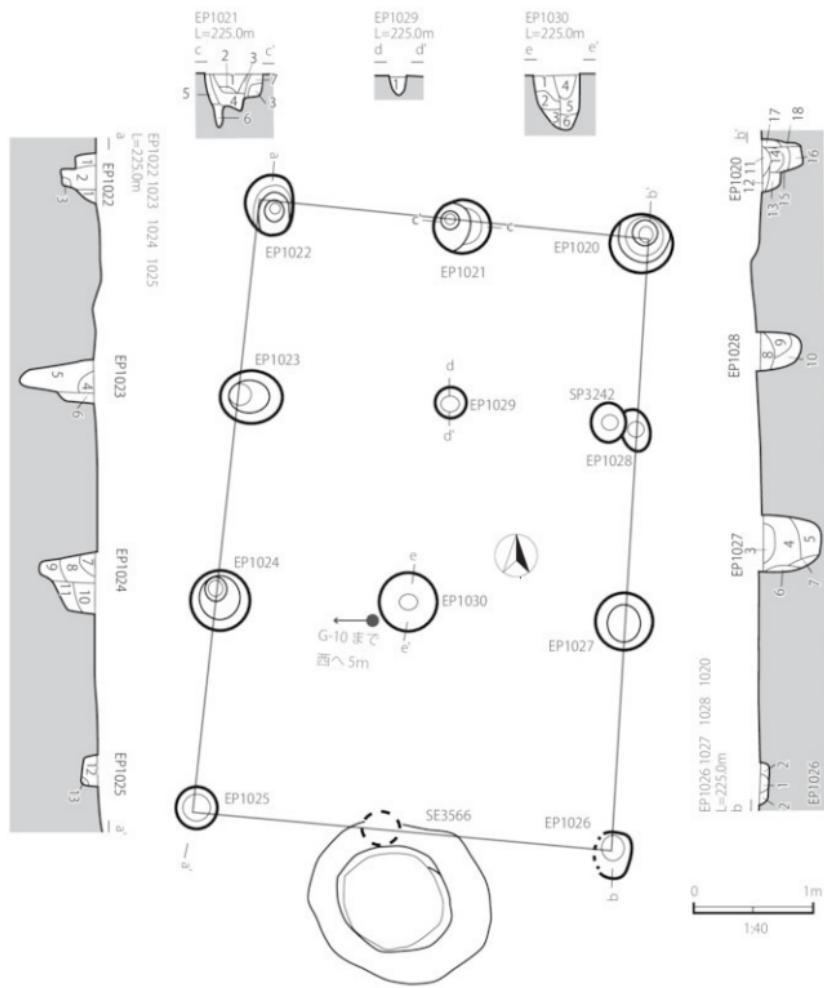


第64図 SB 27 掘立柱建物跡

SB 27 掘立柱建物跡  
EP1033 1034 1035 1036 a-a'

EP1033	1 2.5Y2/1 黑色 2 2.5Y3/2 黑褐色 3 2.5Y3/2 黑褐色 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色 5 2.5Y4/1 黄灰色 6 2.5Y8/1 底白色 7 2.5Y4/1 黄褐色 8 2.5Y3/1 黑褐色 9 10YR2/1 黑色 10 2.5Y4/1 黄灰色 11 10YR2/1 黑色 12 10YR2/1 黑色 13 2.5Y3/1 黑褐色 14 2.5Y3/1 黑褐色 15 2.5Y3/1 黑褐色
EP1034	1 2.5Y2/1 黑色 2 2.5Y3/2 黑褐色 3 2.5Y3/2 黑褐色 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色 5 2.5Y4/1 黄灰色 6 2.5Y8/1 底白色 7 2.5Y4/1 黄褐色 8 2.5Y3/1 黑褐色 9 10YR2/1 黑色 10 2.5Y4/1 黄灰色 11 10YR2/1 黑色 12 10YR2/1 黑色 13 2.5Y3/1 黑褐色 14 2.5Y3/1 黑褐色 15 2.5Y3/1 黑褐色
EP1035	1 2.5Y2/1 黑色 2 2.5Y3/2 黑褐色 3 2.5Y3/2 黑褐色 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色 5 2.5Y4/1 黄灰色 6 2.5Y8/1 底白色 7 2.5Y4/1 黄褐色 8 2.5Y3/1 黑褐色 9 10YR2/1 黑色 10 2.5Y4/1 黄灰色 11 10YR2/1 黑色 12 10YR2/1 黑色 13 2.5Y3/1 黑褐色 14 2.5Y3/1 黑褐色 15 2.5Y3/1 黑褐色
EP1036	1 2.5Y4/2 暗灰黄色 2 2.5Y2/1 黑色 3 2.5Y3/1 黑褐色 4 2.5Y4/2 暗灰黄色 5 2.5Y4/1 黄灰色 6 2.5Y8/1 底白色 7 2.5Y4/1 黄褐色 8 2.5Y3/1 黑褐色 9 10YR3/2 黑褐色 10 2.5Y4/2 暗灰黄色 11 10YR2/1 黑色 12 10YR2/1 黑色 13 2.5Y3/1 黑褐色 14 2.5Y3/1 黑褐色 15 2.5Y3/1 黑褐色 16 2.5Y4/2 暗灰黄色 17 2.5Y2/1 黑色 18 2.5Y3/1 黑褐色 19 10YR3/2 黑褐色 20 2.5Y4/2 暗灰黄色
EP1037	1 10YR2/2 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR2/2 黑褐色
EP1038	1 10YR2/1 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/4 暗褐色 4 10YR4/3 ぶい黄褐色
EP1039	1 10YR2/1 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/4 暗褐色 4 10YR4/3 ぶい黄褐色
EP1040	1 10YR2/1 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/4 暗褐色 4 10YR4/3 ぶい黄褐色

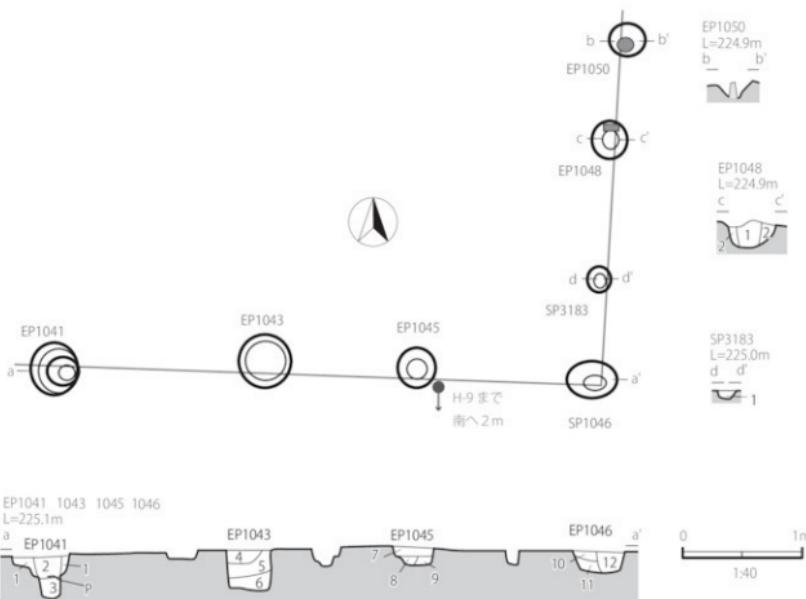
EP1032 b-b'	1 10YR2/2 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色 4 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土 シルト粘土 砂質粘土 シルト粘土
EP1031 c-c'	1 10YR2/1 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/4 暗褐色 4 10YR4/3 ぶい黄褐色	砂質粘土 シルト粘土 砂質粘土 シルト粘土
EP1036 d-d'	1 10YR2/1 黑褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/4 暗褐色 4 10YR4/3 ぶい黄褐色	砂質粘土 シルト粘土 砂質粘土 シルト粘土
EP1039 e-e'	1 10YR2/1 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/4 暗褐色 4 10YR4/3 ぶい黄褐色	砂質粘土 シルト粘土 砂質粘土 シルト粘土
EP1040 f-f'	1 10YR2/1 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/4 暗褐色 4 10YR4/3 ぶい黄褐色	砂質粘土 シルト粘土 砂質粘土 シルト粘土



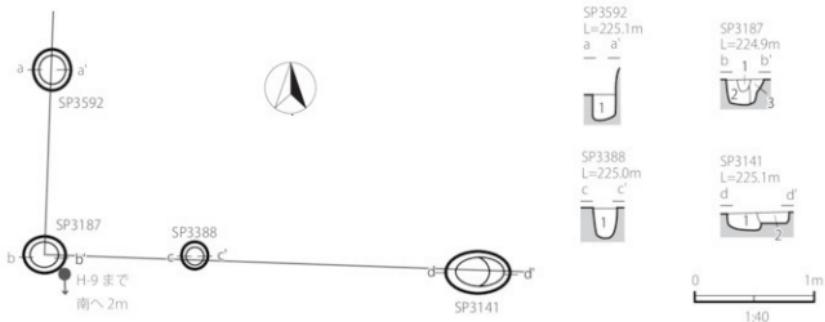
第65図 SB 28 掘立柱建物跡

EP1036 d-d'		S B 29 摺立柱建物跡
1 10YR3/2 黒褐色	砂質粘土	EP1041 1043 1045 1046 a-a'
2 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土	EP1041 1 2.5Y3/1 黑褐色
		2 10YR2/1 黑色
		3 10YR2/1 黑色
EP1039 e-e'		EP1043 4 10YR1.7/1 黑色
1 10YR2/2 黑褐色	シルト粘土	5 10YR2/2 黑褐色
2 10YR2/1 黑色	シルト粘土	6 10YR R 3/1 黑褐色
3 10YR4/2 底灰黃褐色	シルト粘土	7 10YR1.7/1 黑色
4 10YR3/3 暗褐色	シルト粘土	8 10YR1.7/1 黑色
5 10YR2/1 黑色	シルト粘土	9 10YR4/2 底灰黃褐色
6 10YR2/1 黑色	シルト粘土	EP1047 10 2.5Y3/3 暗オリーブ色
		11 10YR3/1 黑褐色
		12 2.5Y3/1 黑褐色
EP1040 f-f'		EP1048 c-c'
1 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	1 2.5Y3/1 黑褐色
2 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	2 10YR2/1 黑色
3 10YR2/3 黑褐色	砂質粘土	
4 10YR3/3 暗褐色	シルト粘土	
5 10YR2/1 黑色	シルト粘土	
6 10YR2/1 黑色	シルト粘土	
		SP3183 d-d'
		1 2.5Y4/2 暗灰黃色
S B 28 摺立柱建物跡		
EP1022 1023 1024 1025 a-a'		
EP1022 1 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	S B 30 摺立柱建物跡
2 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	SP3592 a-a'
3 10YR4/1 褐灰色	砂質粘土	1 2.5Y2/1 黑色
EP1023 4 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
5 10YR2/1 黑色	砂質粘土	SP3187 b-b'
6 10YR3/3 暗褐色	砂質粘土	1 2.5Y2/1 黑色
EP1024 7 10YR2/2 暗褐色	砂質粘土	2 2.5Y3/2 黑褐色
8 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	3 2.5Y2/1 黑色
9 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
10 7.5YR3/1 黑褐色	砂質粘土	SP3388 c-c'
11 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土	1 2.5Y2/1 黑色
EP1025 12 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
13 10YR3/2 黑褐色	砂質粘土	SP3141 d-d'
		1 2.5Y4/1 黄灰色
EP1026 1027 1028 1020 b-b'		2 2.5Y4/2 暗灰黃色
EP1026 1 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土	
2 2.5Y4/1 黄灰色	砂質粘土	
EP1027 3 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
4 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
	白色粘土ブロック状に混入	
5 2.5Y4/2 暗灰黃色	シルト粘土	
6 2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土	
7 2.5Y3/1 黑褐色	シルト粘土	
EP1028 8 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
9 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	
10 10YR2/1 黑色	シルト粘土	
	白色粘土ブロック状に混入	
EP1020 11 10YR2/2 黑褐色	砂質粘土	
12 2.5Y2/1 黑色	砂質粘土	
13 2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土	
14 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
15 10YR2/1 黑色	シルト粘土	
16 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	
17 2.5Y2/1 黑色	砂質シルト	
18 2.5Y2/1 黑色	シルト粘土	
EP1021 c-c'		
1 10YR2/1 黑色	砂質粘土	
2 10YR4/2 底灰黃褐色	シルト粘土	
3 10YR1.7/1 黑色	シルト粘土	
4 10YR2/2 黑褐色	シルト粘土	
5 10YR3/1 黑褐色	砂質粘土	
6 10YR2/1 黑色	シルト粘土	
7 10YR2/2 黑褐色	シルト粘土	
EP1029 d-d'		
1 2.5Y3/2 黑褐色	砂質粘土	
EP1030 e-e'		
1 2.5Y3/1 黑褐色	砂質粘土	
2 2.5Y4/1 黄灰色	砂質粘土	
3 2.5Y2/1 黑色	砂質粘土	
4 2.5Y4/2 暗灰黃色	砂質粘土	
5 5Y3/1 オリーブ黑色	砂質粘土	
6 5Y2/1 黑色	砂質粘土	

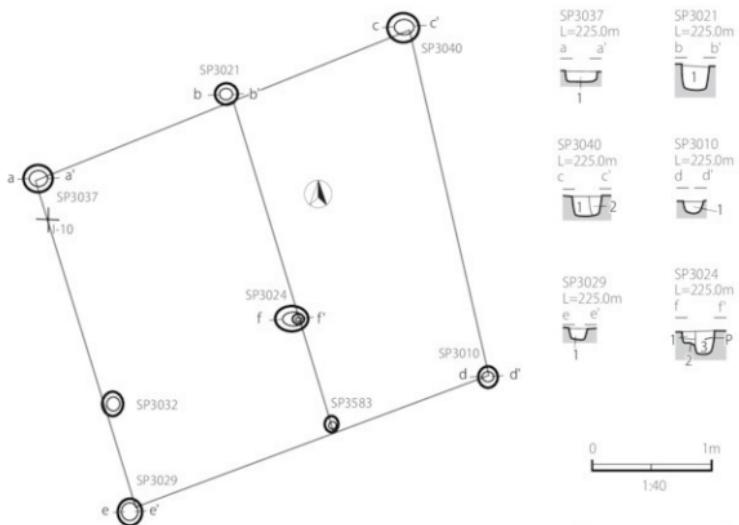
### III 遺跡の概要



第 66 図 S B 29 掘立柱建物跡



第 67 図 S B 30 掘立柱建物跡



### 第68図 SB31 掘立柱建物跡

### SB 31 挖立柱建物跡

SP3037 a-a'

1 5Y3/1 オリーブ黒色

SP3021 b-b'

1 2.5Y2/1 黑色

SP3040 C-C'

1 25Y2/1 黑色

### 砂質粘土

砂質粘土

2 2.5Y3/2 黑褐色

SP3010 d-d'

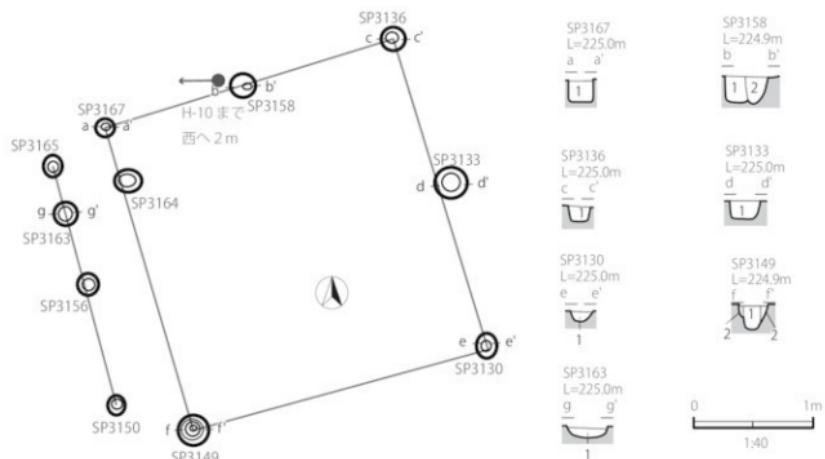
1 2.5Y4/2 暗灰黄色

SP3029 e-e'

I IOYR3/4 暗褐色

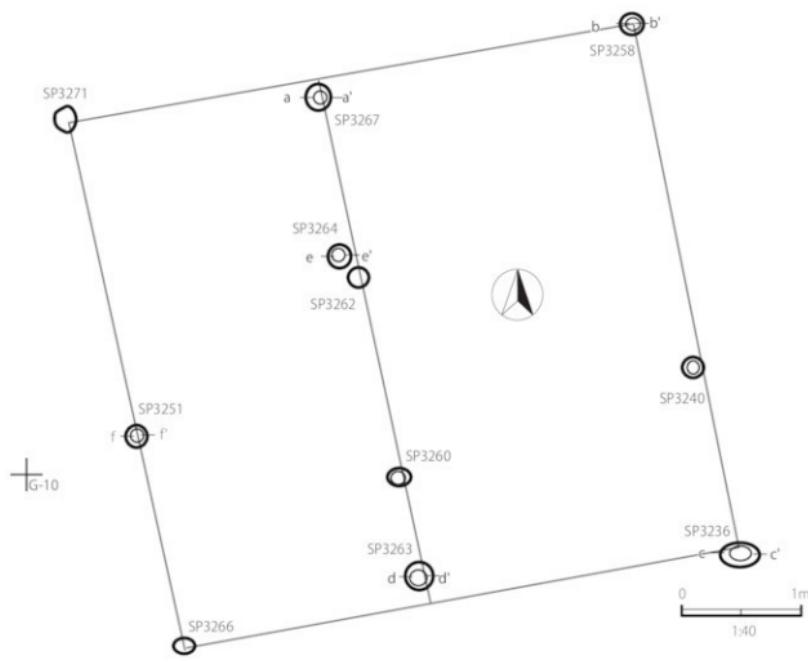
SP3024 f-f'

砂質粘土



第69図 SB 32 掘立柱建物跡

### III 遺跡の概要



第 70 図 S B 33 捩立柱建物跡

2 2.5Y2/1 黒色  
3 5Y2/1 黒色

砂質粘土  
砂質粘土

1 2.5Y3/1 黒褐色

砂質粘土

S B 32 捩立柱建物跡  
SP3167 a-a'  
1 10YR3/3 暗褐色

砂質粘土

S B 33 捩立柱建物跡  
SP3267 a-a'  
1 2.5Y3/1 黑褐色

砂質粘土 かたい

SP3158 b-b'  
1 10YR2/1 黑色  
2 10YR2/1 黑色

砂質粘土  
砂質粘土

SP3258 b-b'  
1 2.5Y4/1 黄灰色

砂質粘土

SP3136 c-c'  
1 10YR2/3 黑褐色

砂質粘土

SP3236 c-c'  
1 2.5Y4/1 黄灰色

砂質粘土

SP3133 d-d'  
1 2.5Y3/2 黑褐色

砂質粘土

SP3263 d-d'  
1 2.5Y3/1 黑褐色

砂質粘土

SP3130 e-e'  
1 10YR2/2 黑褐色

砂質粘土

SP3264 e-e'  
1 2.5Y3/3 茶オーライブ色

砂質粘土

SP3149 f-f'  
1 2.5Y3/1 黑褐色  
2 2.5Y3/1 黑褐色

砂質粘土  
砂質粘土

SP3251 f-f'  
1 10YR3/1 黑褐色

シルト粘土

SP3163 g-g'

## SD3534(1) a-a'

- 1 10YR2/1 黒色  
 2 2.5Y2/1 黒褐色  
 3 2.5Y3/1 黒褐色  
 4 2.5Y3/1 黒褐色  
 5 2.5Y2/1 黒色  
 6 2.5Y2/1 黒色  
 7 10YR2/1 黒色
- 砂質粘土  
 砂質粘土  
 シルト粘土  
 シルト粘土 白色粘土混入  
 砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土

## SD3534(2) b-b'

- 1 2.5Y2/1 黒色  
 2 2.5Y2/1 黒色  
 3 2.5Y3/2 黑褐色  
 4 2.5Y3/2 黑褐色  
 5 2.5Y2/1 黑色
- 砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土

## SD3542(1) c-c'

- 1 10YR1.7/1 黒色  
 2 10YR2/1 黒色  
 3 10YR1.7/1 黒色  
 4 10YR4/3 にふく黄褐色  
 5 10YR2/3 黑褐色
- 砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土  
 砂質粘土

## SD3542(2) d-d'

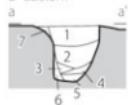
- 1 10YR1.7/1 黑色  
 2 10YR1.7/1 黑色  
 3 10YR2/2 黑褐色
- 粘土 粘質強い  
 粘土 10YR4/2 灰黄褐色混入  
 粘質シルト

## SD3542(3) e-e'

- 1 10YR1.7/1 黑色
- 粘土 粗砂均一に混入

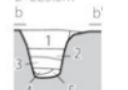
## SD3534(1)

L=225.0m



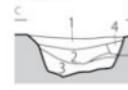
## SD3534(2)

L=225.0m



## SD3542(1)

L=225.1m



## SD3542(2)

L=225.2m



## SD3542(3)

L=225.2m

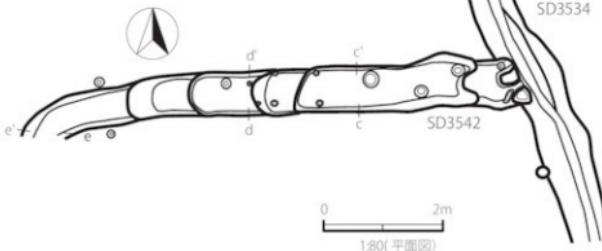


0

1m

1:40 (断面図)

F-10



第71図 S D 3534・3542 区画溝

### III 遺跡の概要

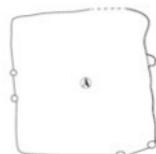
S T 2690

調査区 A区  
グリッド G-4～H-4  
軸方向 N  
規模 (m) 3.5×5.0 ?  
カマド方向 地床炉?  
備考 台形、横長形状の遺構か?



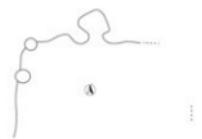
S T 2691

調査区 A区  
グリッド H-4～H-5  
軸方向 N  
規模 (m) 4.9×4.6  
カマド方向 E  
備考



S T 2698

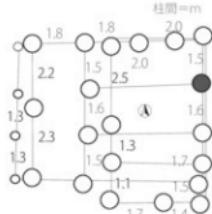
調査区 A区  
グリッド H-7  
軸方向 N  
規模 (m) 7×6.0 ?  
カマド方向 北東側大きく削平  
備考



S B 1

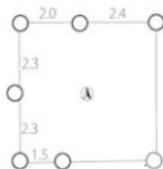
調査区 A区  
グリッド H-4  
軸方向 N  
規模 (m) 5.4×6.0  
構造 (柱間) 2×3、矩柱?  
備考 二種重複か?  
西側に庇か?

表 2 遺構観察表 (1)



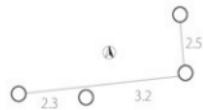
S B 2

調査区 A区  
グリッド H-4～H-4  
軸方向 N  
規模 (m) 4.5×4.6  
構造 (柱間) 2×2、側柱  
備考



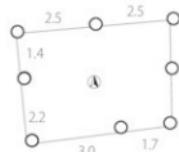
S B 3

調査区 A区  
グリッド H-3  
軸方向 N-7°-W  
規模 (m) 不明  
構造 (柱間) 不明  
備考



S B 4

調査区 A区  
グリッド G-3  
軸方向 N-7°-W  
規模 (m) 3.5×5.0  
構造 (柱間) 2×2、側柱  
備考

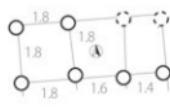


● 木柱が確認された柱穴

表3 遺構観察表(2)  
柱間=m

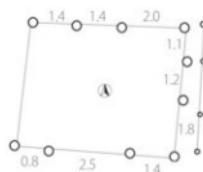
SB 5

調査区 A区  
グリッド H-7  
輪方向 N-6°-W  
規模 (m) 不明  
構造(柱間) 不明 細柱?  
備考 S.T. 2697と重複



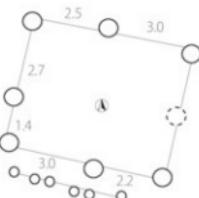
SB 9

調査区 A区  
グリッド H-6  
輪方向 N-9°-E  
規模 (m) 4.0×5.0  
構造(柱間) 2×2 側柱  
備考



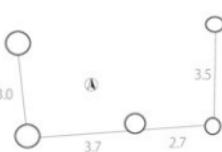
SB 6

調査区 A区  
グリッド G-4~G-5~  
H-4~H-5~  
輪方向 N-9°-E  
規模 (m) 4.3×5.4  
構造(柱間) 2×2 側柱  
備考 南面に庇か?



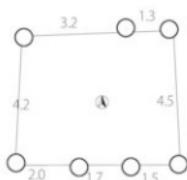
SB 10

調査区 A区  
グリッド E-2~F-2  
輪方向 N-7°-W  
規模 (m) 7×6.5 側柱? 3.0  
構造(柱間) ?×2  
備考



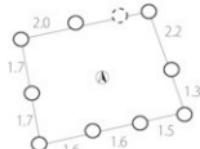
SB 7

調査区 A区  
グリッド G-4~G-5~  
H-4~H-5  
輪方向 N  
規模 (m) 4.2×5.3  
構造(柱間) 2×3 側柱  
備考



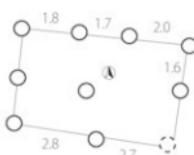
SB 11

調査区 A区  
グリッド D-3~E-3  
輪方向 N-8°-W  
規模 (m) 3.8×4.4 側柱  
構造(柱間) 2×3  
備考



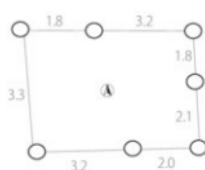
SB 8

調査区 A区  
グリッド G-5~G-6  
輪方向 N-10°-E  
規模 (m) 3.5×5.4  
構造(柱間) 2×2 ? 3? 細柱?  
備考



SB 12

調査区 A区  
グリッド E-4  
輪方向 N-2°-W  
規模 (m) 3.3×5.0 側柱  
構造(柱間) 2×2  
備考

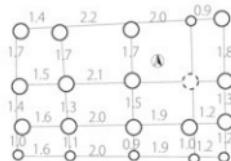


### III 遺跡の概要

S B 13

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

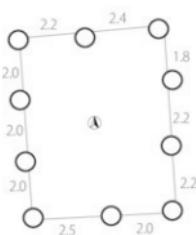
A区  
F - 4  
N - 2° - W  
4.1 × 6.7  
3 × 4 純柱  
南面庇か?



S B 14

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

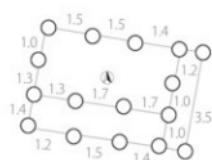
A区  
F - 5  
N - 2° - W  
6.1 × 4.7  
3 × 2 側柱  
偏考



S B 15

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

A区  
E - 5  
N - 8° - E  
3.5 × 5.5  
3 × 4  
偏考



S B 16

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

A区  
E = 5  
N - 10° - W  
2.8 × 3.0  
2 × 2 側柱  
偏考

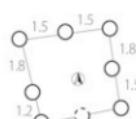
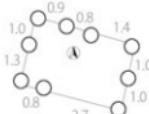


表 4 遺構観察表 (3)  
柱間=m

S B 17

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

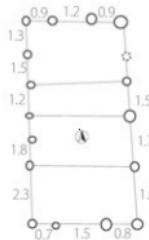
A区  
E - 5  
N - 15° - E  
2.0 × 3.7  
2 × 3 側柱  
偏考



S B 18

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

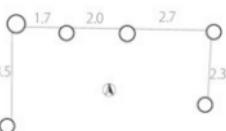
A区  
D - 4  
N  
6.1 × 3.1  
6 × 3 側柱  
偏考



S B 19

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

A区  
E - 6  
N  
7 × 6.5  
7 × 3 側柱?  
偏考



S B 20

調査区  
グリッド  
輪方向  
規模 (m)  
構造 (柱間)  
備考

A区  
C - 4  
N - 6° - E  
3.5 × 4.9  
2 × 3 純柱  
偏考

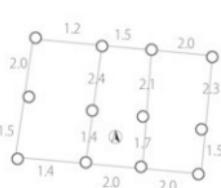
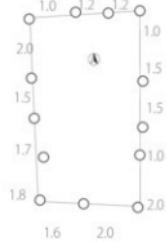


表 5 遺構観察表(4)  
柱間=m

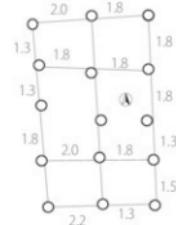
SB 21

調査区 A区  
グリッド C-4  
輪方向 N  
規模(m) 7.0×3.5  
構造(柱間) 4.7×2 側柱  
備考



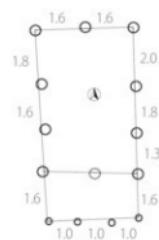
SB 22

調査区 A区  
グリッド G-3  
輪方向 N  
規模(m) 6.2×3.7  
構造(柱間) 4×2 2 細柱  
備考



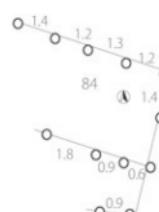
SB 23

調査区 A区  
グリッド G-4  
輪方向 N  
規模(m) 6.6×3.3  
構造(柱間) 4×2 2 ? 側柱  
備考



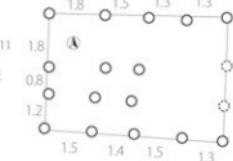
SB 24

調査区 A区  
グリッド B-5~B-6  
輪方向 N-17°-E  
規模(m) 4.8×?  
構造(柱間) 3×?  
備考



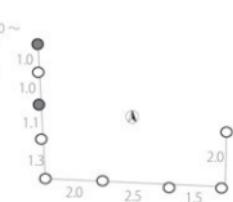
SB 25

調査区 B区  
グリッド I-10~I-11  
輪方向 N-2°-E  
規模(m) 4.0×5.8 側柱  
構造(柱間) 3×4  
備考



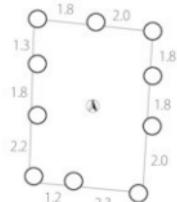
SB 26

調査区 B区  
グリッド I-9~J-10~  
J-9~J-10~  
N  
輪方向 ?×6.0 側柱  
規模(m) 7×3  
構造(柱間) 7×3  
備考



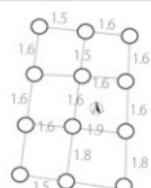
SB 27

調査区 B区  
グリッド G-10~G-11  
輪方向 N-8°-E  
規模(m) 5.2×3.7 側柱  
構造(柱間) 3×2  
備考



SB 28

調査区 B区  
グリッド H-10~H-11  
輪方向 N-8°-E  
規模(m) 5.0×3.3 細柱  
構造(柱間) 2×3  
備考

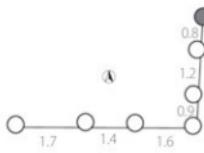


### III 遺跡の概要

表6 遺構観察表(5)  
柱間=m

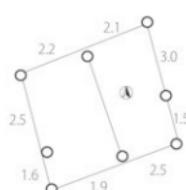
SB 29

調査区 B区  
グリッド H-9～H-10  
軸方向 N-8°-E  
規模(m) ?×?  
構造(柱間) ?×? 倒柱  
備考



SB 33

調査区 B区  
グリッド H-10～H-11  
軸方向 N-14°-W  
規模(m) 4.5×4.6 純柱?  
構造(柱間) 2×2  
備考



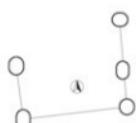
SB 30

調査区 B区  
グリッド H-10  
軸方向 N-8°-E  
規模(m) ?×?  
構造(柱間) ?×?  
備考



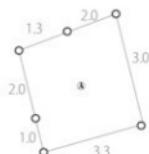
SB 34

調査区 C区  
グリッド 6G  
軸方向 N-8°-W  
規模(m) ?×4.2  
構造(柱間) ?×1  
備考



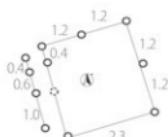
SB 31

調査区 B区  
グリッド J-10～J-11  
軸方向 N-15°-W  
規模(m) 3.2×3.3  
構造(柱間) 2.7×2 倒柱  
備考



SB 32

調査区 B区  
グリッド I-11  
軸方向 N-15°-W  
規模(m) 2.5×2.4  
構造(柱間) 2.7×2? 倒柱  
備考 西面底あるいは日陰場?



● 木柱が確認された柱穴

## 2 出土遺物

今回の唐越遺跡発掘調査から出土した遺物について、256点を図化した。そのうち最も多くの数を占めたのは奈良・平安時代、そして縄文・弥生時代に属するもの僅かながら混入がみられた。

### (1) 奈良～平安時代

遺物の中心は8～9世紀の須恵器・土師器・黒色土器の環・甕・壺類が出土遺物の大多数を占める。

A区では遺構から出土した土器は少なく、特に竪穴住居跡では出土土器がごく僅かで生活感がほとんどうかがえないといつても過言ではない。また掘立柱建物跡の柱穴からの出土もほとんどなく建物の時期の決定ができなかったのは前述のとおりである。しかし溝からは遺物の出土が一定量あり、环や甕類のほか風字硯(73-17)、木簡(73-18)、もしくは墨書のある环などが出土している。また、合口の土師器甕2個体の一部などが土坑から出土した。

B区においては井戸跡から土器類の出土が多く、墨書のある环や先端を削り成形した棒状木製品、土錐と思われる土製品などが出土している。また、掘立柱建物跡の柱穴や土坑からも須恵器环を中心に、甕、壺、蓋、耳环の持ち手部分、円面硯などの土器が多く出土している。

#### 环類

最も出土数が多いのは高台环を含む环類で本報告書において掲載したのは216点である。うち須恵器180点、土師器2点、黒色土器18点、と圧倒的に須恵器が多い。

また、底部切り離し技法で分類すると回転ヘラ切52点、回転糸切が141点と、回転糸切が3倍弱の点数であるが、これを調査区分にみた場合、以下になる。

- ・ A区 回転ヘラ切9点 回転糸切85点
- ・ B区 回転ヘラ切25点 回転糸切46点
- ・ C、D区 回転ヘラ切18点 回転糸切9点

A区では1:9で回転糸切底部の环の割合が多く、B区では3.5:6.5の割合となり、C・D区では回転ヘラ切底部の环が2:1の割合で多くなる、という傾

向がみられる。环の年代観は各遺構において記述したが、A区においては9世紀代中頃～後半、B区では8世紀末～9世紀初頭と見られるS E 3355以外は9世紀中頃、C区・D区では8世紀代～9世紀初頭に属するものが主体とみられる。

唐越遺跡の环の特徴として挙げられるのが漆が付着しているものが比較的多いということである。特にE P 1041から出土した87-10の环は顯著で、南陽市庚塙遺跡(押切・須賀井2007)でも同様の出土例がある。

墨書土器が数点出土しているが、「×」(73-5、90-14)「常」(84-12)「王」カ? (86-2)「三」(87-10)のほか<sup>(注1)</sup>、欠損により解読出来ないが文字の一部を確認できる环の破片が出土している(73-1、76-5、78-11)。中でも「王」については南陽市加藤屋敷遺跡(氏家・伊藤2009)出土の墨書土器「王仁」、同市庚塙遺跡の刻書土器「王仁」との関連を想像させる。

また、双耳环の取手部分のみの出土も3点あった(88-23、90-7・8)。

#### 蓋

須恵器蓋は18点出土している。环のような形状分類できるほど残存するものの点数は少なくここでは行わない。特記する点として、91-14は耳を持つ特徴的形状であるもの、完形品ではないため片耳か双耳なのかは不明である。煙孔は確認できないので香炉の蓋の可能性は低いと思われる。

#### 陶硯

風字硯が2点(73-17、81-8)A区から、円面硯2点(85-4、92-25)がB区とD区から出土している。92-25の脚部にはヘラ描きによる格子模様がわずかに確認できる。置賜地方における発掘調査にて出土した円面硯は郡山遺跡(吉田2013)、庚塙遺跡、長岡山東遺跡(山田・吉田2013)、太夫小屋1遺跡、風字硯は郡山矢ノ目館跡遺跡(吉野1984)、太夫小屋1遺跡、大浦B遺跡での出土例がある。なお、9世紀前半～半ばから風字硯の出土例が多くなるとされている(押切・須賀井2007)。また転

### III 遺跡の概要

用器として使用した痕跡がみられる杯・蓋も出土している（73-11・74-2・86-17）。

#### 甕・壺

土師器・須恵器の甕が出土している。土師器甕は前述のとおりE U 1216から合口の状態で出土した2点の甕（76-6・8）、S K 2660から一括で出土した甕（75-8・9）がある。また須恵器甕ではS D 2648出土の口径33cmの大甕（74-16）や、S D 2687出土の大甕（75-7）が出土している。またB区の遺構外出土の波状紋の施された大甕頭部（89-4）が出土している。須恵器甕では半身のみの出土だが恐らく双耳甕（80-10）と思われる甕が出土している。

#### 鍋

E P 1018からほぼ完形の土師器鍋（87-8）が出土している。ロクロ成形後外面にケズリ調整している。

#### 瓶

瓶の頸部のみ、体部のみが出土している例が多いが比較的特徴がとらえやすい物も出土している。頸部凸帯付瓶（73-19）は内面に僅かに絞り切りのシワの痕が残っているため9世紀の半ば以降のものと思われる。82-1も同様の時期とみられる。89-5、91-15は小瓶と思われるが、89-5は8世紀代、91-15は9世紀代のものとみられ、仏教関連の供膳具の可能性も考られる。

#### 木製品

木柱4点、木箇1点、木製柄（？）1点、串状木製品1点、用途不明木製品5点図化し掲載した。木柱についてはA区では割材の柱2本（77-1・3）、B区では丸材の柱2本（89-11・12）を図化した。また、A区の遺構外から取っ手と思われる加工痕を持つ木製品（82-3）が出土している。B区井戸跡S E3566から串状木製品（84-17）が1点出土している。

#### 土製品

井戸跡S D 3020から土雞（83-15）が1点出土している。素焼きで縦に貫通孔がある円錐状であるが、磨滅しており調整痕は確認できない。

#### 石製品

砥石（82-2）が出土している。欠損している部分もあるが、表面に漆と思われるものが付着している。

#### （2）繩文時代

繩文土器（75-1）1点と石匙（90-12）が出土している。出土した繩文土器は破片のみで器種や器形は不明であるが、全体的に繩文と口縁部に沈線が施されている。遺構から出土した土器の場合も覆土への単独の混じり込み、もしくは遺構外からの出土である。また磨滅も顕著である。

#### （3）弥生時代

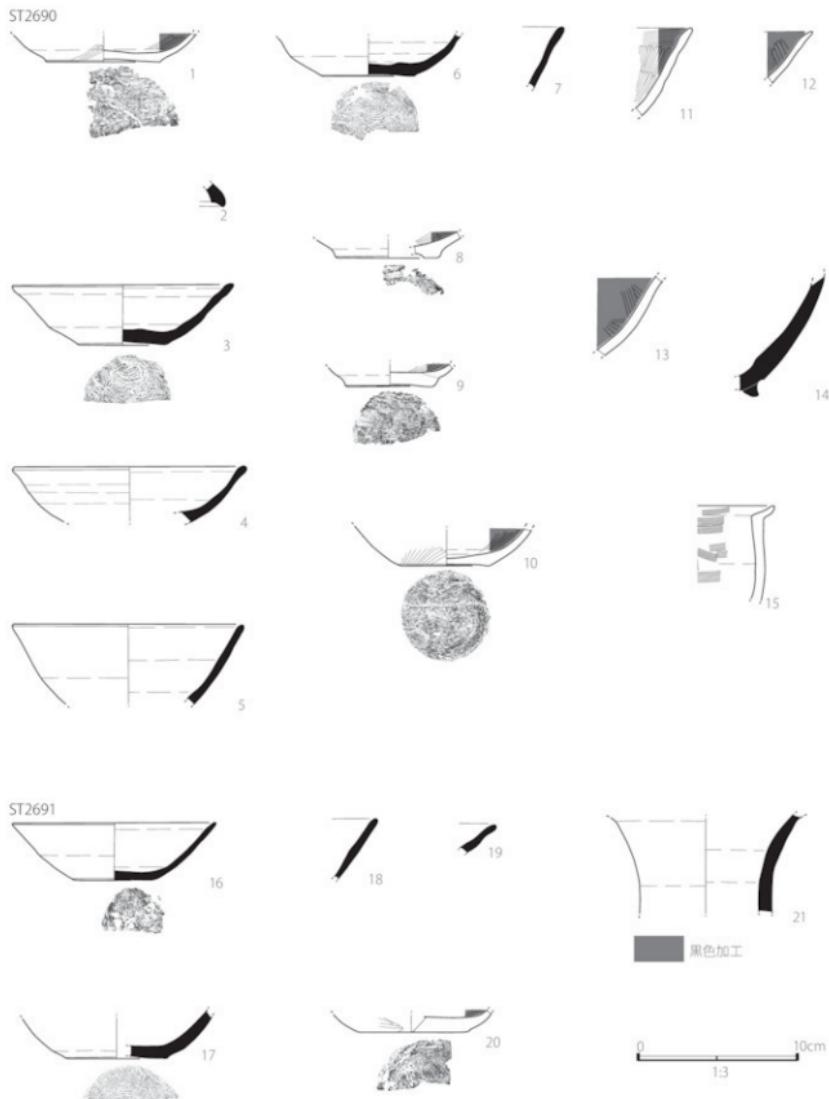
弥生後期のものとみられる破片が出土している<sup>1)</sup>。<sup>2)</sup>。器種は不明であるが、縄目が施文されたもの（76-15）が1点、並行沈線の施されたもの（81-12）が出土している。

本遺跡より出土した土器は奈良・平安時代（8～9世紀）が大半である。僅かに繩文・弥生土器が出土しているのでその時代にも生活の跡があったとみられるが、そのほとんどが後世に削平されたと思われる。

#### 註

1) 三上喜孝氏のご教示による。

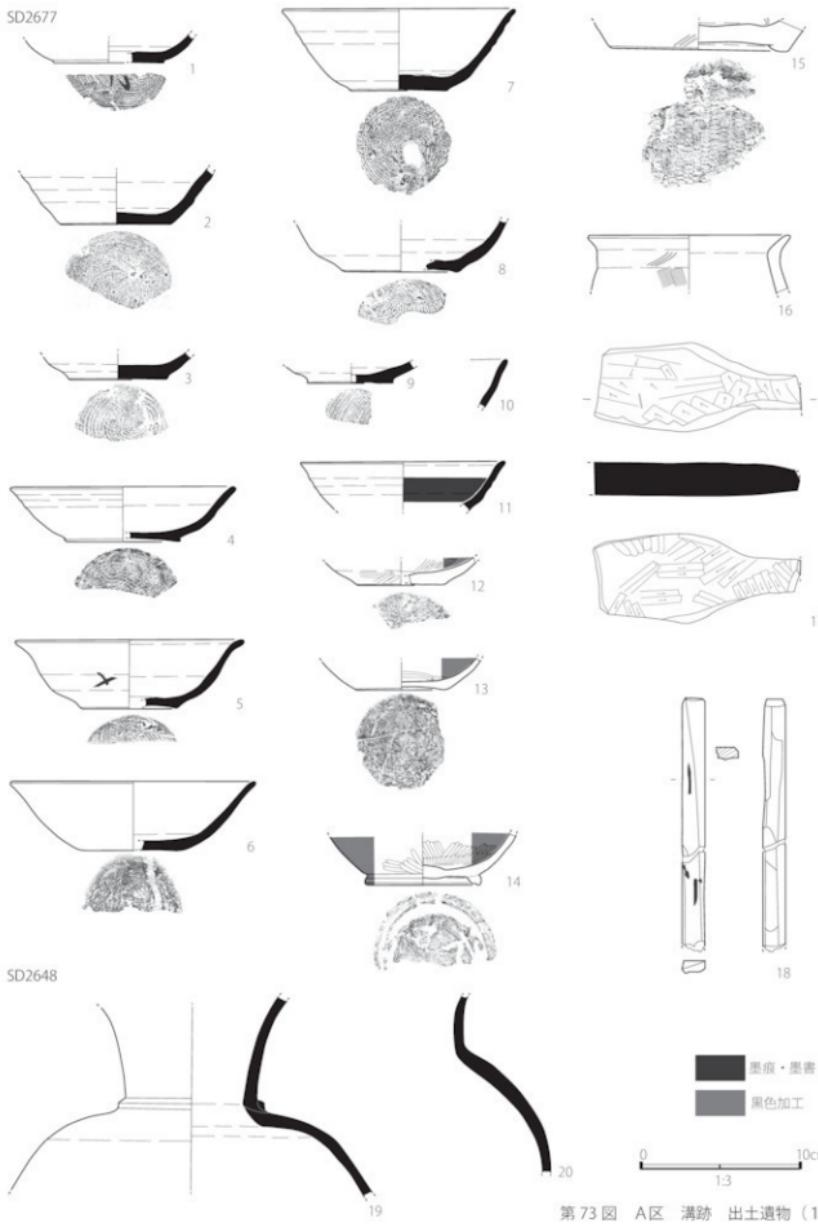
2) 阿部明彦氏のご教示による。



第72図 A区 穹穴住跡 出土遺物

III 遺跡の概要

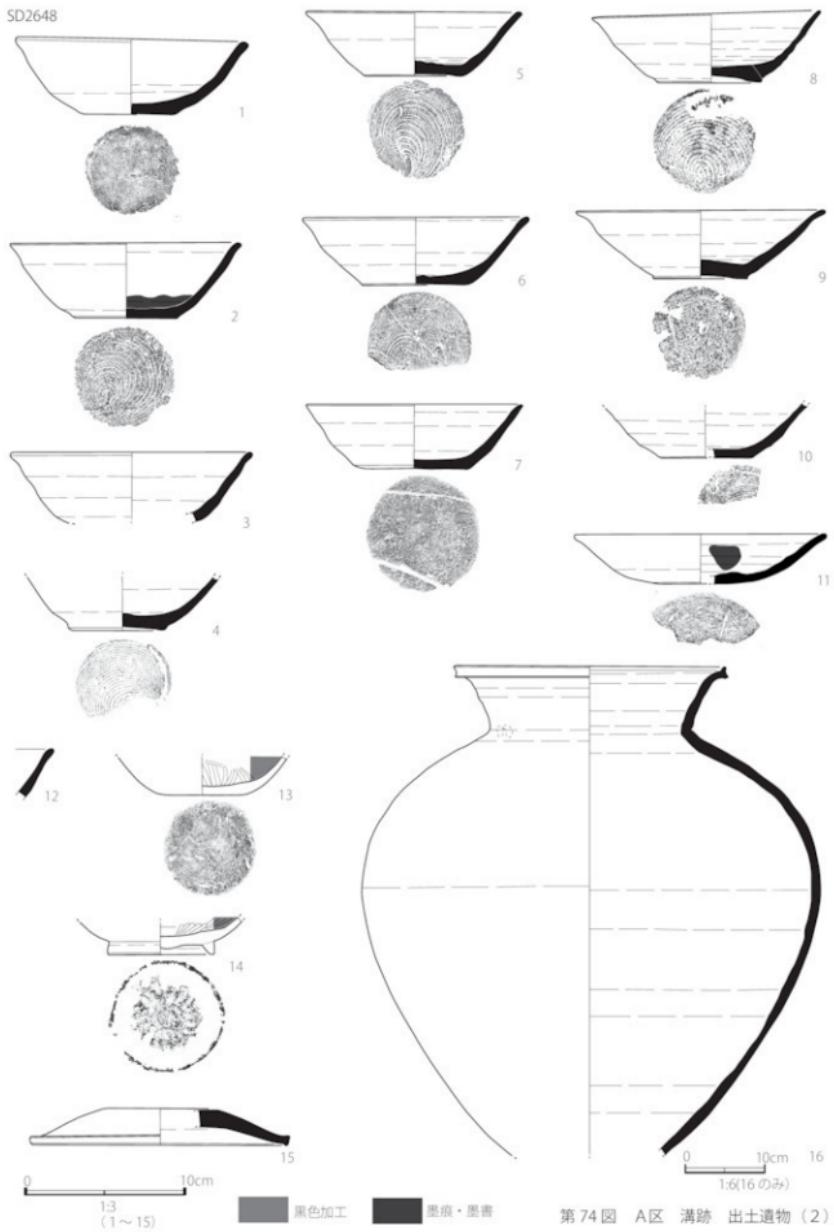
SD2677



■ 墨痕・墨書き  
■ 黒色加工

0 10cm  
1:3

第73図 A区 溝跡 出土遺物 (1)



第74図 A区 溝跡 出土遺物 (2)

III 遺跡の概要

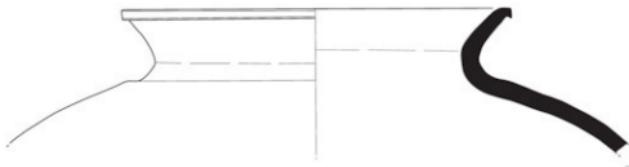
SD2646



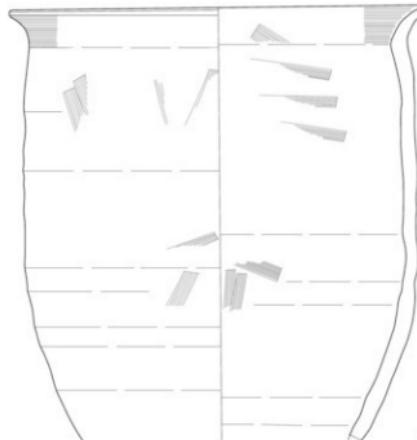
SK2650



SD2687



SK2660



SK2685



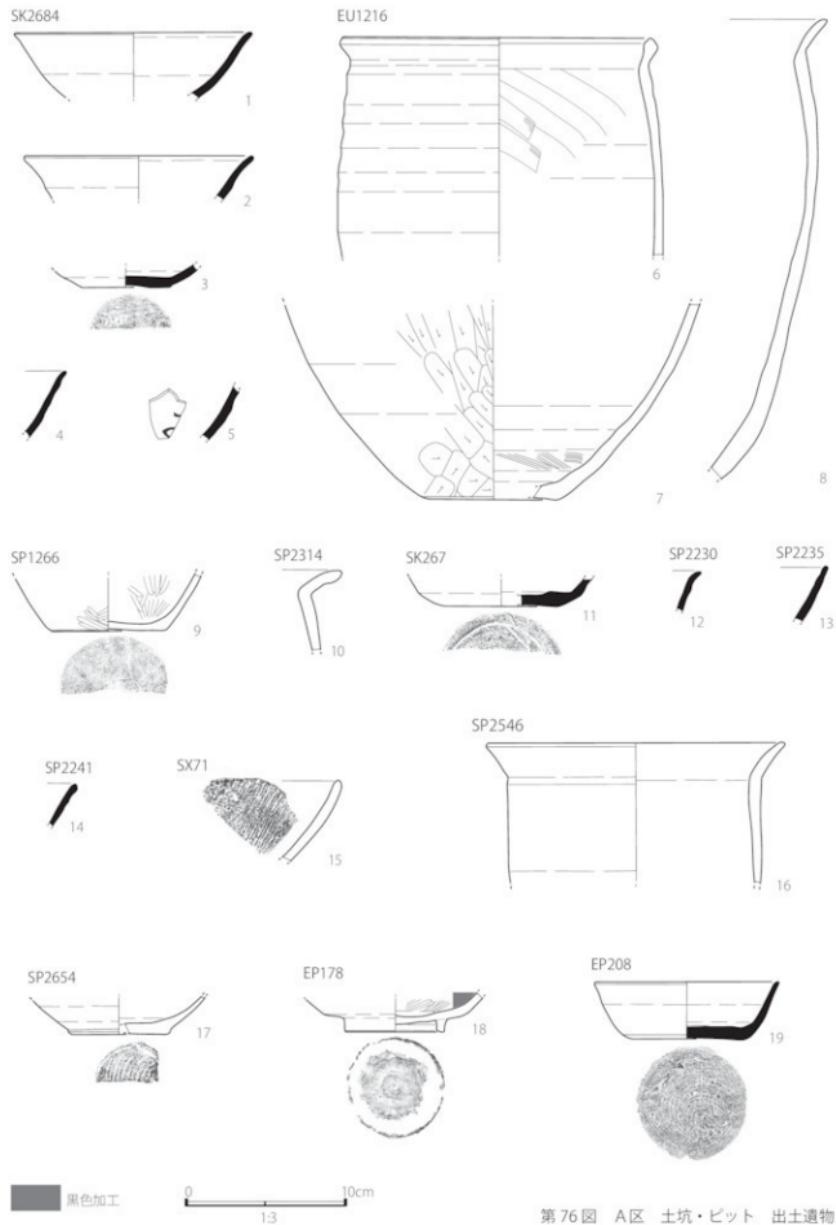
0 10cm

第75図 A区 溝跡・土坑 出土遺物

墨痕・墨書

スス

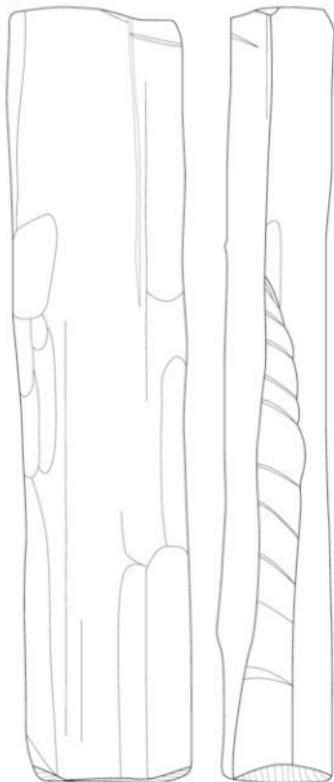
黒色加工



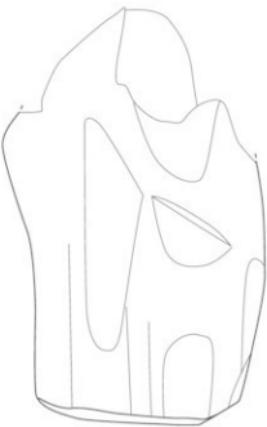
第76図 A区 土坑・ピット 出土遺物

III 遺跡の概要

SP83



EP187

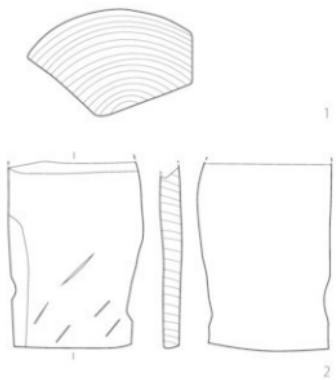


0 10cm  
1:3



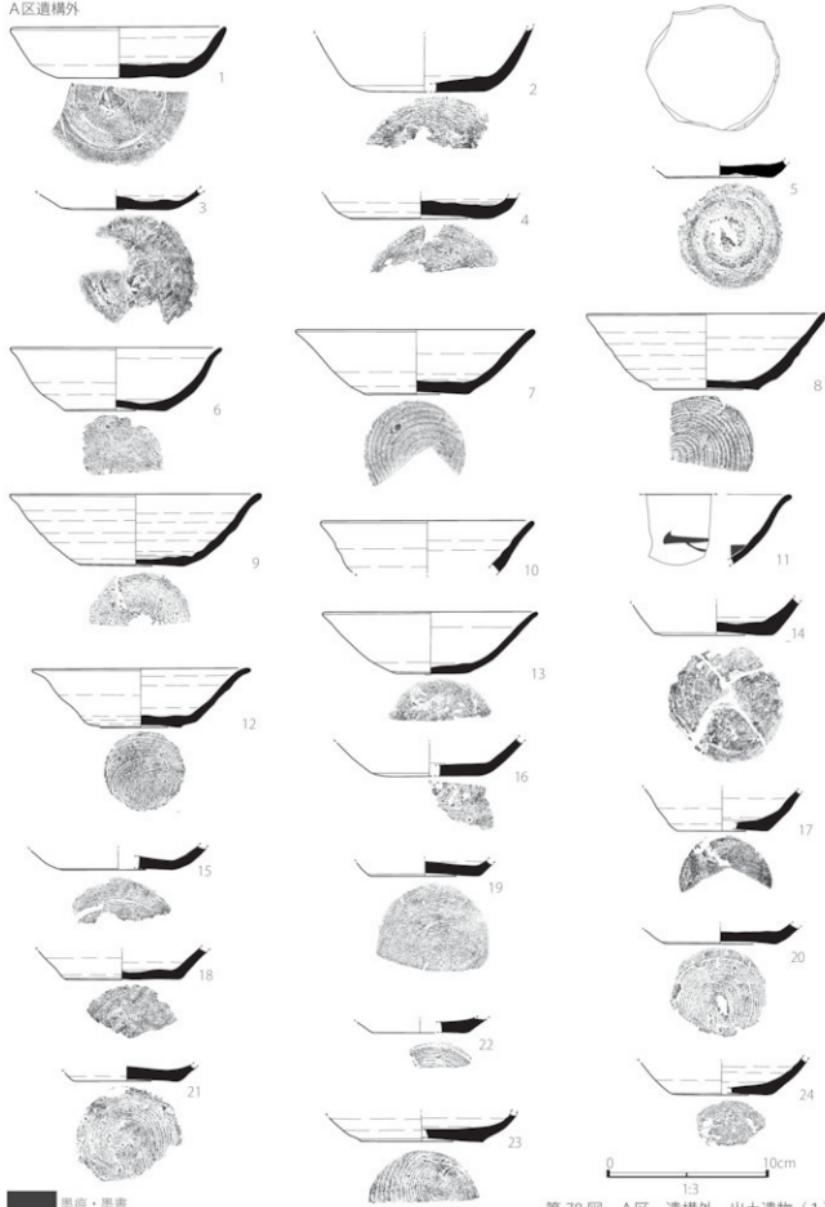
3

1



第77図 A区 ピット 出土遺物

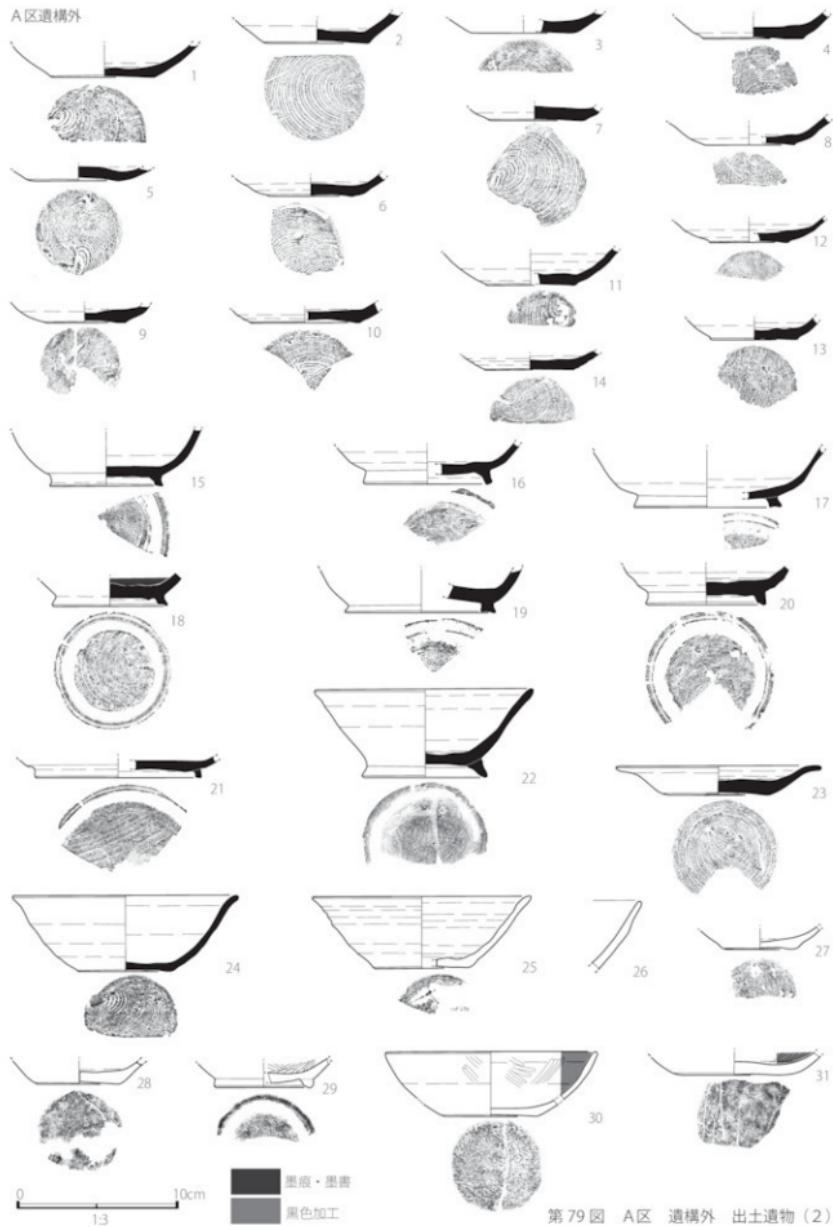
## A区遺構外



第 78 図 A 区 遺構外 出土遺物 (1)

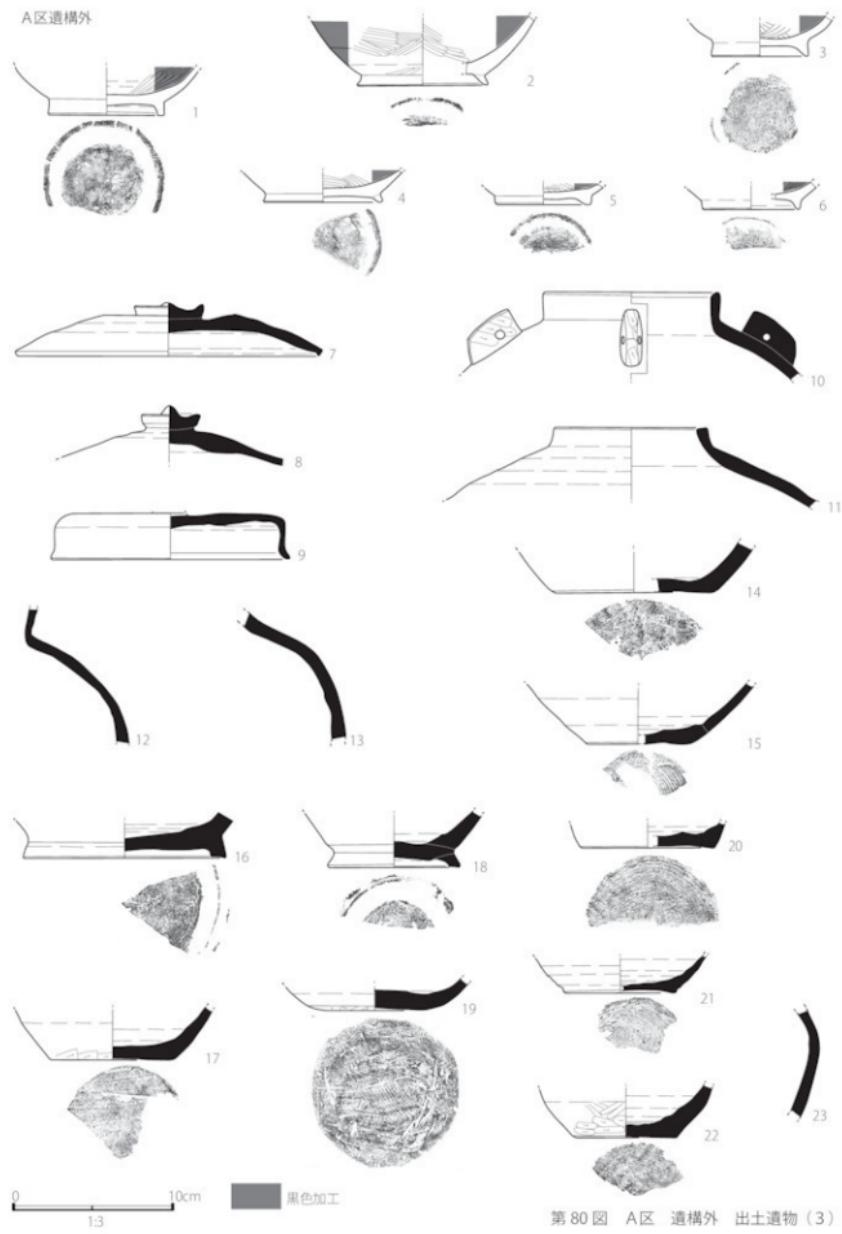
III 遺跡の概要

A区遺構外



第79図 A区 遺構外 出土遺物 (2)

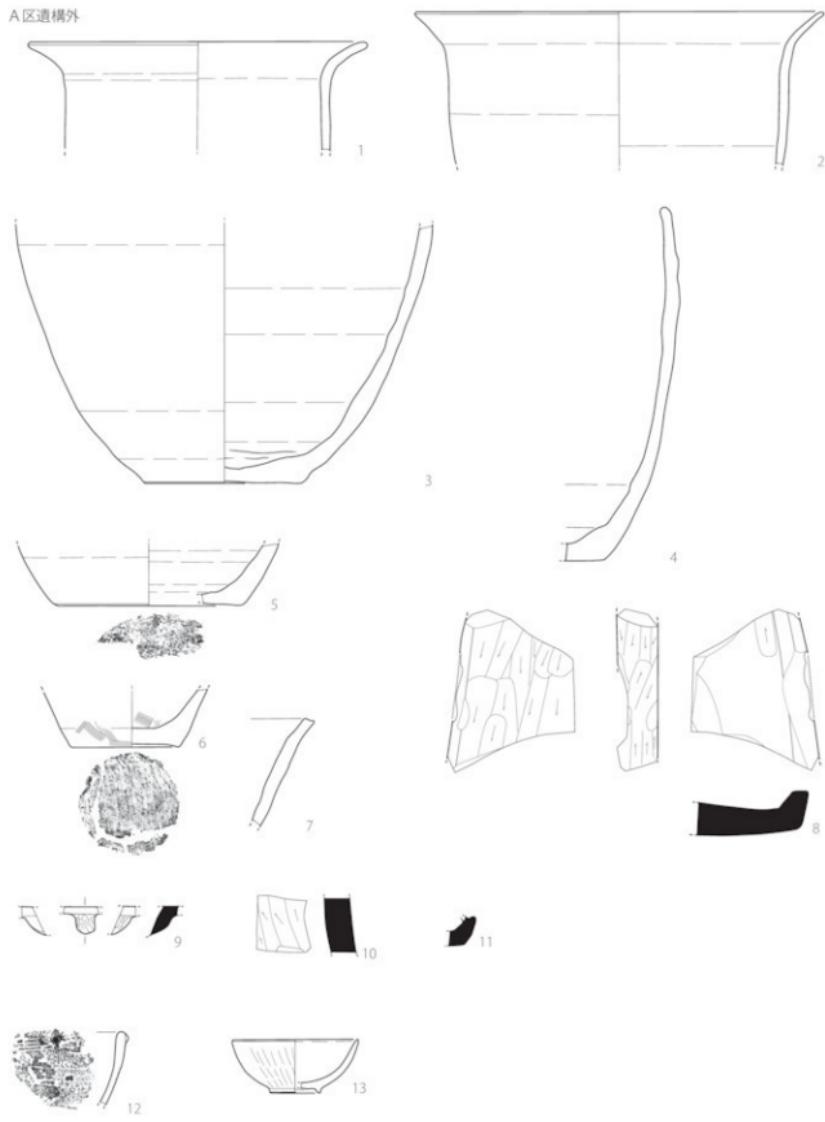
## A区遺構外



第80図 A区 遺構外 出土遺物(3)

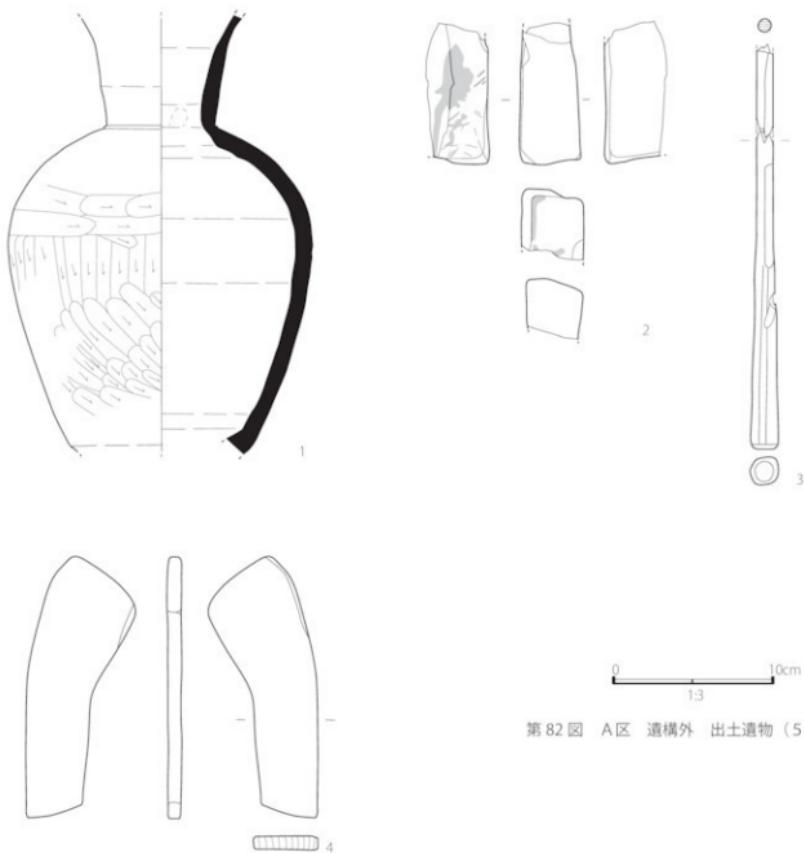
III 遺跡の概要

A区遺構外



0 10cm  
13

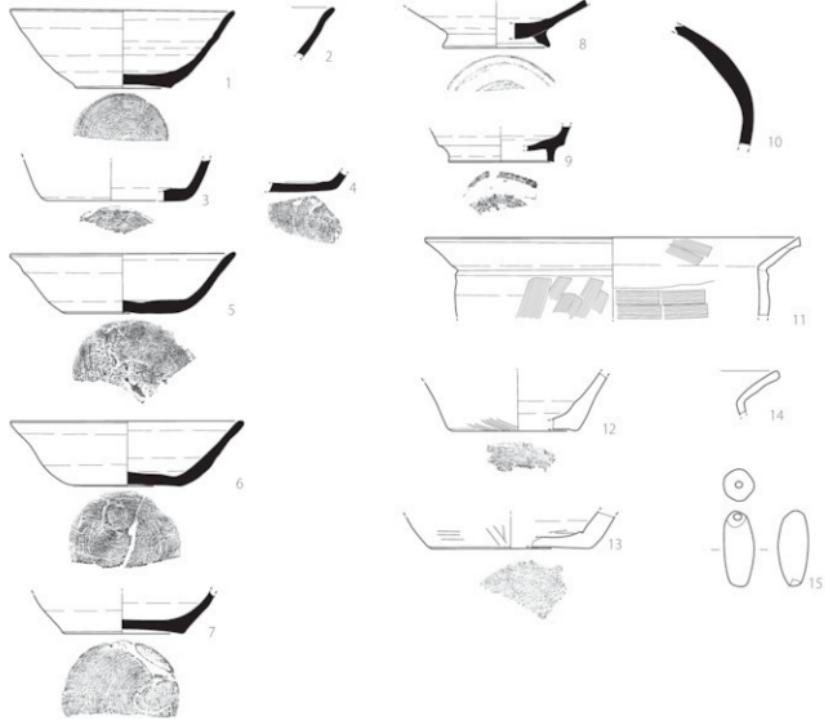
第81図 A区 遺構外 出土遺物 (4)



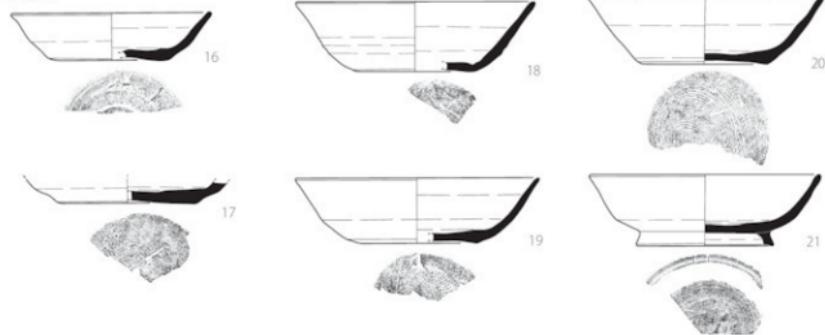
第82図 A区 遺構外 出土遺物（5）

III 遺跡の概要

SE3020

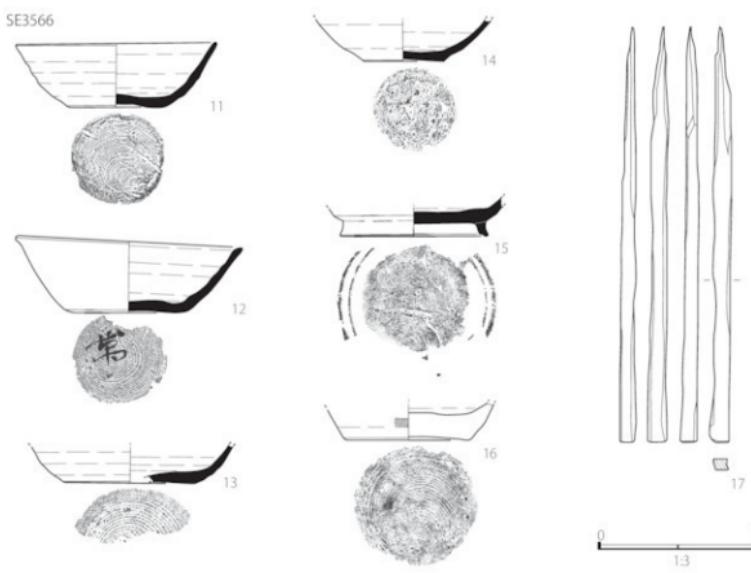
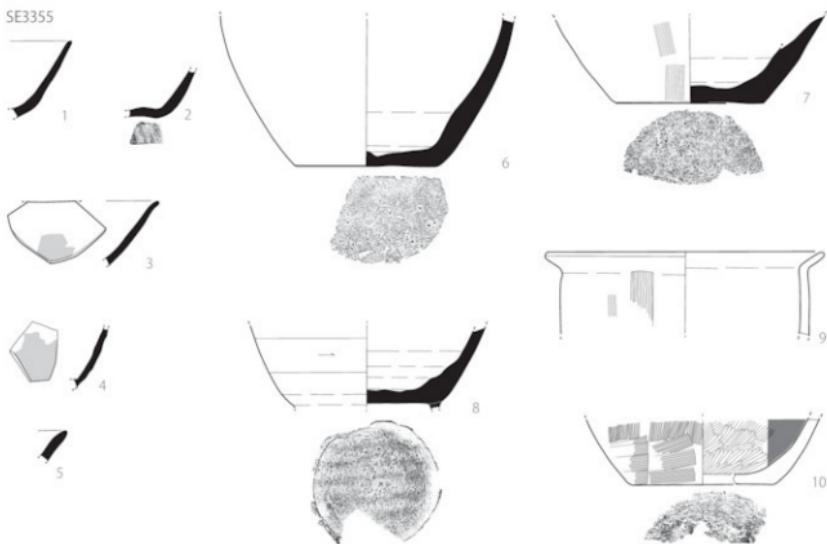


SE3355



0  
1:3 10cm

第83図 B区 井戸跡 出土遺物 (1)

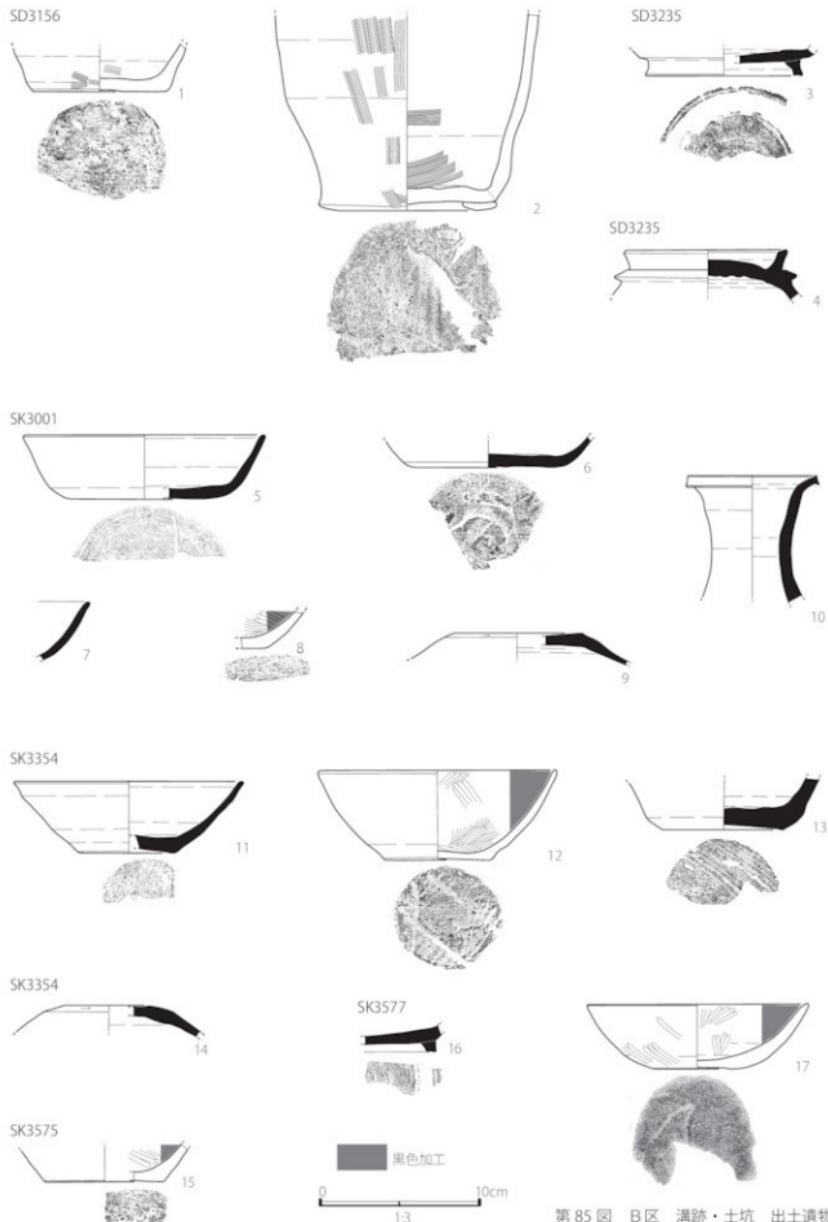


■ 漆 ■ 黒色加工 ■ 黒度・墨書

第84図 B区 井戸跡 出土遺物(2)

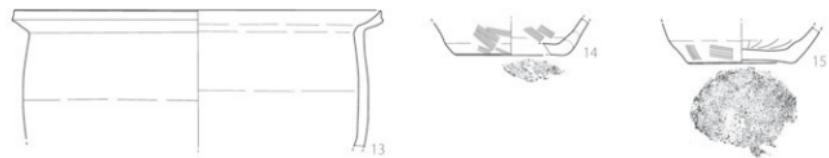
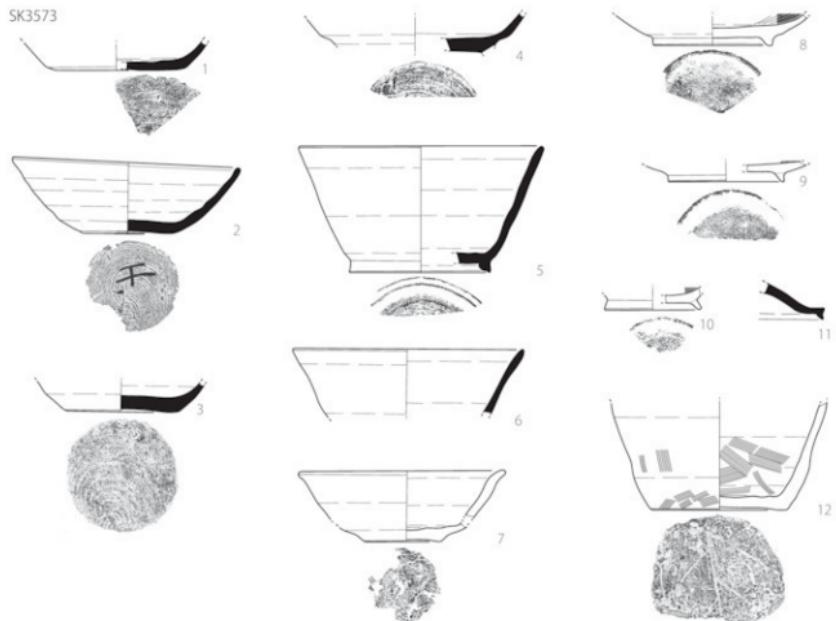
0 10cm  
1:3

III 遺跡の概要

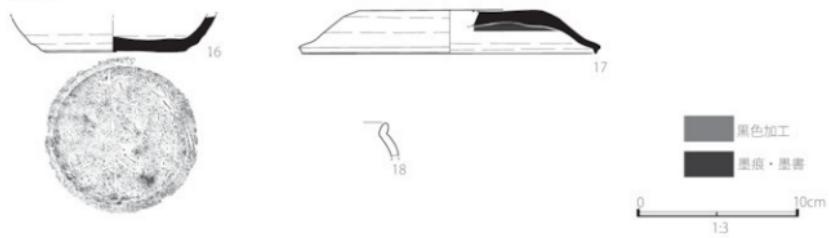


第85図 B区 溝跡・土坑 出土遺物

SK3573



SK3578

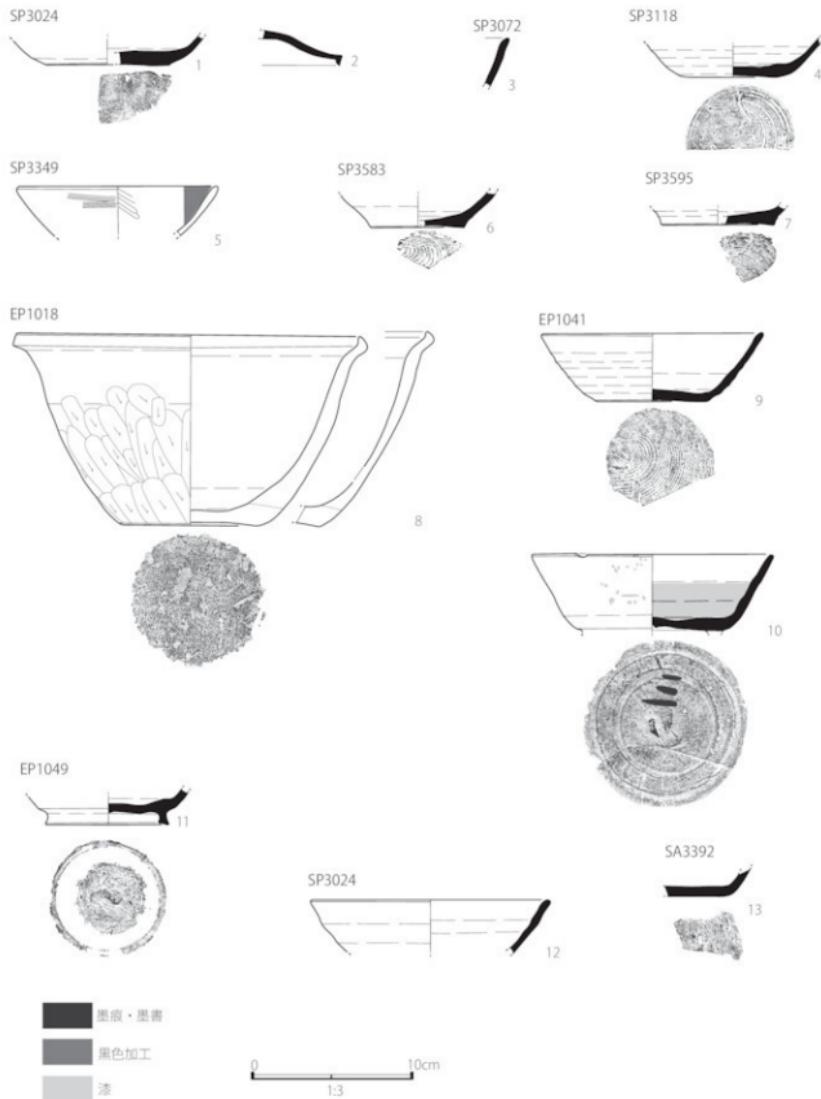


■ 黒色加工  
■ 墨痕・墨書

0 10cm  
1:3

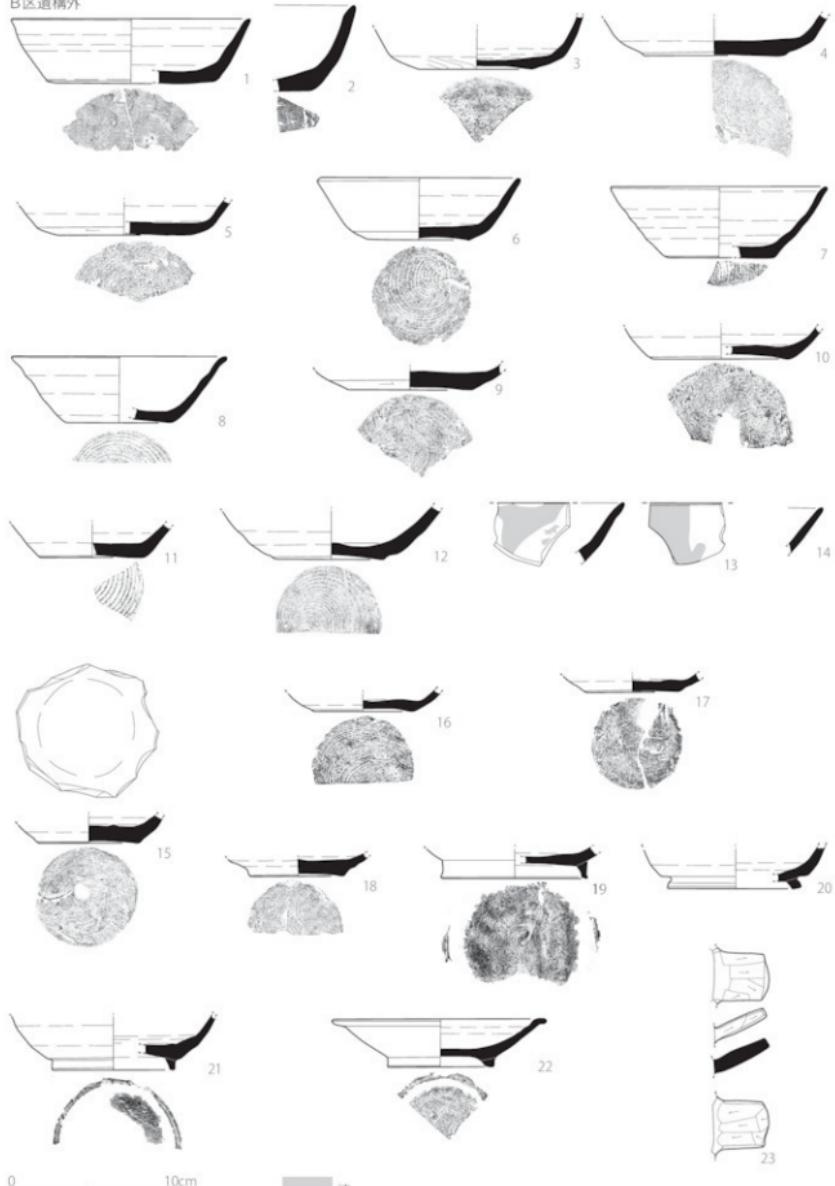
第86図 B区 土坑 出土遺物

III 遺跡の概要



第87図 B区 ピット・塚列 出土遺物

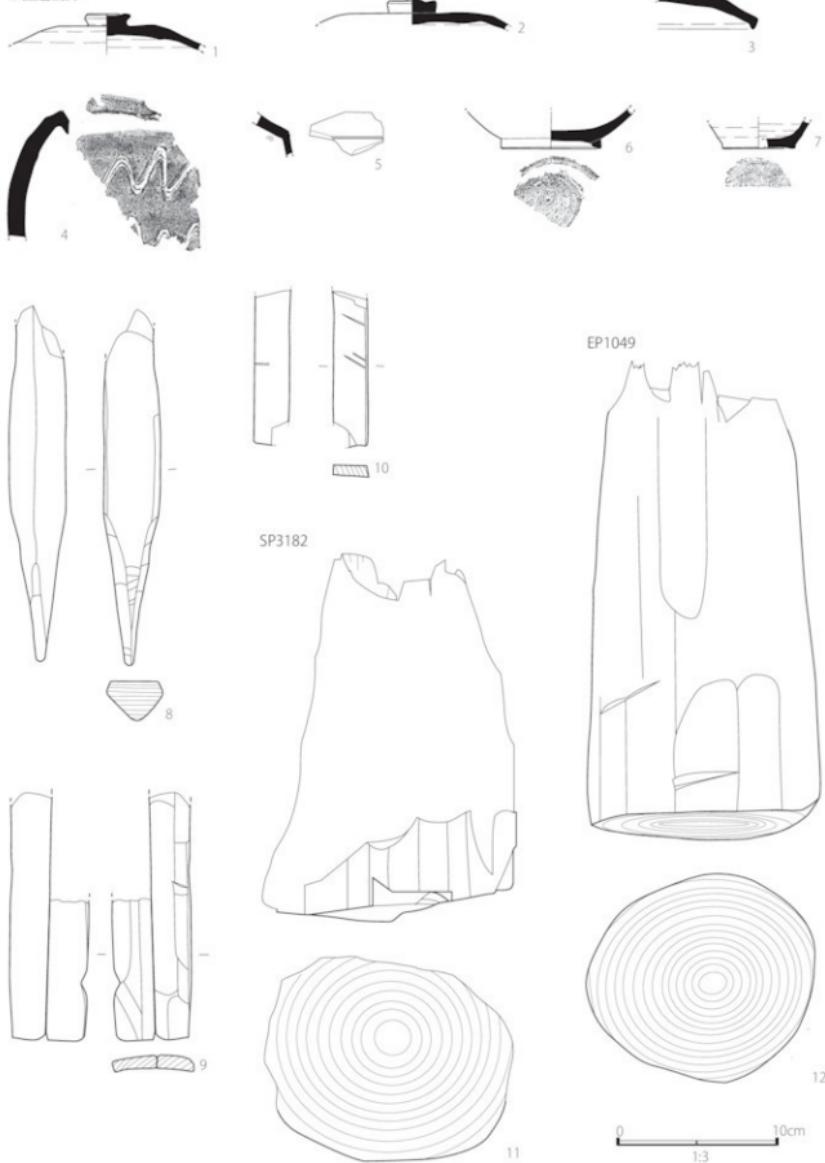
## B区遺構外



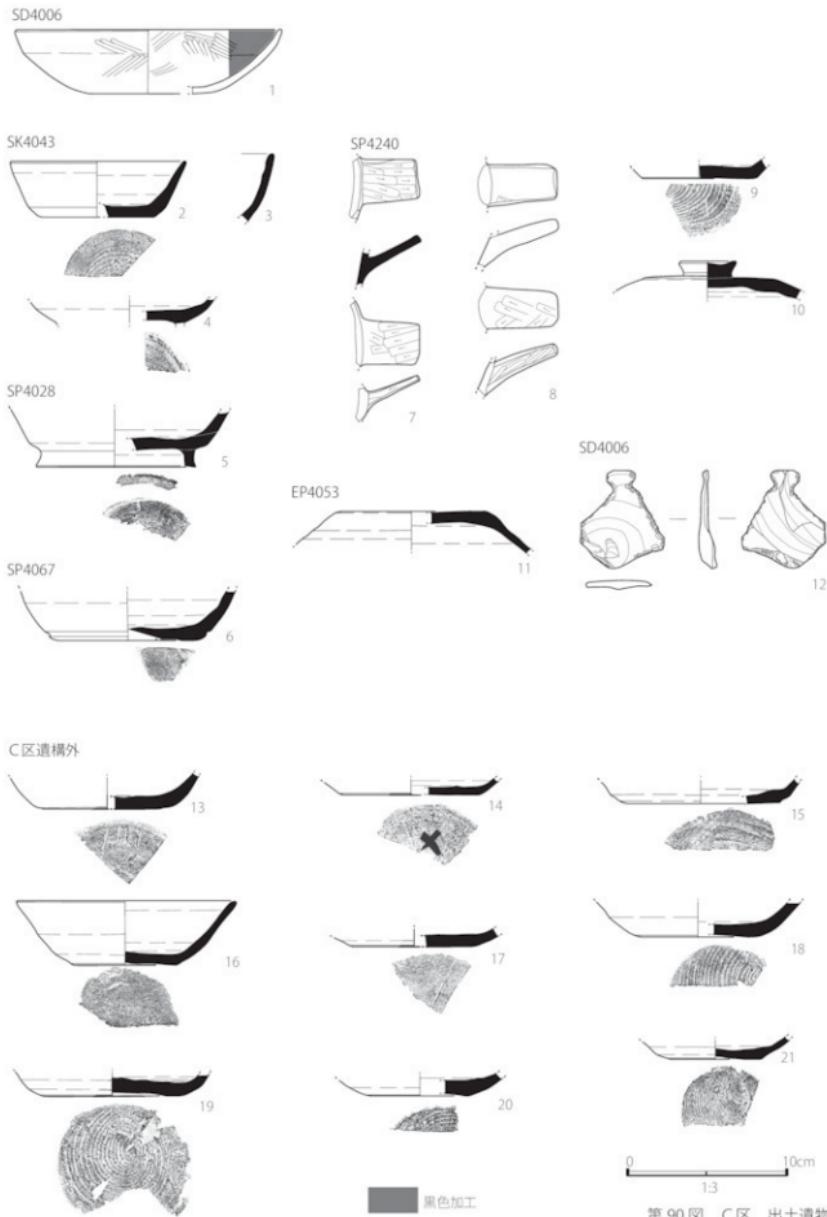
第88図 B区 遺構外 出土遺物

III 遺跡の概要

B区遺構外



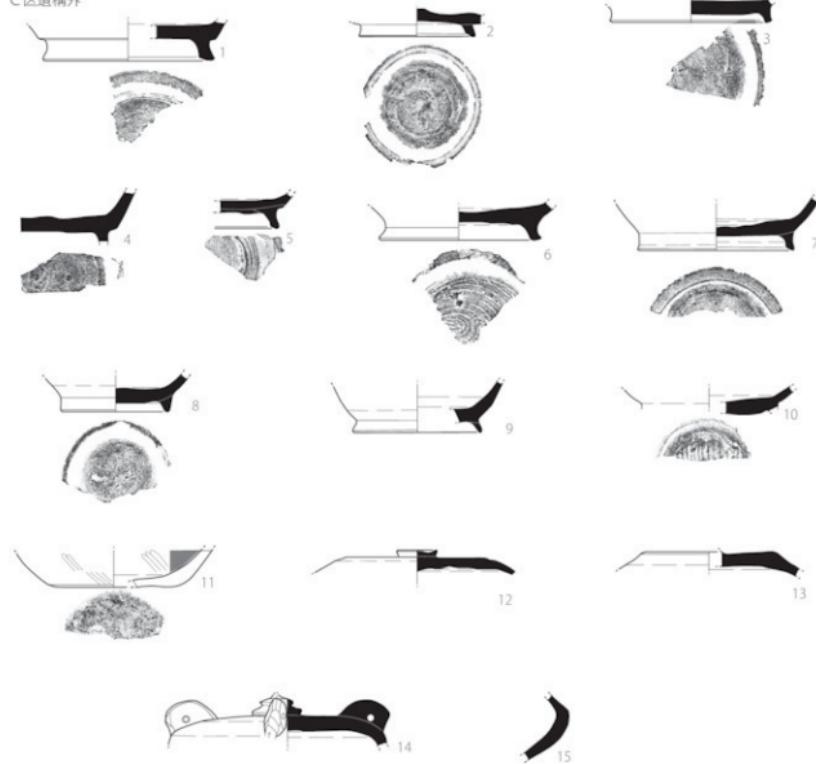
第89図 B区 遺構外 出土遺物・木製品



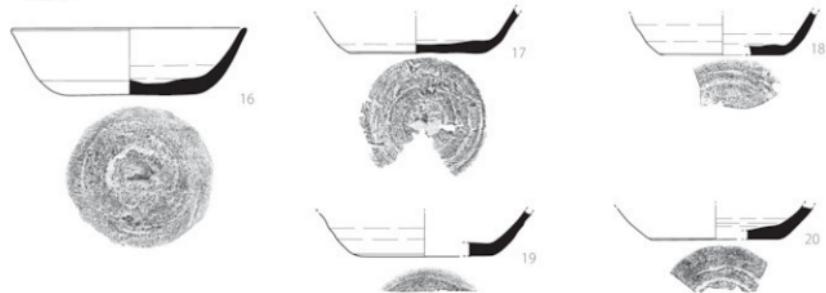
第90図 C区 出土遺物

III 遺跡の概要

C区遺構外



D区遺構外

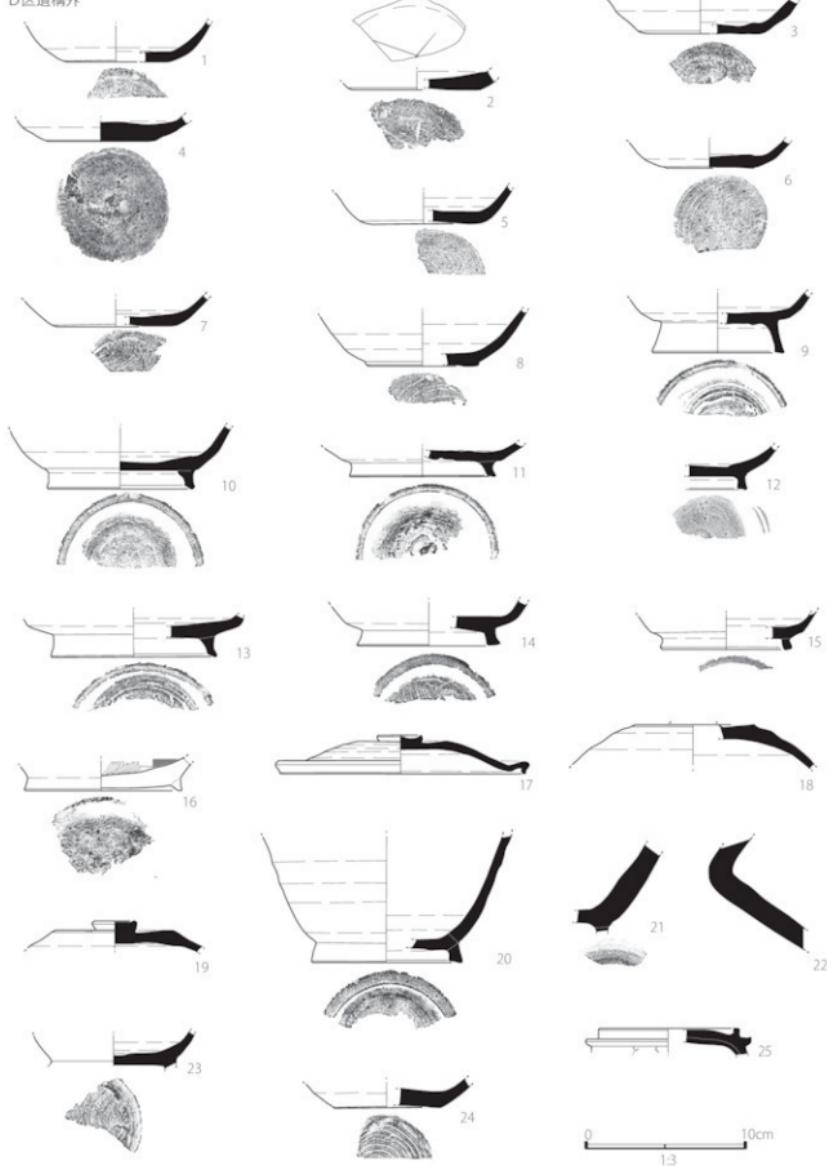


■ 黒色加工  
■ 墨痕・墨畫

0 1:3 10cm

第91図 C区・D区 遺構外 出土遺物

## D区遺構外



黒色加工

第92図 D区 遺構外 出土遺物

表 7 遺物観察表 (1)

団体 番号	拂因 種別	器種	登録番 号	計測値 (mm)				調整技法	出土 地点	備考	
				口径	通径	最高	最深				
1	黑色土器	环	RP60	-	(78)	-	3	ミガキ	ミガキ	回転ヘラ切 ST2690Y 底部切削し後ナデ調整、焼成不良	
2	須恵器	不明	-	-	-	-	7.5	ロクロ・ケズリ	ロクロ	- ST2690Y	
3	須恵器	环	-	(138)	52	38	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 ST2690F	
4	須恵器	环	RP39	(144)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	木葉痕 ST2690F	
5	須恵器	环	-	(120)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	- ST2690F	
6	須恵器	环	-	-	54	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 ST2690F	
7	須恵器	环	-	-	(70)	-	9	ロクロ	ロクロ	- ST2690F 焼成不良	
8	黑色土器	环	-	-	(100)	-	6	ロクロ	ミガキ	回転糸切 ST2690F	
9	黑色土器	环	RP47	-	56	-	4	ロクロ	ミガキ	回転糸切 ST2690F 磨減顯著	
10	黑色土器	环	RP61	-	53	-	3	ミガキ	ミガキ	回転糸切 ST2690F 底部切削し後ケズリ調整	
72	11	黑色土器	环	-	(156)	-	5	ロクロ	ミガキ	- ST2690F	
12	黑色土器	环	RP54	-	-	-	3	ロクロ	ミガキ	- ST2690F	
13	黑色土器	环	-	-	-	-	6	ロクロ	ミガキ	- ST2690F	
14	須恵器	甌 or 盆	RP48	-	-	-	8.5	ロクロ・ハケメ	ロクロ・ハケメ	- ST2690F	
15	土師器	甌	-	(144)	-	-	5	ハケメ	ハケメ	- ST2690F 外面にスス付着	
16	須恵器	环	RP20	(126)	50	35	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 ST2691EL 焼成不良 磨減顯著	
17	須恵器	环	RP73	-	(62)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切 ST2691F	
18	須恵器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	- ST2691F	
19	須恵器	甌	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	- ST2691F	
20	黑色土器	环	-	-	(70)	-	5	ロクロ	ミガキ	回転糸切 ST2691F 底部切削し後ミガキ調	
21	須恵器	壺	-	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	- ST2691F 切離し後ナデ調整	
73	1	須恵器	环	RP67	-	(68)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677Y 底部に墨書「口」
2	須恵器	环	RP63	-	(67)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677Y	
3	須恵器	环	RP66	-	(66)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677Y	
4	須恵器	环	-	(144)	(68)	34	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677F 内面に墨書きと使用痕(転用痕?)	
5	須恵器	环	-	(142)	(60)	42	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677F 体部側面に墨書き「X」	
6	須恵器	环	RP42	(150)	(60)	42	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677F 焼成不良	
7	須恵器	环	RP69	142	60	51	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677F	
8	須恵器	环	-	-	(70)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677F 底部中央に焼成後穿孔か? 焼成不良	
9	須恵器	环	RP71	-	(54)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677F	
10	須恵器	环	RP70	(132)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	- SD2677F 焼成不良	
73	11	須恵器	环	RP79	(126)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	- SD2677F 内裏墨書き(転用痕?)
12	黑色土器	环	-	-	(56)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2677F 磨減顯著	
13	黑色土器	环	-	-	60	-	7	ミガキ	ミガキ	不明 SD2677F	
14	黑色土器	高台环	RP43	-	70	-	4	ミガキ	ミガキ	回転糸切 SD2677F 内外面黒色加工	
15	土師器	甌?	RP65	-	(100)	-	16	ハケメ	ハケメ	布痕 SD2677F	
16	土師器	甌	-	(124)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	- SD2677F	
17	須恵器	風字瓶	-	-	-	-	20	ケズリ	ケズリ	- SD2677F 脱土に海綿状骨片多量混入	
18	木製品	木簡	RW68	156	14	-	7	ケズリ	-	- SD2677Y 墓裏「口」(丁カ)	
19	須恵器	甌	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	- SD2648 狹部凸縁	
20	須恵器	壺	-	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	- SD2648 烧成良好	
1	須恵器	环	RP16	(144)	56	47	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F 磨減顯著	
2	須恵器	环	RP46	140	63	46	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F 内面約10mmまで墨痕(転用痕?)	
3	須恵器	环	RP25	(150)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	- SD2648F	
4	須恵器	环	RP45	130	60	39	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F	
5	須恵器	环	RP26	-	60	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F 磨減顯著	
6	須恵器	环	RP24	140	64	42	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F	
7	須恵器	环	RP36	132	68	40	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F 烧成不良	
8	須恵器	环	RP6	136	63	47	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F 成形難	
9	須恵器	环	RP5	(154)	58	43	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F	
10	須恵器	环	RP23	-	(54)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F	
11	須恵器	甌	-	(156)	(44)	28	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F 内裏墨痕あり(転用痕?)	
12	須恵器	环	-	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切 SD2648F	
13	黑色土器	环	RP14	-	56	-	4	ロクロ	ミガキ	- SD2648F 磨減顯著	
14	黑色土器	高台环	RP62	-	66	-	4	ロクロ	ミガキ	- SD2648F	
15	須恵器	壺	-	(158)	-	-	7	ロクロ	ロクロ	- SD2648F	
16	須恵器	甌	-	336	-	-	11	ロクロ・タタキ	ロクロ・アテ	- SD2648F 平底 or 突底? 烧成良好	
75	1	織文土器	浅鉢	-	-	(78)	6	織文	ミガキ	- SD2646F	

表8 遺物観察表(2)

団塊	件名	種別	器種	登録番号		計測値(mm)				調整技法		出土地点	備考
				口径	底径	高さ	基盤厚	外 面	内 面	底 部			
75	2 潟器器	环	RP10	(146)	56	36	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SD2646F		
	3 潟器器	壺 or 瓶	-	-	120	-	8	ロクロ・ケズリ	ロクロ・ハケメ	-	SD2646F	火はね跡著	
	4 土師器	甕	-	-	-	-	7	ハケメ	ハケメ	-	SD2650F		
	5 潟器器	高台环	-	-	96	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD2687F		
	6 潟器器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SD2687F		
	7 潟器器	甕	-	(240)	-	-	10	ロクロ・タタキ	ロクロ・アテ	-	SD2687F		
	8 土師器	甕	RP37	(256)	-	-	9	ロクロ	ロクロ・ケズリ	回転ヘラ切	SK2660	内外面スス付着	被熱頭著
	9 土師器	甕	-	(140)	-	-	4	ハケメ	ハケメ	-	SK2660		
	10 黒色土器	壺	-	(164)	-	-	3.5	ロクロ	ミガキ	-	SK2684F	磨滅頭著	
	1 潟器器	环	-	(146)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SK2684F		
	2 潟器器	环 (縦挽) -	-	(142)	-	-	3.5	ロクロ	ロクロ	-	SK2684F		
	3 潟器器	环	-	(140)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SK2684F		
	4 潟器器	环	-	-	-	-	3.5	ロクロ	ロクロ	-	SK2684F		
	5 潟器器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SK2684F	体部墨書き「口」	
	6 土師器	甕	RP28	(190)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	EU1216	外面スス付着	RP29と合口理納
	7 土師器	甕	-	-	(80)	-	6	ケズリ	ハケメ	不明	EU1216	外面スス付着	被熱頭著
	8 土師器	甕	RP29	-	-	-	8	ハケメ	ハケメ	-	EU1216	RP28と合口理納	
	9 土師器	甕	RP32	-	(70)	-	4	ミガキ	ミガキ	SP1266			
76	10 土師器	甕	RP76	-	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	SP2314F	被熱頭著	
	11 潟器器	环	RP81	-	(70)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK267F	底部切離し後ナデ調整	
	12 潟器器	环	-	-	-	-	-	ロクロ	ロクロ	-	SP2230F		
	13 潟器器	环	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	SP2235F		
	14 潟器器	环	-	-	-	-	3	ロクロ	ロクロ	-	SP2241F		
	15 弥生土器	环	-	-	-	-	6	織文	ミガキ	-	SK71		
	16 土師器	甕	RP74	(186)	-	-	7	ハケメ	ハケメ	-	SP2546		
	17 土師器	环	-	-	(58)	-	3.5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SP2654F		
	18 黒色土器	高台环	RP77	-	62	-	4	ロクロ	ミガキ	回転ヘラ切	EP178		
	19 潟器器	环	-	-	(114)	68	36	3 ロクロ	ロクロ	回転系切	EP208		
	1 木製品	木柱	-	428	106	65	--	--	--	-	SP83	割材使用	
77	2 木製品	木柱	RW41	258	110	105	--	--	--	-	EP187	ウロのある木材使用	割材使用
	3 木製品	板材	-	103	72	6	--	--	--	-	SP83		
	1 潟器器	环	-	(134)	(76)	32	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C6G		
	2 潟器器	环	-	-	(106)	-	45	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	H6G	底部切離し後ナデ調整	
	3 潟器器	环	-	-	(72)	-	7	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SB6G	底部切離し後外周ケズリ調整	
	4 潟器器	环	-	-	68	-	35	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	H-5G	底部切離し後ミガキ調整	
	5 潟器器	环	-	-	66	-	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	H-5G	欠け割の痕跡	
	6 潟器器	环	RP11	(130)	(62)	39	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-3G	焼成良好	
	7 潟器器	环	-	(144)	(63)	39	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	G-5G		
	8 潟器器	环	-	(148)	(66)	47	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
	9 潟器器	环	-	(155)	62	45	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-5G		
	10 潟器器	环	-	(132)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	F-6G		
	11 潟器器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	F-4G	外圍墨書き「□」内面墨底あり	
78	12 潟器器	环	-	(134)	50	35	3	ロクロ	ロクロ	回転系切	G-5G F-6G		
	13 潟器器	环	-	(134)	(46)	38	3	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-4G	焼成不良 磨滅頭著	
	14 潟器器	环	-	-	74	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	F-4G	焼成不良	
	15 潟器器	环	-	-	(70)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-5G	焼成不良	
	16 潟器器	环	-	-	(66)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-4G		
	17 潟器器	环	-	-	56	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-4G		
	18 潟器器	环	-	-	(70)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-5G		
	19 潟器器	环	-	-	(68)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
	20 潟器器	环	-	-	68	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
	21 潟器器	环	-	-	64	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
	22 潟器器	环	-	-	(58)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
	23 潟器器	环	-	-	(68)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
	24 潟器器	环	-	-	(54)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
	1 潟器器	环	-	-	(64)	-	7	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-6G		
79	2 潟器器	环	-	-	62	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-4G	焼成良好	
	3 潟器器	环	-	-	(64)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-3G		

## III 遺跡の概要

表9 遺物観察表(3)

回収番号	種別	器種	登録番号	計測値(mm)			調整技法	出土部位	備考	
				口径	底径	高さ				
4	滴壺器	环	-	-	(64)	-	3.5 ロクロ	ロクロ	回転系切 I-6G	
5	滴壺器	环	-	-	51	-	5 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-4G	
6	滴壺器	环	-	-	(52)	-	4.5 ロクロ	ロクロ	回転系切 F-5G	
7	滴壺器	环	-	-	(61)	-	5 ロクロ	ロクロ	回転系切 B-6G	
8	滴壺器	环	-	-	(56)	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-6G 槌成良好 内面漆付着	
9	滴壺器	环	-	-	50	-	7 ロクロ	ロクロ	回転系切 G-2G 槌成不良	
10	滴壺器	环	-	-	68	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-3G 脊部書き「X」	
11	滴壺器	环	-	-	(54)	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-4G	
12	滴壺器	环	-	-	(48)	-	3 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-4G	
13	滴壺器	环	-	-	(56)	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-3G	
14	滴壺器	环	-	-	52	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-6G	
15	滴壺器	高台环	-	-	(70)	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-7G	
79	16	滴壺器	高台环	-	-	(80)	-	4.5 ロクロ	ロクロ	回転系切 B-6G
17	滴壺器	高台环	-	-	(90)	-	3 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-6G	
18	滴壺器	高台环	-	-	72	-	5 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-5G 内面墨痕(転用環?) 槌成良好	
19	滴壺器	高台环	-	-	(92)	-	4.5 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-3G	
20	滴壺器	高台环	-	-	(74)	-	5 ロクロ	ロクロ	回転系切 G-7G	
21	滴壺器	高台环	-	-	(102)	-	5 ロクロ	ロクロ	回転系切 C-5G	
22	滴壺器	高台环	RP27	138	76	55	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 F-2G	
23	滴壺器	圓	-	126	62	18	3 ロクロ	ロクロ	回転系切 X0 槌成良好	
24	滴壺器	环	-	(150)	(58)	47	3 ロクロ	ロクロ	回転系切 B-4G	
25	土師器	环	-	(135)	(60)	44	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 B-4G	
26	土師器	环	-	-	-	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-7G	
27	土師器	环	-	-	(42)	-	3 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-6G	
28	土師器	环	-	-	50	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 F-5G	
29	土師器	高台环	-	-	(58)	-	4 ロクロ	ミガキ	回転系切 H-3G	
30	黑色土器	环	-	(126)	(56)	-	4 ミガキ	ミガキ	回転系切 B-4G 磨滅跡著	
31	黑色土器	环	-	-	(70)	-	5 ロクロ	ミガキ	回転系切 H-4G 磨滅跡著	
1	黑色土器	高台环	-	-	71	-	4 ロクロ	ミガキ	回転系切 H-4G	
2	黑色土器	高台环	-	-	(80)	-	5 ミガキ	ミガキ	不明 G-4G 内外面黒色加工	
3	黑色土器	高台环	-	-	60	-	5 ロクロ	ミガキ	回転系切 G-2G	
4	黑色土器	高台环	-	-	(72)	-	3 ロクロ	ミガキ	回転系切 H-3G	
5	黑色土器	高台环	-	-	(56)	-	4.5 ロクロ	ミガキ	回転系切 H-4G	
6	黑色土器	高台环	-	-	(58)	-	3.5 ロクロ	ミガキ	回転系切 H-4G	
7	滴壺器	蓋	-	(186)	(84)	33	6 ロクロ	ロクロ	- C-3G 内面墨痕(転用環?)	
8	滴壺器	蓋	-	-	-	-	9 ロクロ	ロクロ	- H-6G	
9	滴壺器	蓋	-	(148)	-	-	4 ロクロ	ロクロ	- H-6G	
10	滴壺器	双耳蓋	-	(108)	-	-	6 ロクロ	ロクロ	- F-3G	
11	滴壺器	蓋	-	(94)	-	-	7 ロクロ	ロクロ	- G-6G	
80	12	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	-	7 ロクロ	ロクロ	H-3G	
13	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	-	-	7 ロクロ	ロクロ	- H-5G	
14	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	(98)	-	9 カメ	カメ	H-5G	
15	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	(80)	-	6 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-4G 槌成不良	
16	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	(124)	-	9 ロクロ	ロクロ	不明 F-5G	
17	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	(76)	-	5 ロクロ+ケズリ	ロクロ	ヘラケズリ B-6G 槌成良好	
18	滴壺器	瓶	-	-	(80)	-	7.5 ロクロ	ロクロ	回転系切 D-5G 槌成不良	
19	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	54	-	7 ロクロ	ロクロ	ヘラケズリ A-3G	
20	滴壺器	瓶	-	-	82	-	9 ロクロ	ロクロ	回転系切 G-5G 脊部を利用した転用環?	
21	滴壺器	瓶	-	-	(67)	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切 H-6G	
22	滴壺器	瓶	-	-	(60)	-	7 ロクロ+ミガキ+ケズリ	ロクロ	回転ヘラ切 H-6G 脊部切離し後ケズリ調整	
23	滴壺器	蓋 or 貝?	-	-	-	-	7 ロクロ	ロクロ	- H-5G	
1	土師器	甕	-	(208)	-	-	5 ハケメ	ハケメ	- D-3G	
2	土師器	甕	-	(250)	-	-	5 ハケメ	ハケメ	- X0	
3	土師器	甕	RP27	-	(100)	-	8 ケズリ	ハケメ	不明 X0 火はね顔著	
4	土師器	甕	-	-	-	-	7 ハケメ	ハケメ	不明 F-2G 被熱による磨滅跡著	
5	土師器	甕	-	-	-	-	7 ハケメ	ハケメ	不明 F-2G 被熱による磨滅跡著	
6	土師器	小型甕	-	-	64	-	6 ハケメ	ハケメ	布痕 H-5G 被熱による磨滅跡著	
7	土師器	甕?	-	-	-	-	5 ロクロ	ロクロ	- X0 磨滅跡著	

表 10 遺物観察表 (4)

団塊	件目	種別	器種	登録 番号				計測値 (mm)			調整技法		出土 地点	備考
				口径	底径	器高	器厚	外 面	内 面	底 部				
	8 漢文器	風字碗	-	-	-	-	20	ケズリ	ケズリ	-	G-6G	焼成良好 胎土に海綿骨片多量混入		
	9 漢文器	不明	-	-	-	-	4	ケズリ	-	-	H-4G	容器などの脚部か?		
81	10 漢文器	不明	-	-	-	-	16	ケズリ	-	-	H-3G	脚部か?		
	11 漢文器	不明	-	-	-	-	10	ロクロ・ケズリ	ロクロ	-	G-3G	中空の器種?		
	12 陶生土器	鉢	-	-	-	-	4.5	縄文	ナデ	-	B-4G	被熱している		
	13 磁器	小型壺	-	(78)	(30)	33	4	-	-	-	H-6G	近世~近代		
	1 漢文器	長頸瓶	-	-	-	-	10	ロクロ・ケズリ	ロクロ	-	G-2	漆付着		
82	2 石製品	砥石	-	-	35	-	--	-	-	-	G-3G			
	3 木製品	不明	-	-	-	-	17	ケズリ	-	-	G-7G	柄か?		
	4 木製品	不明	-	-	-	-	7	ケズリ	-	-	H-4G	部材か?		
	1 漢文器	环	RP133	(136)	58	47	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3020Y			
	2 漢文器	环	RP133	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SE3020Y			
	3 漢文器	环	-	-	(88)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SE3020F			
	4 漢文器	环	-	-	(80)	-	4.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SE3020F	切離し後ナデ調整		
	5 漢文器	环	-	(138)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SE3020F			
	6 漢文器	环	RP113	(142)	(66)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3020F			
	7 漢文器	环	RP135	-	74	-	4.5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3020F	内蓋スス付着		
	8 土師器	高台坪	RP114	-	(60)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3020F			
	9 漢文器	瓶	-	-	(66)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3020F			
	10 漢文器	瓶	RP115	-	-	-	9	ロクロ・カキメ	ロクロ	-	SE3020F			
83	11 土師器	甕	RP134	(212)	-	-	4	ハケメ	ハケメ	-	SE3020F			
	12 土師器	甕	RP115	-	(78)	-	7	ハケメ	ハケメ	不明	SE3020F	磨滅著		
	13 土師器	甕	RP114	-	(100)	-	10	ハケメ	ハケメ	ケズリ	SE3020F	磨滅著		
	14 土師器	甕	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	SE3020F			
	15 土器品	土錐	RP132	45	-	-	19	コビナデ	-	-	SE3020F			
	16 漢文器	环	RP120	(124)	(72)	30	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SE335F			
	17 漢文器	环	-	(140)	-	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SE335F	切離し後ナデ調整		
	18 漢文器	环	RP140	(146)	(70)	43	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE335F			
	19 漢文器	环	-	(150)	(72)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE335F			
	20 漢文器	环	-	146	78	42	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE335F	内蓋に漆付着		
	21 漢文器	高台坪	-	(144)	(84)	44	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE335F			
	1 漢文器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SE335F			
	2 漢文器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SE335F			
	3 漢文器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SE335F	内蓋漆付着		
	4 漢文器	环	RP141	-	(88)	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SE335F	内蓋漆付着		
	5 漢文器	环	-	-	-	-	4.5	ロクロ	ロクロ	-	SE335F			
	6 漢文器	甕	RP141	-	-	-	10	タタキ	アテ	ミガキ	SE335F	焼成不良		
	7 漢文器	甕	RP121	-	(92)	-	7	ロクロ・ハケメ	ロクロ・ハケメ	ミガキ	SE335F	焼成不良		
	8 漢文器	甕	RP119	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	不明	SE335F	切離し後調整有		
84	9 土師器	甕	RP122	(172)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	SE335F			
	10 黒色土器	甕?	-	-	(90)	-	5	ハケメ	ミガキ	ミガキ	SE335F	底部穿孔		
	11 漢文器	环	RP151	124	56	40	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3566Y			
	12 漢文器	环	RP147	140	70	45	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3566F	底部に墨書き「常」	焼成良好	
	13 漢文器	环	RP149	-	(78)	-	4.5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3566F			
	14 漢文器	环	RP144	-	50	-	3.5	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3566F			
	15 土師器	高台坪	-	-	(92)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SE3566F			
	16 土師器	甕	RP145	-	76	-	9	ロクロ・ハケメ	ロクロ	回転系切	SE3566F			
	17 木製品	串状木製品	RW146	257	10	9	-	ケズリ	-	-	SE3566F			
	1 土師器	甕	RP138	-	(82)	-	6	ハケメ	ハケメ	-	SD3156F	被熱による磨滅著		
	2 土師器	甕	-	-	110	-	6	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SD3156F			
	3 漢文器	高台坪	-	-	(94)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD3235F			
	4 漢文器	円面碗	-	-	(100)	-	7	ロクロ	ロクロ	-	SD3235F	研磨磨滅		
85	5 漢文器	环	RP105	(150)	(96)	40	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK3001F	磨り離し後ナデ調整		
	6 漢文器	环	RP108	-	(90)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK3001F			
	7 漢文器	环	RP108	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SK3001F			
	8 黄色土器	环	-	-	-	-	7	ハケメ	ミガキ	不明	SK3001F			
	9 漢文器	甕	-	-	(72)	-	3	ロクロ	ロクロ	-	SK3001F			

## III 遺跡の概要

表 11 遺物観察表 (5)

団版 番号	件 番号	種 別	器 種	登録		計測値 (mm)			調整技法		出土 地點	備 考	
				番号	口径	直徑	高さ	厚さ	外 面	内 面			
	10	漁器	長頭船	RP106	79	-	-	6	ロクロ	ロクロ	-	SK3001F	
	11	漁器	环	RP127	(142)	(59)	44	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SK3554F	
85	12	黒色土器	环	RP128	(146)	62	56	5	不明	ミガキ	不明	SK3354F 外面磨滅顯著	
	13	漁器	环	-	-	(74)	-	8	ロクロ	ロクロ	回転糸切?	SK3354F	
	14	漁器	轆	-	-	-	-	8	ロクロ・ケズリ	ロクロ	-	SK3574F	
	15	土器	环?	-	-	(50)	-	7	ハケメ	ミガキ	回転ヘラ切	SK3575F 磨切離し後ナデ調整	
	16	漁器	高台环	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK3577F	
	17	黒色土器	环	-	-	(137)	55	41	5	ミガキ	ミガキ	ケズリ	SK3577F
	1	漁器	环	-	-	(86)	-	3.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK3573F 切離し後ナデ調整	
	2	漁器	环	RP158	144	56	44	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SK3573F 底部墨書き「□」(左方) 捻成良好	
	3	漁器	环	RP154	-	70	-	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SK3573F	
	4	漁器	高台环	RP160	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SK3573F	
	5	漁器	高台环	RP161	(148)	(87)	78	4.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK3573F	
	6	漁器	环	RP157	(142)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SK3573F	
	7	土器	环	-	-	(128)	(47)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SK3573F
	8	黒色土器	高台环	RP157	-	(74)	-	3	ロクロ	ミガキ	回転糸切	SK3573F	
	9	黒色土器	高台环	RP155	-	(72)	-	5	不明	ミガキ	回転糸切	SK3573F 焼成不良	
85	10	黒色土器	高台环	RP159	-	(30)	-	5	不明	ミガキ	回転糸切	SK3573F 焼成不良	
	11	漁器	轆	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	SK3573F	
	12	土器	轆	RP162	-	82	-	5	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SK3573F	
	13	土器	轆	-	-	(230)	-	6	ハケメ	ハケメ	-	SK3573F	
	14	土器	轆	RP159	-	(68)	-	6	ハケメ	ハケメ	-	SK3573F	
	15	土器	轆	-	-	68	-	5	ハケメ	ハケメ	ミガキ	SK3573F	
	16	漁器	环	RP152	-	90	-	4.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK3578Y 切離し後ナデ調整	
	17	漁器	轆	RP153	(182)	(112)	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SK3578Y 内面に墨痕 転用痕?	
	18	土器	轆	-	-	-	-	5	ロクロ?	ロクロ?	-	SK3578F	
	1	漁器	环	-	-	(78)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SP3024 切離し後ナデ調整	
	2	漁器	轆	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SP3024	
	3	漁器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SP3072	
	4	漁器	环	-	-	66	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SP3118 外面漆、内面墨付着	
	5	黒色土器	环	-	-	(124)	-	4.5	ハケメ	ミガキ	-	SP3349	
87	6	漁器	环	-	-	(58)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SP3583	
	7	漁器	环	-	-	(68)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SP3595	
	8	土器	轆	RP126	(218)	(80)	68	8	ロクロ・ケズリ	ロクロ	不明	EP1018 外面・底部磨滅顯著、内面付着物・コゲ有	
	9	漁器	环	RP165	(136)	68	48	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	EP1041Y	
	10	漁器	高台环	-	-	(149)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	EP1041Y 内面膜状に漆付着、底部墨書き「三」	
	11	漁器	高台环	-	-	74	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	EP1049Y	
	12	漁器	环	-	-	(146)	-	4.5	ロクロ	ロクロ	-	SA3510 切離し後ナデ調整	
	13	漁器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SA3392	
	1	漁器	环	-	-	(148)	(106)	40	7	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切 G-10G	磨切離し後ナデ調整 内部漆付着
	2	漁器	环	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切 H-10G	磨切離し後ナデ調整	
	3	漁器	环	-	-	(188)	-	4.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切 G-10G	磨切離し後ナデ調整	
	4	漁器	环	RP103	-	(88)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切 G-10G	磨切離し後ナデ調整	
	5	漁器	环	-	-	(86)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切 H-10G	磨切離し後ナデ調整 捻成良好	
	6	漁器	环	-	-	(126)	62	38	4 ロクロ	ロクロ	回転糸切	H-10G	
	7	漁器	环	-	-	(134)	(66)	44	4 ロクロ	ロクロ	回転糸切	E-9G 焼成良好	
	8	漁器	环	-	-	(138)	(64)	41	4 ロクロ	ロクロ	回転糸切	G-10G 焼成良好 内面漆付着	
	9	漁器	环	-	-	(74)	-	5	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸切	H-10G 焼成良好	
88	10	漁器	环	-	-	(84)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	H-10G	
	11	漁器	环	-	-	(60)	-	4.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	F-9G	
	12	漁器	环	-	-	66	-	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	F-10G 焼成良好	
	13	漁器	环	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	-	F-9G 内外縁漆付着	
	14	漁器	环	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	G-9G	
	15	漁器	环	RP102	-	62	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	G-10G 体部欠き割?	
	16	漁器	环	-	-	62	-	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	G-10G	
	17	漁器	环	-	-	(59)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	H-10G	
	18	漁器	环	-	-	90	-	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	H-10G	
	19	漁器	高台环	-	-	(80)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	H-10G	

表 12 遺物観察表 (6)

図版	件 号	種 別	器 種	登録		計測値 (mm)			調整技法		出土地点	備 考
				番号	口径	底径	器高	器厚	外 面	内 面		
	20	須恵器	高台坪	RP101	-	75	-	4	ロクロ	ロクロ	不明	H-10G
88	21	須恵器	皿	-	(130)	(66)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	F-9G
	22	須恵器	双耳坪	-	-	-	-	9	ケズリ	-	-	G-10G
	1	須恵器	蓋	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	G-9G
	2	須恵器	蓋	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	G-10G
	3	須恵器	蓋	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	-	H-9G
	4	須恵器	甕	-	-	-	-	11	ロクロ	ロクロ	-	H-10G 頸部波状紋
	5	須恵器	瓶?	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	F-9G 内面漆付着 外面調整丁寧
	6	須恵器	瓶	-	-	(62)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	F-10G
	7	須恵器	瓶	-	-	(44)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	H-10G
89	8	木製品	不明	-	-	35	-	24	ケズリ	-	-	X0
	9	木製品	不明	-	-	-	-	8	ケズリ	-	-	X0
	10	木製品	不明	-	-	-	-	7	ケズリ	-	-	N2G
	11	木製品	木柱	RW142	-	(143)	-	-	ケズリ	-	-	SP3182
	12	木製品	木柱	-	(140)	(125)	-	-	ケズリ	-	-	EP1049
	13	黒色土器	坪	-	(150)	(60)	38	3	ミガキ	ミガキ	不明	SD4006
	14	須恵器	坪	-	(108)	(70)	35	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SK4043 切離し後外周ケズリ調整
	15	須恵器	坪	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SK4043
	16	須恵器	高台坪	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	SP4028
	17	須恵器	高台坪	-	-	(96)	-	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SP4067 切離し後ナデ調整
	18	須恵器	坪	-	-	(96)	-	7	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SP4240
	19	須恵器	坪	-	-	-	-	5	ケズリ	-	-	SP4240
	20	須恵器	坪	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	回転系切	SP4240
90	21	須恵器	坪	-	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	-	SP4240
	22	須恵器	坪	-	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	-	EP4053
	23	石器	石砲	-	52	60	-	-	-	-	-	SD4006
	13	須恵器	坪	-	-	(80)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	X0
	14	須恵器	坪	-	-	(86)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	X0
	15	須恵器	坪	-	-	(96)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-6G 切離し後ユビナテ調整
	16	須恵器	坪	-	(136)	(65)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-10G
	17	須恵器	坪	-	-	50	-	5	ミガキ	ロクロ	回転ヘラ切	C-8G
	18	須恵器	坪	-	-	(100)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-X0
	19	須恵器	坪	-	-	88	-	3	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-6G
	20	須恵器	坪	-	-	(62)	-	6	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-6G
	21	須恵器	坪	-	-	(56)	-	45	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-6G
	1	須恵器	高台坪	-	-	(96)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-9G
	2	須恵器	高台坪	-	-	(106)	-	8	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-X0
	3	須恵器	高台坪	-	-	76	-	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-X0
	4	須恵器	高台坪	-	-	-	-	7	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-X0
	5	須恵器	高台坪	-	-	-	-	8	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-6G
	6	須恵器	高台坪	-	-	(100)	-	7	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-X0
	7	須恵器	高台坪	-	-	96	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-6G 械成不良
	8	須恵器	高台坪	-	-	(64)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-X0
	9	須恵器	高台坪	-	-	(74)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-X0
91	10	須恵器	高台坪	-	-	-	-	45	ロクロ	ロクロ	回転系切	C-6G
	11	黒色土器	坪	-	-	(80)	-	6	ミガキ	ミガキ	ケズリ	C-6G
	12	須恵器	蓋	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	-	C-6G
	13	須恵器	蓋	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	C-X0
	14	須恵器	蓋	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ	-	C-X0 双耳蓋?
	15	須恵器	瓶	-	-	-	-	6	ロクロ・ケズリ	ロクロ	-	C-6G
	16	須恵器	坪	-	(143)	86	40	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-2G 切離し後ナデ調整
	17	須恵器	坪	-	-	80	-	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-3G
	18	須恵器	坪	-	-	(76)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-2G
	19	須恵器	坪	-	-	(60)	40	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-2G
	20	須恵器	坪	-	-	(84)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-2G
92	1	須恵器	坪	-	-	(66)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-X0
	2	須恵器	坪	-	-	(86)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-4G 底部ヘラ書「X」か 切離し後ナデ調整

表 12 遺物観察表 (7)

図版 番号	種 別	器 種	登録 番号	計測値 (mm)			調整技法 内面	出土 底部	地 点	備 考
				口径	底径	高さ				
	3 漏斗器	坏	-	-	(76)	-	5 ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-1G 切離し後コビナテ調整
	4 漏斗器	坏	-	-	70	-	4 ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-X0 切離し後コビナテ調整
	5 漏斗器	坏	-	-	(66)	-	3 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-2G
	6 漏斗器	坏	-	-	56	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-2G
	7 漏斗器	坏	-	-	(60)	-	3.5 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-2G
	8 漏斗器	坏	-	-	(66)	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-2G
	9 漏斗器	高台坏	-	-	(82)	-	5 ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-X0
	10 漏斗器	高台坏	-	-	90	-	3 ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-2G 底部へラ書「X」カ
	11 漏斗器	高台坏	-	-	90	-	4 ロクロ	ロクロ	不明	D-X0
	12 漏斗器	高台坏	-	-	-	-	5 ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-2G
	13 漏斗器	棱塊?	-	-	(88)	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-2G
92	14 漏斗器	棱塊?	-	-	(80)	-	3 ロクロ	ロクロ	不明	D-X0
	15 漏斗器	棱塊	-	-	102	-	5 ロクロ	ロクロ	-	D-2G 捨成後底部穿孔か
	16 黒色土器	高台坏	-	-	(98)	-	5 ロクロ	ミガキ	回転系切	D-2G
	17 漏斗器	蓋	-	(138)	-	24	4 ロクロ	ロクロ	-	D-2G
	18 漏斗器	蓋	-	-	-	-	4 ロクロ	ロクロ	-	D-2G
	19 漏斗器	蓋	-	-	-	-	4 ロクロ	ロクロ	-	D-2G
	20 漏斗器	瓶?	-	-	-	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-X0 捨成後底部穿孔か 捨成良好
	21 漏斗器	蓋?	-	-	-	-	10 ロクロ	ロクロ	不明	D-2G 捨成後底部穿孔か
	22 漏斗器	甕	-	-	-	-	10 タタキ	アテ	-	D-1G
	23 漏斗器	瓶	-	-	-	-	4 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-2G
	24 漏斗器	瓶?	-	-	(62)	-	55 ロクロ	ロクロ	回転系切	D-2G
	25 漏斗器	円面環	-	(88)	-	-	7 ロクロ	ロクロ	-	D-2G 彫部にヘラ彫文様 捨成良好

## IV ま　と　め

唐越遺跡は南流する吉野川によって形成された宮内扇状地の扇尖部から扇端にあたり、遺跡は自然堤防状の微高地に立地する。遺構・遺物の両面からみて、奈良時代～平安時代（8世紀後半～9世紀末）の集落とみられる。

この遺跡の特徴は、遺構の項で述べたように、掘立柱建物跡群が存在していること、それらが建物軸によってグループ分けができる様に方向軸に規則性があること、区画溝や掘立柱列、柵列などの区画施設が確認されること、布堀りの柵列とみられる溝群が確認される、などであろう。

まず、掘立柱建物跡の方向が前述のとおり概ね4方向に分類できると同時に同方向に走る区画溝と掘立柱列、柵列が存在するとみられ、その分類も4方向分であることから概ね4時期分の建て替えの変遷があった可能性を考えられる。しかし、方向軸によるグループ化を行ったものの、各グループ間の柱穴の重複を確認できないことから、その新旧関係をこの調査区内で判断することは不可能であった。調査区内の掘立柱34棟のうち明確な総柱建物は5棟のみで、また柱が細いため重量物を収納する建物とは考えがたい。

区画溝について、S D 2648・S D 3534・S D 1が大きく区画割をしている。また掘立柵列 S A 1～7、柵列 S A 8による区画割が行われていると思われる。掘立柱建物跡についてはC-4～D-5グリッドのほぼ同規模のS B 18・21・22・23が真南北方向・2棟2列、H-9～I-9グリッドのS B 29・30も2列の規則性で並んでいる。

このように区画施設と掘立柱建物跡群で構成される例は置賜地方では中落合遺跡、大浦B遺跡、塙の上遺跡で確認されている（植松2010）。

また特徴的な区画溝と思われるものとしてG-3～5グリッドのL字型を呈するS D 2646で、この溝の機能は不明であるが、それはこの溝内の遺構S T 2960とS D 2658の性格に求められるであろう。S T 2960について中央に地床ががある台形の豊穴住居

跡という特殊な形状と、S D 2658に付随する土坑S K 267床面に焼土が見つかっていることから、これらの遺構は何らかの工房の可能性が考えられる。C-3～4グリッドの溝群について、間隔が1.8m前後間隔の布堀りの柵列ではあるが遺構の性格は不明である。

遺物について、A区が他の調査面積に対し遺物出土量が少ない印象が強く、特に豊穴住居跡からの遺物出土が殆どなくA区から生活臭を感じられないという印象を受ける。一方B区では井戸跡、土坑を中心に多量の遺物が出土している。またB区の井戸について3基が確認されているが、床面からの出土土器から3基には使用時期に差があると思われ、最も古い井戸S E 3355は9世紀第1四半期頃、S E 3020が最も新しく9世紀第3～4四半期頃に廃棄されたと思われる。

遺物の項でも述べたが、A区からD区までに特に坏について出土遺物の時代差がみられ、南側C・D区の遺物は8世紀代～9世紀初頭の割合が多く、北側A区では9世紀半ばから後半のものが多くを占める。これは遺跡の主体が調査区内Pでも南から北に移動したのか、それとも8世紀代には調査区の全体が使用されていたが次第に南側（C区・D区）が使用されなくなり放置された結果なのかは判断しがたいところでもあるが、今回の調査区内で100年余りの間に多くの周辺では土地利用について変遷があったことは推測できる。

また、陶窯（円窯2点、風字窯2点）、木簡1点、墨書き土器7点など、文字資料および文字関係遺物が出土している。また内面に漆が残存・付着した坏類（87-10他）が数点出土しているのも大きな特徴で、漆を使用して手工業生産作業を行い、文字で管理・記録を行っていた可能性がある。加えてD区において壺あるいは瓶類で底部焼成後穿孔が施されたもの（92-20・21）が出土していることを加えておきたい。

以上、唐越遺跡の遺構および遺物の特徴を挙げてきたが、第25回古代城柵官衙遺跡検討会で提唱された「官衙的性格の有無を識別する要素」の10項目（伊藤・植松 1999）と比較した場合、「区画施設を持つ」「掘立柱建物が主体をなす」「建物の配置に計画性が見られる」「何らかの手工業生産活動が見られる」「木簡・墨書き器・硯等文字関係の遺物が顕著に出土する」の5項目に該当し、官衙的性格の特徴をもつ遺跡である可能性が高いと思われる。

前述のとおり同様の特徴を持った遺跡は直線距離にしてほぼ西方向1.4km、吉野川旧河道を挟んだ地点に位置する中落合遺跡が存在する。中落合遺跡は区画施設内に計画的なコの字状に掘立柱建物跡が配置されていることから極めて官衙的様相の強い遺跡であり（氏家・高桑 2008）、建物は8世紀後葉から9世紀後葉の遺跡で4期の変遷があったとみられる（植松 2010・佐藤鉄 2010）。唐越遺跡をこれと比較した場合、区画廻あるいは溝が存在し、計画的とは断言し難いが建物方向を合わせて並立している掘立柱建物が数棟存在している。また建物軸と堀・溝などの重複の

組み合わせを考えた場合、3～4期程度の建て替え期があった可能性がある。また出土した遺物から8世紀第4四半期～9世紀第4四半期に使用された集落と思われ、中落合遺跡も8世紀末～9世紀後半が主たる時期と報告されていることから、ほぼ同時期に存在していたものと思われる。

唐越遺跡は南陽市沖郷地区に存在した置駕郡衙跡と推定されている「郡山遺跡群」の範疇に所在する遺跡であり、同時に佐藤鉄雄が提唱する「沖郷条里」の範囲内に位置する（佐藤鉄 2010）。ただし佐藤は沖郷条里の盛期は9世紀前半としているが、唐越遺跡の盛期は出土土器から9世紀中期～後半と思われる。しかしこの唐越遺跡は「郡山郡衙」探求の手掛かりとなる遺跡のひとつとなる遺跡となるといえるだろう。

#### 引用・参考文献

- 阿部明彦・水戸弘美  
伊藤邦弘・植松暁彦  
植松暁彦  
氏家信行・伊藤純子  
氏家信行・高桑弘美  
氏家信行・吉野江美子  
押切智記・須賀井明子  
角田朋朗  
佐藤鉄雄・佐藤庄一  
佐藤鉄雄ほか  
佐藤庄一・名和達朗  
渋谷純子・高桑弘美  
須賀井明子  
高桑弘美・閑口正昭  
高橋 敏  
手塚 孝・菊地政信  
中山敏史ほか  
(財)福島県文化  
センター遺跡調査課  
三上喜孝  
山田 者・吉野江美子  
吉野江美子ほか  
吉野江美子  
吉野江美子  
吉野江美子  
吉野一郎  
和田聰・植村泰徳
- 1999 「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』  
1999 「山形県の官衙関連遺跡」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』  
2010 「古代の平面正方形区画施設の内部構造」『年報平成21年度』(財)山形県埋蔵文化財センター  
2009 「加藤屋敷遺跡第1・2・3次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書179集  
2008 「中落合遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第168集  
2007 「大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第158集  
2007 「庚塙遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第161集  
2014 「唐越遺跡」『第40回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』  
1987 「南陽市史 考古資料編」南陽市史編さん委員会  
2010 「平安初頭の南出羽考古学」山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館  
1985 「沢田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第88集  
2004 「山形県の奈良・平安時代における信仰関連遺物集成」『研究紀要第2号』(財)山形県埋蔵文化財センター  
2010 「平安初頭における仏教と律令信仰」『平安初頭の南出羽考古学』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館  
2005 「堀端遺跡・塙ノ上遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第140集  
2010 「太夫小塙遺跡1・2・3発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第81集  
1993 「大浦B遺跡発掘調査報告書」米沢市埋蔵文化財調査報告書第36集  
2003 「古代の官衙遺跡 Ⅰ 遺構編」(独法)奈良文化財研究所  
2000 「江平遺跡」『第26回古代城柵官衙遺跡検討会資料』  
2014 「古代出羽国の移民について」『シンポジウム 1200年前の長井資料集』長井市教育委員会  
2013 「長岡山遺跡・長岡山東遺跡」『南陽市埋蔵文化財調査報告書第7集』南陽市教育委員会  
2013 「郡山遺跡群 富貴堂遺跡」『南陽市埋蔵文化財調査報告書第6集』南陽市教育委員会  
2014 「清水上遺跡」『南陽市埋蔵文化財調査報告書第9集』南陽市教育委員会  
2003 「須恵器長頸瓶の製作技法」『研究紀要創刊号』(財)山形県埋蔵文化財センター  
2004 「山形県の井戸」『研究紀要第2号』(財)山形県埋蔵文化財センター  
1984 「郡山 矢ノ目駕跡遺跡」『南陽市文化財調査報告書第1集』南陽市教育委員会  
2000 「鏡ノ町遺跡B-1平成11年度調査の概要」『第26回古代城柵官衙遺跡検討会資料』

V  
木簡釈文

記録した記録筒の一部である可能性がある。

本木簡の特徴は、細長い短冊状の板材に、一行書きで書かれているということである。細長い短冊状の板材に、人名や物品の数量などを、間隔を適宜あけつつ一行書きで列記するタイプの記録簡が、秋田県秋田市の中城跡（第五四次調査出土一八号木簡）や秋田県大仙市の払田柵跡（第一〇七次調査出土三八、三九号木簡）などから出土しており、本木簡もあるいはそうした記録簡と同様の記載式を想定することができるかもしない。ただし本木簡は、下端も欠損しております、文字もほとんど判読できなくなっています。したことから、現段階では本木簡の性格は不明といわざるを得ず、あくまで一つの可能性を示すことにとどめる。

〔和文〕  
〔丁力〕

(参考)

○秋田県秋田市・秋田城跡第五四次調査出土一八号木簡

〔肥力〕

〔和力〕

・「子太□一升  
夜□矢一升  
伊佐伎一升  
鎰取

伊佐枝三升  
真紀二升  
子一升  
手一升

第四章 一、二、三級問題

上端と左右側面は原形をとどめているが、下端は欠損している。下端は、刃物を入れて切断したような欠損のしかたである。上端の左右は、わずかながら斜めに面取りがなされている。

木簡のオモテ面（字のある面）は平滑に調整されている。ウラ面は全体にカマボコ形状を呈している。ウラ面の上端部は、段状に形成されている。全体の形状から考えて、もともと何かの木製品の一部とも考えられ、部材として使われたものを木簡に転用した可能性と、部材にともなう墨書きである可能性の、二通りが考えられる。

〔內容〕

わずかに墨痕が残っているものの、全体に墨の残りが非常に悪く、判読を確定するまでには至らない。ただ、一番下の文字が「丁」と読めるところと、「正丁」「仕丁」「綱丁」など、「丁」は成人男子を意味したり、あるいは成人男子による労働力を意味する用語として史料上にみえることがあるので、この場合もたとえば、そうした成人男子の労働編成にかかわって



## 写 真 図 版



発掘調査作業状況



A区遺構検出状況（北より）

写真図版 1



A区調査区全景（南東より）



A区調査区全景

写真図版2

A区調査区全景（北より）



A区調査区全景（西より）



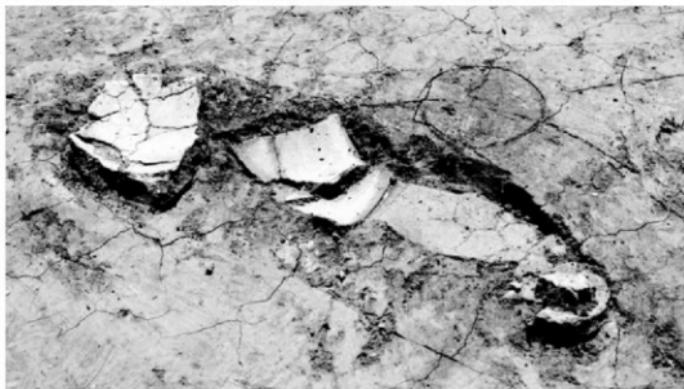
A区完掘状況（南西より）

A区完掘状況

写真図版 3



S K 2660 遺物出土状況



E U 1216 R P 28・29出土状況



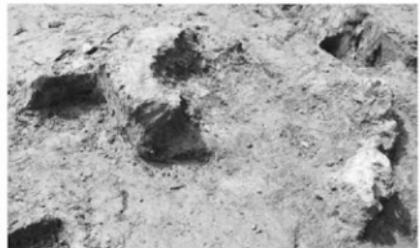
S D 2648 出土状況

A区 遺物出土状況

写真図版 4



A区調査区東部分空撮（南が上）



ST 2690 E L 調査状況（東より）



ST 2690 調査状況（東より）

ST 2690 調査状況



S T 2691 完掘状況（東より）



S T 2691 E L 調査状況（南より）



S T 2691 E L 調査状況（西より）



S T 2691 調査状況（南より）



S T 2697 完掘状況（南より）



S T 2697 調査状況（北より）



S T 2697 調査状況（北より）



S T 2697 E L 調査状況（北西より）



S T 2697 E L 調査状況（南西より）



S B 1 完掘状況



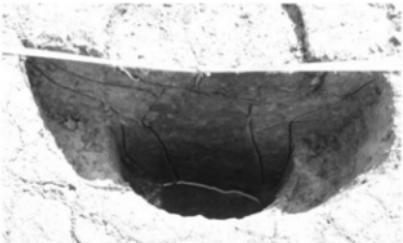
E P 187 土層断面



S P 2369 土層断面



S P 2321 土層断面



S K 2686 土層断面

S B 1 調査状況

写真図版 8



溝群完掘状況（空中撮影）



溝群完掘状況（北より）

溝群調査状況



溝群完掘状況（南西より）



溝群（南北方向群）完掘状況（南より）

溝群調査状況

写真図版 10



溝群（東西方向群）完掘状況（東より）



E D 33 完掘状況（北より）



E D 35 完掘状況（北より）



E D 26・27 完掘状況（北より）



E D 35 調査状況（南より）



E D 35 調査状況（南より）



E D 37・34 調査状況（東より）



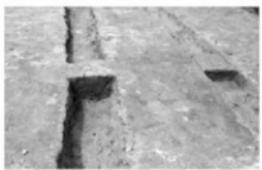
E D 41 調査状況（南より）



E D 39 調査状況（東より）



E D 28・29 調査状況（南より）



E D 24・25 調査状況（南より）



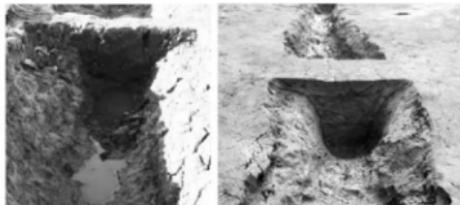
E D 26・27 調査状況（南より）



E D 28・38 調査状況（北西より）



S D 2648 完掘状況（南より）



S D 2648 土層断面（南より）

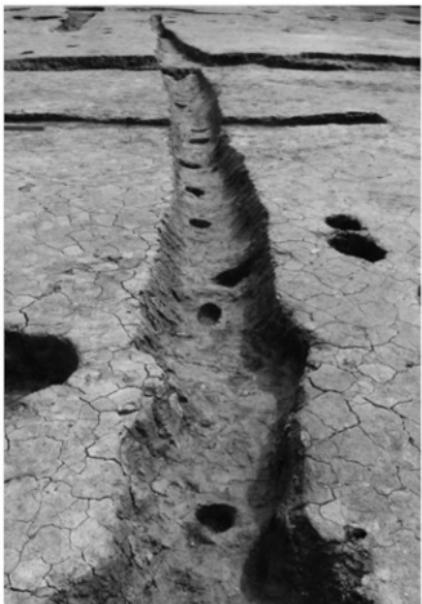


S D 2648 完掘状況（北より）

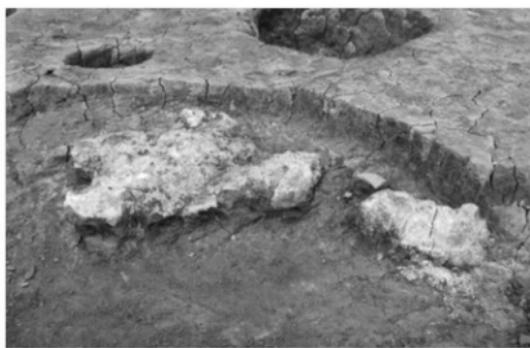
S D 2648 調査状況



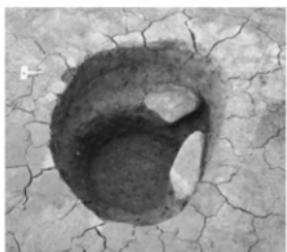
SD 1 完掘状況（東より）



SD 1 完掘状況（西より）



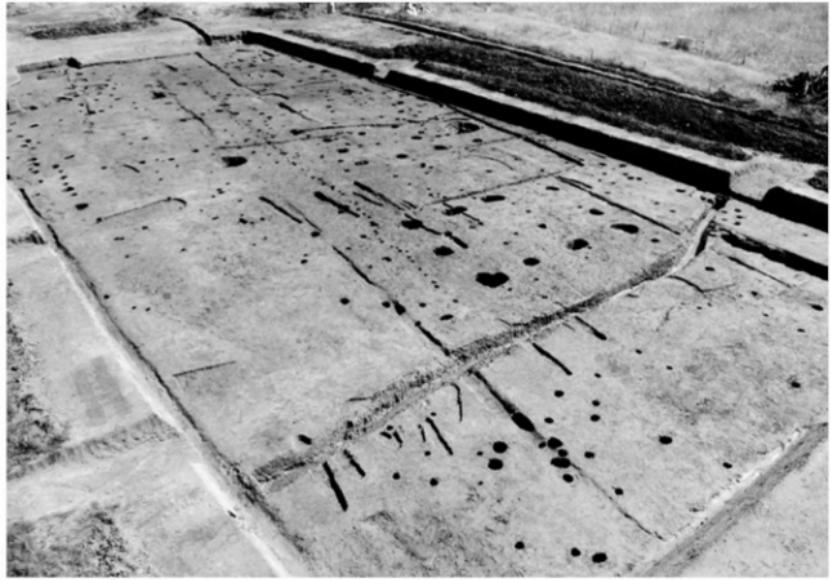
SK 267 犁土検出状況（南より）



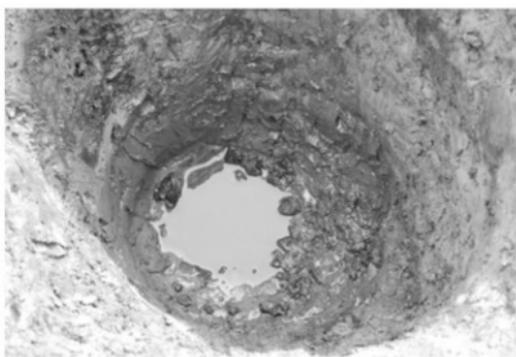
SP 1068 完掘状況（西より）



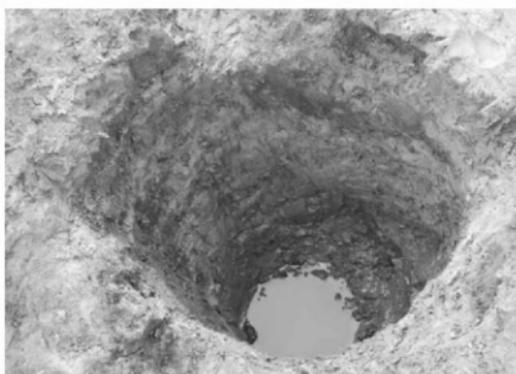
B区検出状況（西より）



B区完掘状況（北西より）



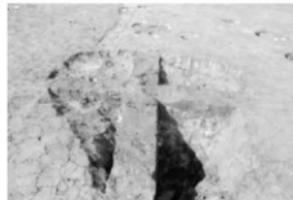
SE 3355 完掘状況（北より）



SE 3020 完掘状況（西より）



SE 3020 調査状況（北より）

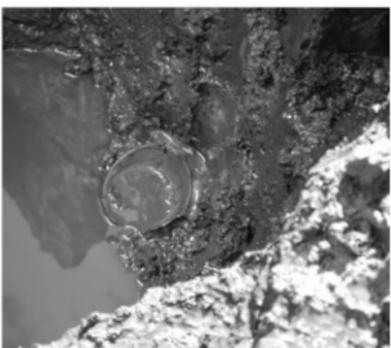


SE 3355 調査状況（上・北より 下・西より）

B 区井戸跡調査状況



S E 3566 遺物出土状況（東より）



S E 3566 遺物出土状況（東より）



E P 1041 遺物出土状況（北西より）



E P 1041 遺物出土状況（南西より）



E P 1018 遺物出土状況（北東より）



C区・D区検出状況（西より）



C区検出状況（西より）

C区・D区調査状況

写真図版 18



C区完掘状況（西より）↑  
C・D区完掘状況（西より）→



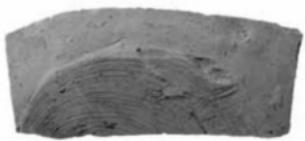
S-T 4完掘状況（南より）  
C区・D区調査状況  
写真図版 19



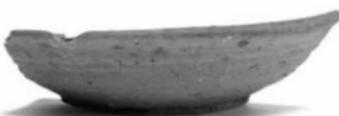
第73図17 第81図8 風字硯  
第85図4 第92図25 円面硯（左上より）



第73図18 木筒（右・赤外線撮影）



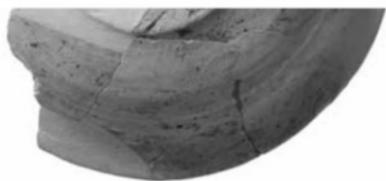
第73図1 墨書き土器「□」(文字不明)



第73図4 須恵器 壕



第73図7 須恵器 壕



第73図5 墨書き土器「×」



第73図19 須恵器 長頸瓶



第73図20 須恵器 小甌



第72図1～8 S T 2690出土遺物（左上より）



第72図9～15 S T 2690出土遺物（左上より）



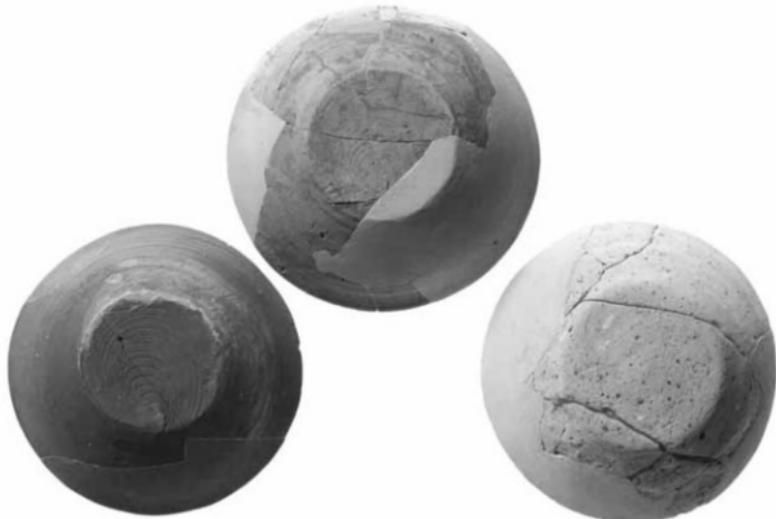
第72図16～21 S T 2691 出土遺物（左上より）



第73図1～6 S D 2677 出土遺物（左上より）



第74図1～4 SD 2648出土遺物（左上より）



第74図5～7 SD 2648出土遺物（左上より）

SD 2648出土遺物

写真図版 24



第74図1 須恵器 基



第74図2 須恵器 基



第74図5 須恵器 基



第74図6 須恵器 基



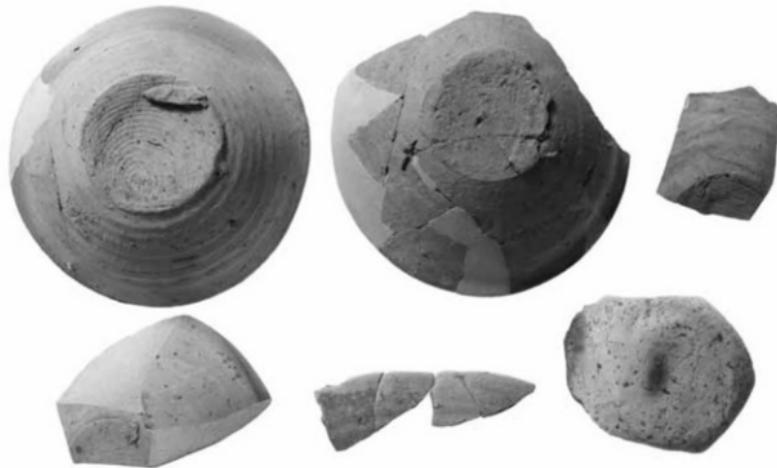
第74図7 須恵器 基



第74図8 須恵器 基



第74図9 須恵器 基



第74図8～13 SD 2648出土遺物（左上より）



第74図14～15 SD 2648  
第75図1 SD 2646出土遺物（左上より）



第74図16 SD 2648出土 須恵器 薺



第75図7 須恵器 薺



第75図2 須恵器 坏

SD 2648・2687出土遺物

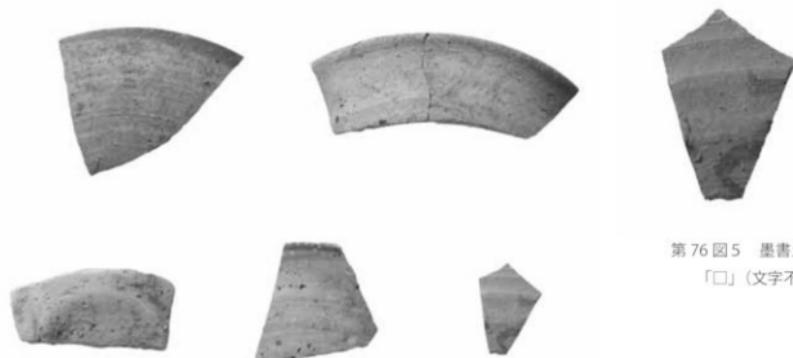
写真図版27



第75図8 SK 2660出土 土師器 瓢



第75図9 SK 2660出土 土師器 瓢

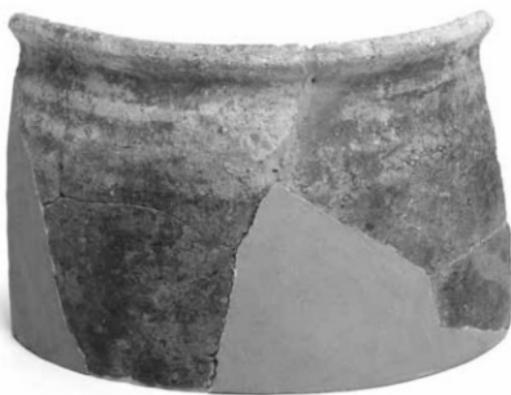


第76図5 墓書土器  
「□」(文字不明)

第76図1～5 SK 2684出土遺物(左上より)



第76図7 EU 1216出土 土師器 罐



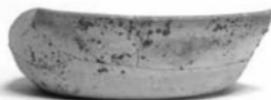
第76図6 EU 1216出土 土師器 瓢



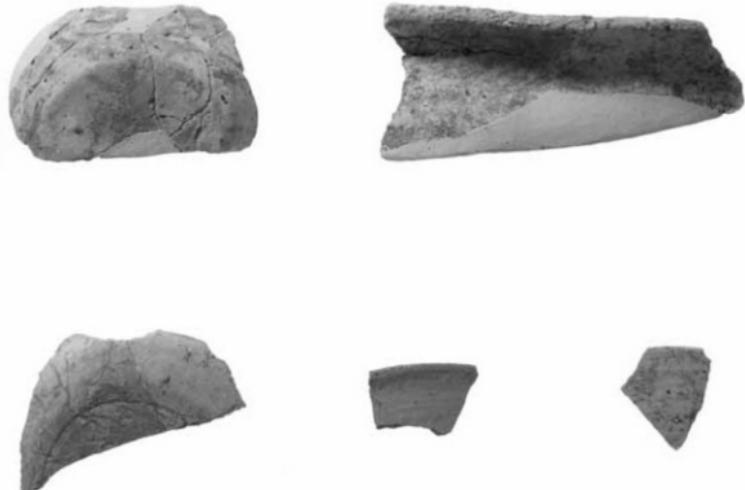
第76図8 EU 1216出土 土師器 瓶  
土坑・ピット出土遺物  
写真図版 30



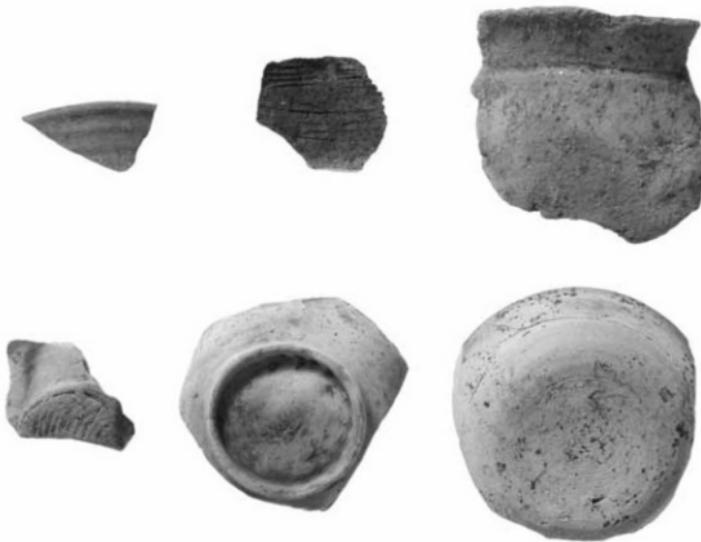
第76図18 EP 178出土 黒色土器 坏



第76図19 EP 208出土 須恵器 坏



第76図9～13 出土遺物（左上より）



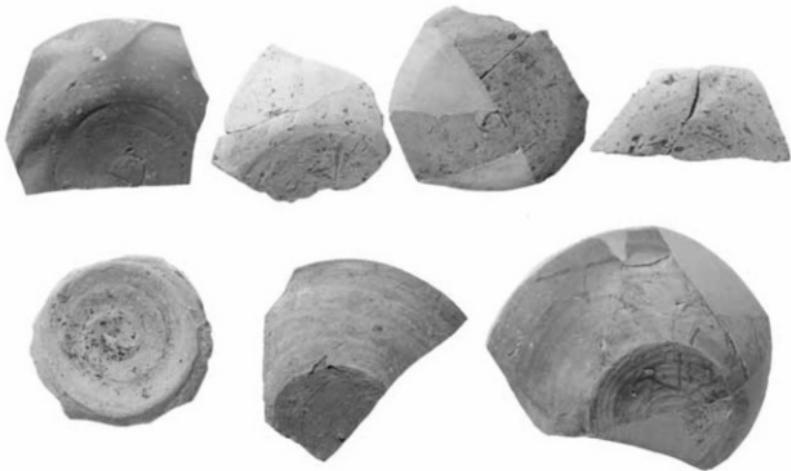
第76図14～19 出土遺物（左上より）

土坑・ピット出土遺物

写真図版31



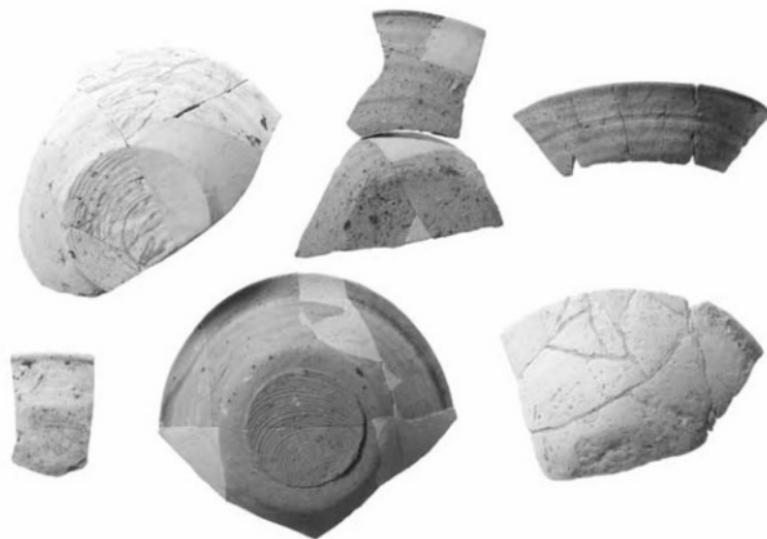
第77図1～3 木柱・部材（手前よりより）



第78図1～7 遺構外出土遺物（左上より）

木製品・遺構外出土遺物

写真図版 32



第78図8～13 遺構外出土遺物（左上より）



第78図11 墨書き土器

「□」（文字不明）



第78図7 須恵器 壺



第78図8 須恵器 壺



第78図12 須恵器 壺

A区遺構外出土遺物

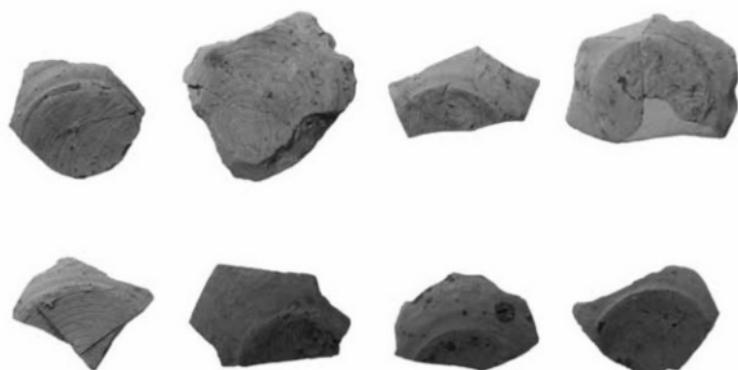
写真図版33



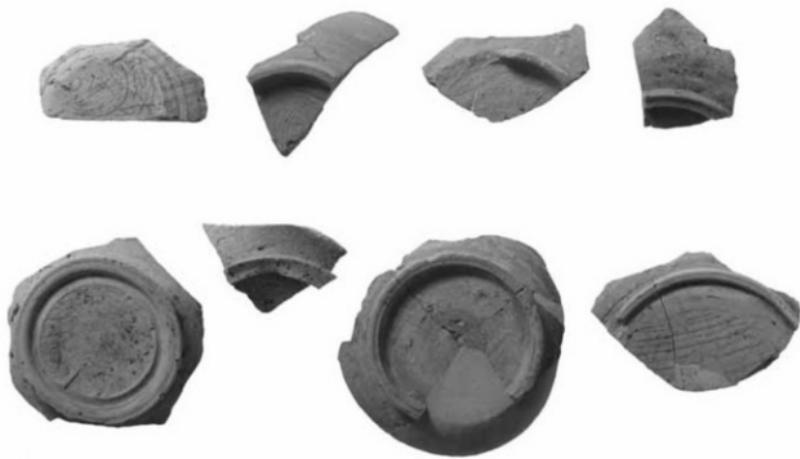
第78図14～21 遺構外出土遺物（左上より）



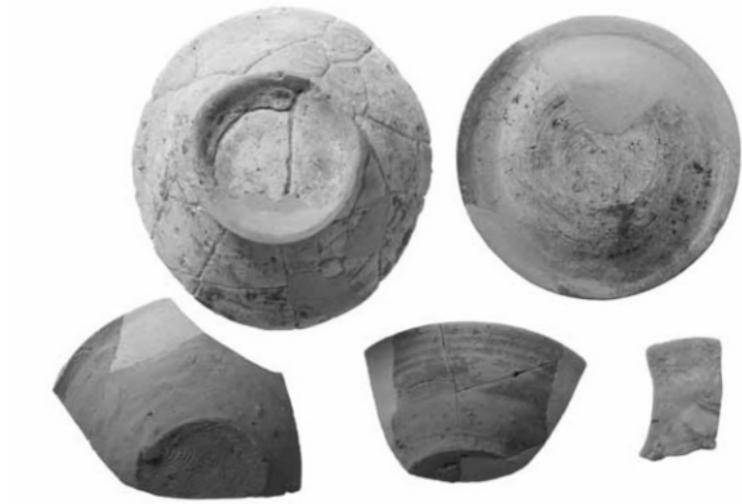
第78図22～24 第79図1～5 遺構外出土遺物（左上より）



第79図6～13 遺構外出土遺物（左上より）



第79図14～21 遺構外出土遺物（左上より）



第79図22～26 遺構外出土遺物（左上より）



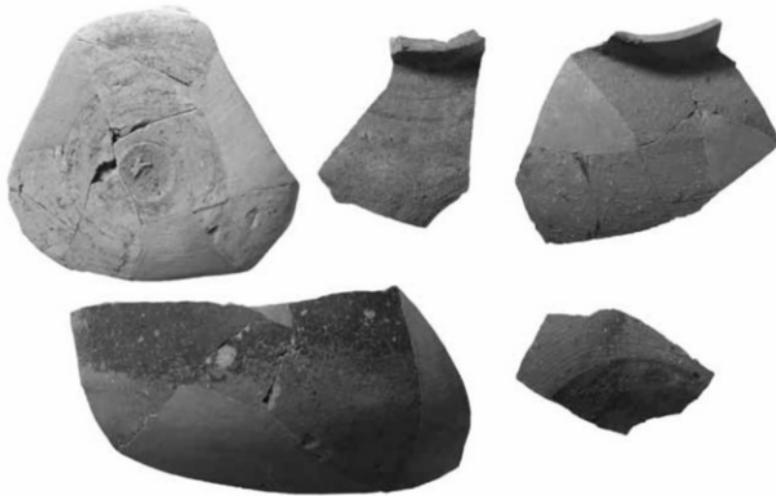
第79図27～31 第80図1～3 遺構外出土遺物（左上より）

A区遺構外出土遺物

写真図版 36



第 80 図 4～8 遺構外出土遺物（左上より）



第 80 図 9・11～14 遺構外出土遺物（左上より）

A 区遺構外出土遺物

写真図版 37



第79図22 須恵器 高台坏



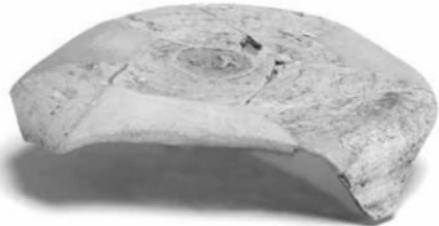
第79図23 須恵器 盤



第80図7 須恵器 蓋



第80図8 須恵器 蓋



第80図9 須恵器 蓋



第80図10 須恵器 耳付壺



第80図15～20 遺構外出土遺物（左上より）



第81図2 土師器 薩



第81図4 土師器 薩



第81図13 磁器 小碗



第 80 図 21～23 第 81 図 1～2 遺構外出土遺物（左上より）



第 81 図 5～7、9～12 遺構外出土遺物（左上より）



第82図2 研石



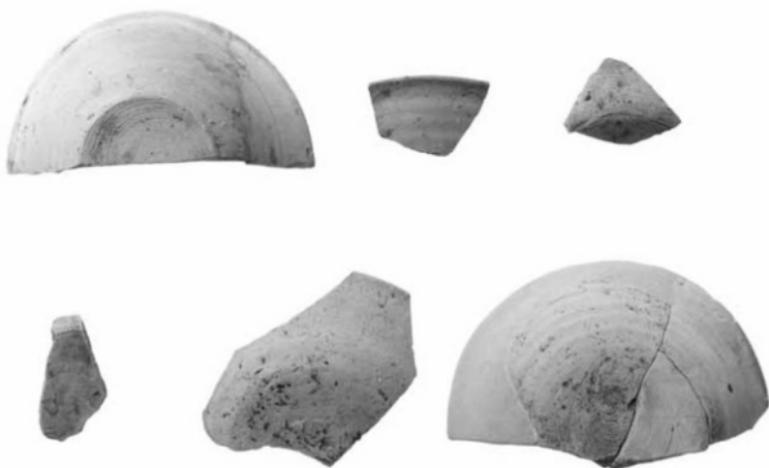
第82図4 木製品



第82図1 長頸瓶



第82図3 木製品（柄？）



第83図1～6 SE3020出土遺物（左上より）



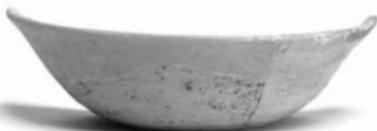
第83図8～12 SE3020出土遺物（左上より）



第83図1 須恵器 坯



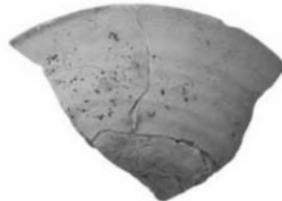
第83図15 土錐



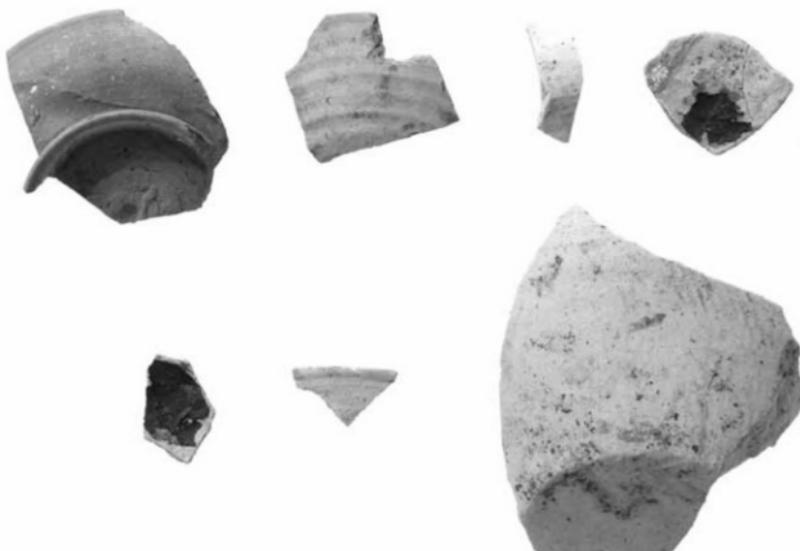
第83図6 須恵器 坯



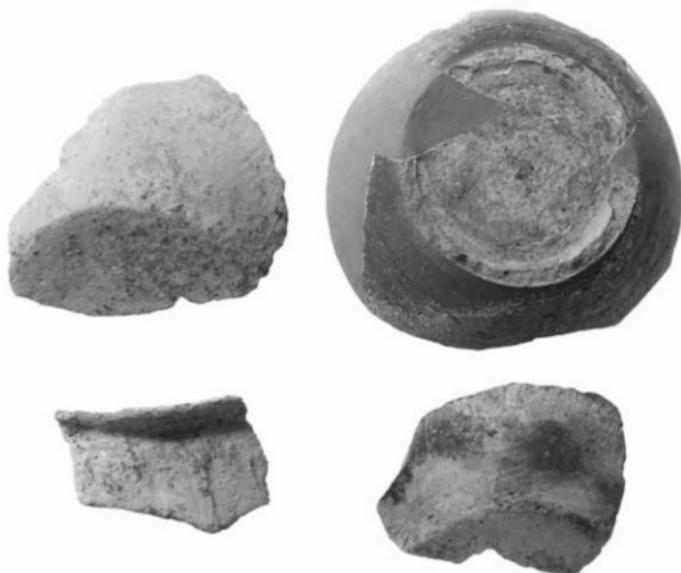
第83図13・14 土師器 鑊



第83図16～20 SE3355 出土遺物（左上より）



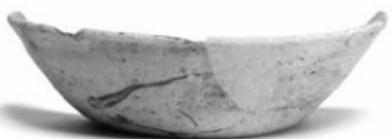
第83図21 第84図1～6 SE3355出土遺物（左上より）



第84図7～10 SE3355出土遺物（左上より）

B区遺井戸跡出土遺物

写真図版45



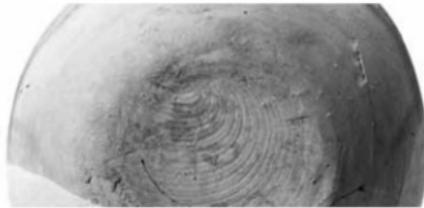
第 83 図 20 須恵器 坯



第 84 図 11 須恵器 坯



第 84 図 17 串状木製品



第 84 図 12 墨書き土器「常」

B区遺井戸跡出土遺物

写真図版 46



第 85 図 1・3 出土遺物



第 85 図 5～9 出土遺物



第 85 図 2 土師器 褶

第 85 図 10 須恵器 長頸瓶

B 区土坑出土遺物

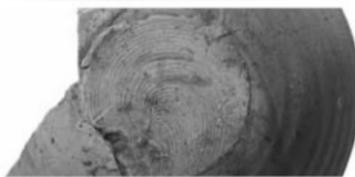
写真図版 47



第 85 図 11~13 出土遺物



第 85 図 14~17 出土遺物



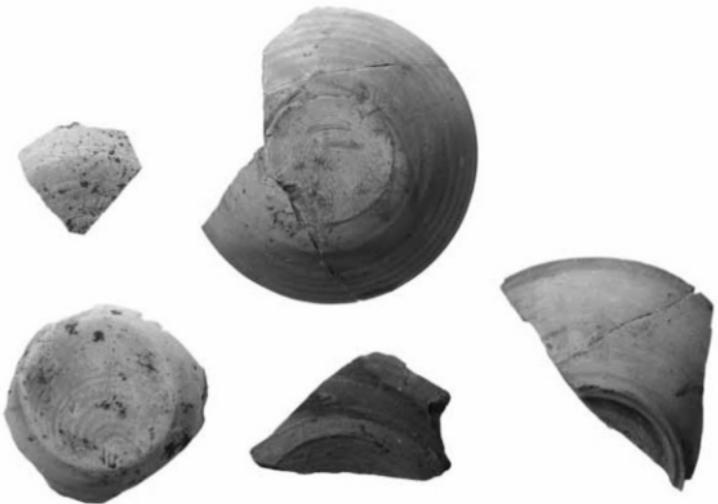
第 86 図 2 墓書土器「王」カ



第 86 図 12 土師器 瓢

B区土坑出土遺物

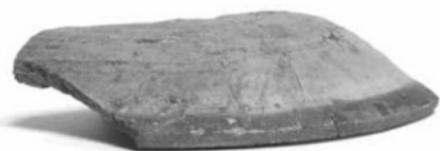
写真図版 48



第 86 図 1～5 須恵器 环



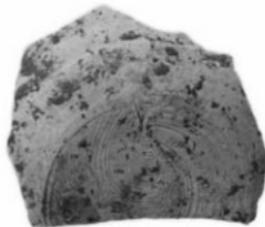
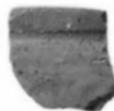
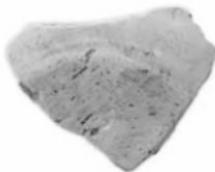
第 86 図 8～11・13～15 出土遺物



第 86 図 17 出土遺物



第 86 図 16~18 出土遺物



B区土坑・ピット出土遺物  
写真図版 50

第 87 図 1~4 出土遺物



第87図5～7・9・10 出土遺物



第87図8 出土遺物

B区ピット出土遺物

写真図版51



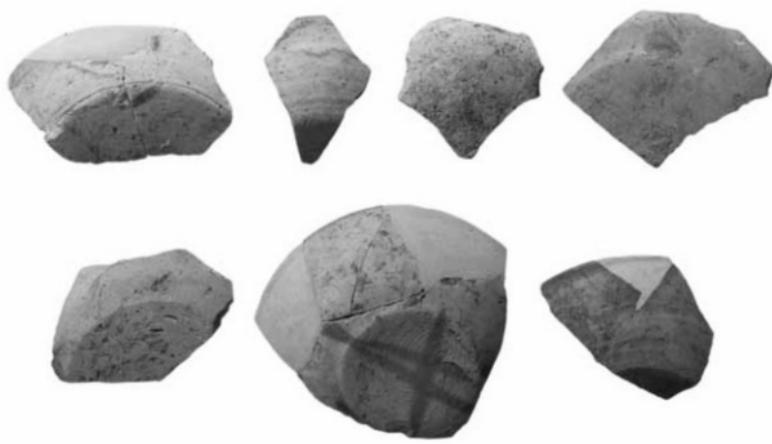
第 87 図 9 須恵器 壕



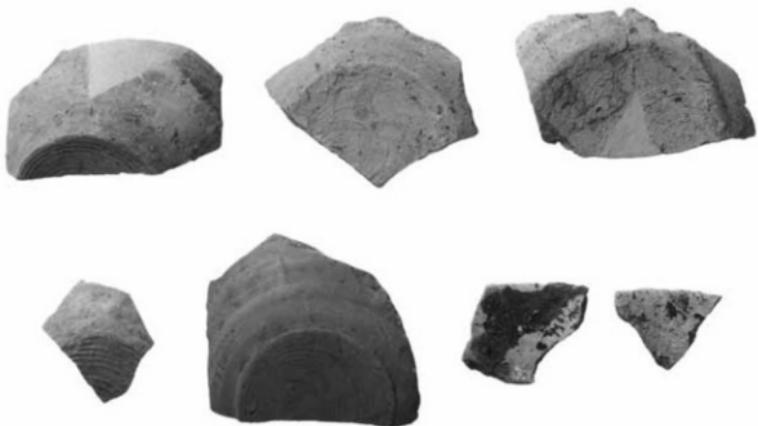
第 87 図 10 墨書き土器「三」



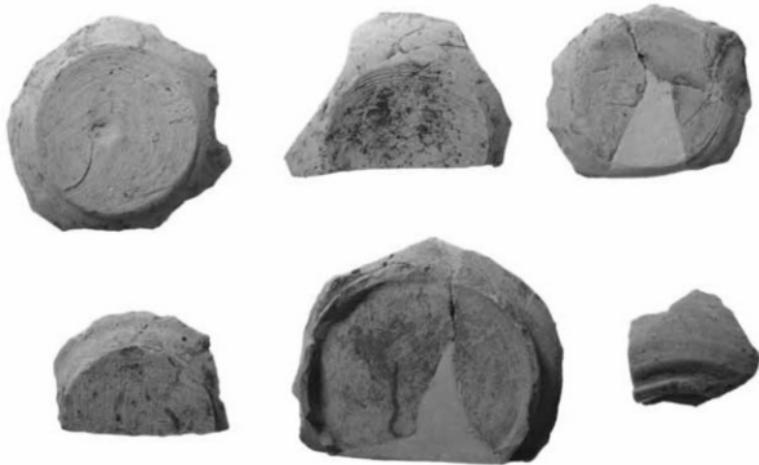
第87図11～13 須恵器 壕



第88図1～7 須恵器 壕



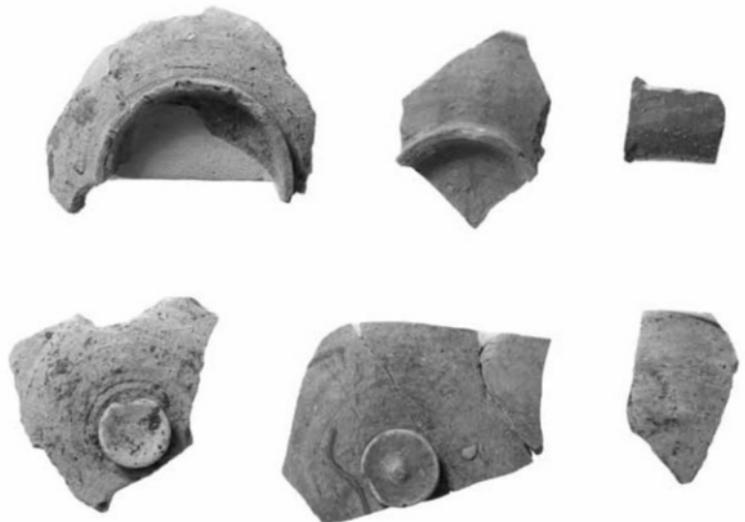
第88図8～14 須恵器 坯



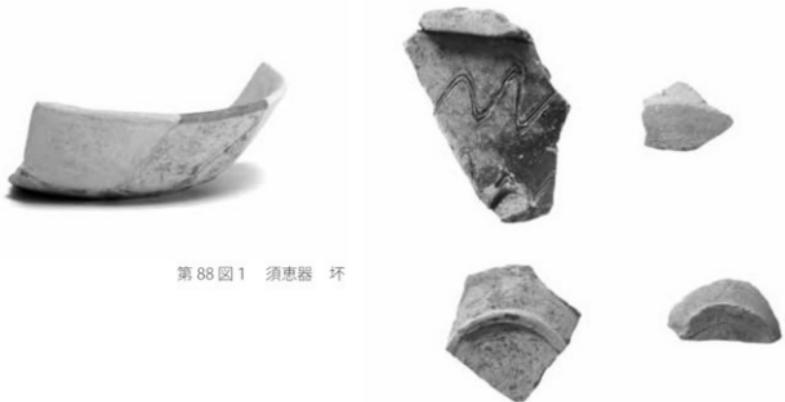
第88図15～20 須恵器 坯

B区遺構外出土遺物

写真図版 54

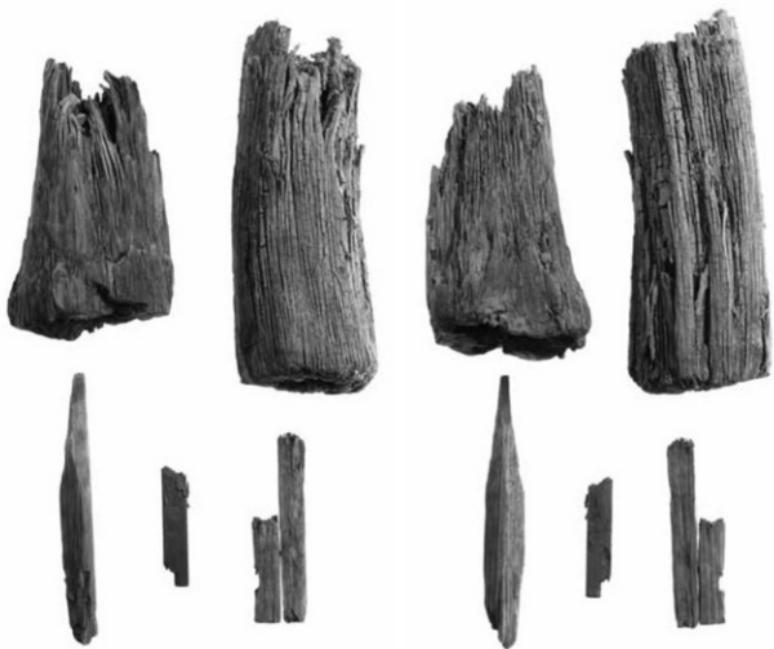


第88図21～23 第89図1～3 出土遺物



第88図1 須恵器 坯

第89図4～7 出土遺物



第 89 図 8～12 木製品



第 90 図 11 須恵器 蓋

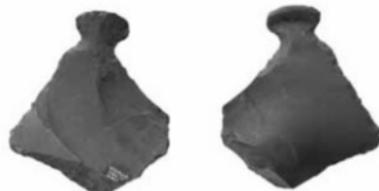
第 90 図 1～4 出土遺物

B 区木製品・C 区出土遺物

写真図版 56



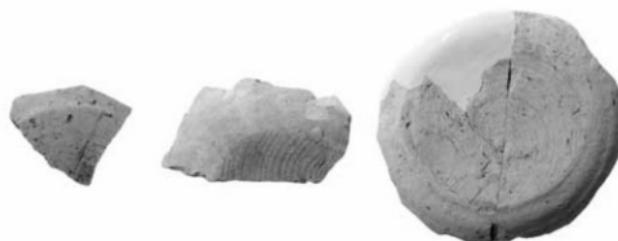
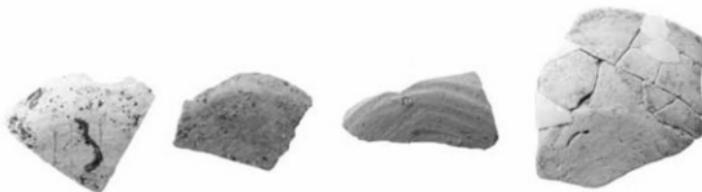
第90図5～10 出土遺物



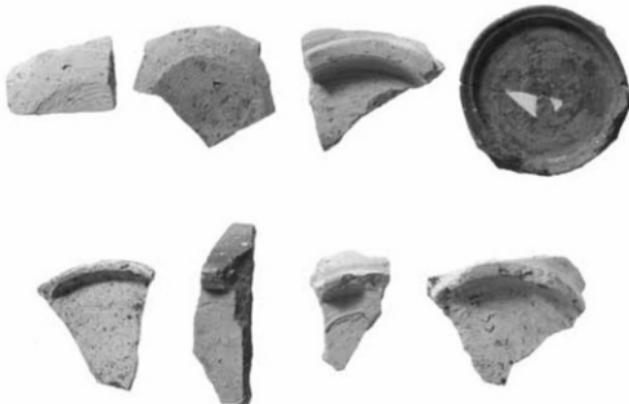
第90図12 石匙



第90図14 墨書き器「X」



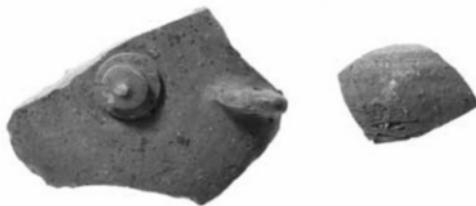
第90図13～19 須恵器 环  
C区出土遺物  
写真図版57



第90図20～21 第91図1・3～6 須恵器 壊



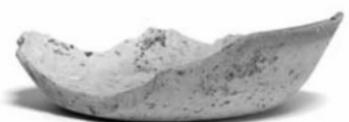
第91図2・8～13 出土遺物



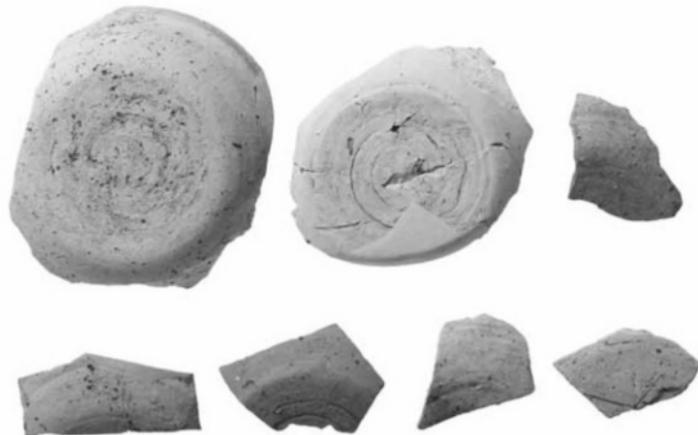
第91図14～15 出土遺物

C区遺構外出土遺物

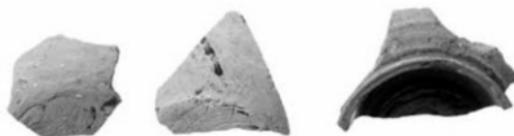
写真図版 58



第91図16 須恵器 壁



第91図16～20 第92図1～2 須恵器 壁



第92図3～9 須恵器 壁

D区遺構外出土遺物

写真図版 59



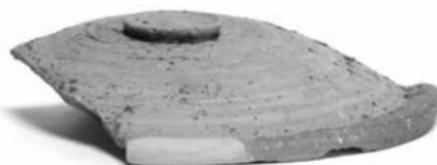
第92図10～15 須恵器 坯



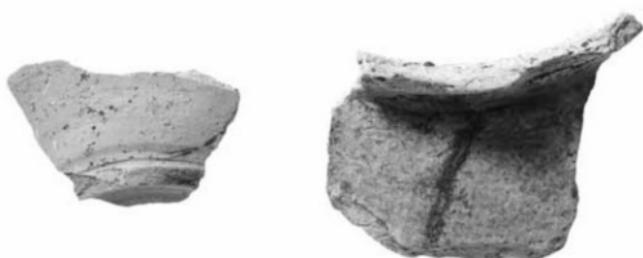
第92図16～20 須恵器

D区遺構外出土遺物

写真図版 60



第92図17 須恵器 蓋



第92図21～24 出土遺物



報告書抄録

南陽市埋蔵文化財調査報告書第 12 集

## 唐越遺跡

2016 年 3 月 31 日

発行 南陽市教育委員会  
〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地 1  
電話 0238-40-3211 ㈹

印刷 南陽印刷株式会社  
〒 999-2231 山形県南陽市二色根 5 番地 11  
電話 0238-43-3028









